

第 132 回
火山噴火予知連絡会資料

(その 9)

関東・中部地方

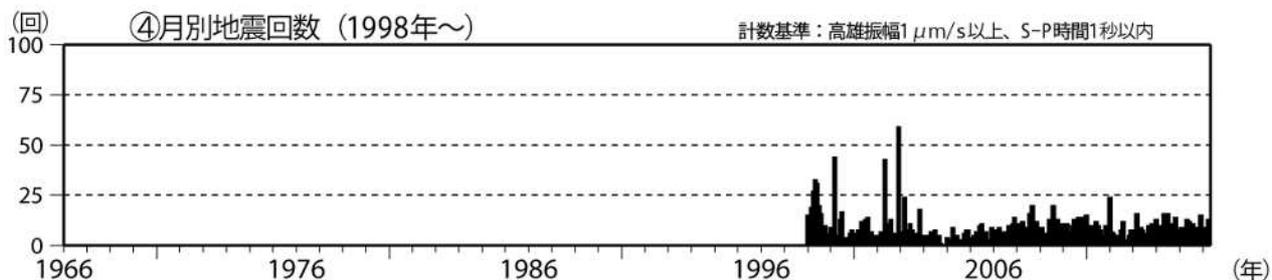
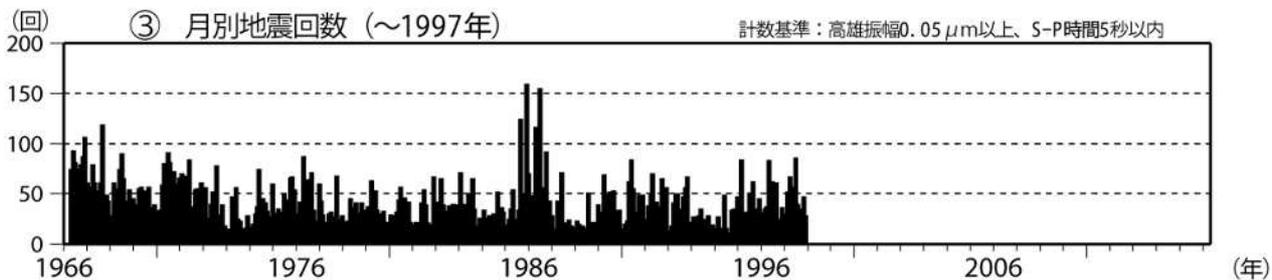
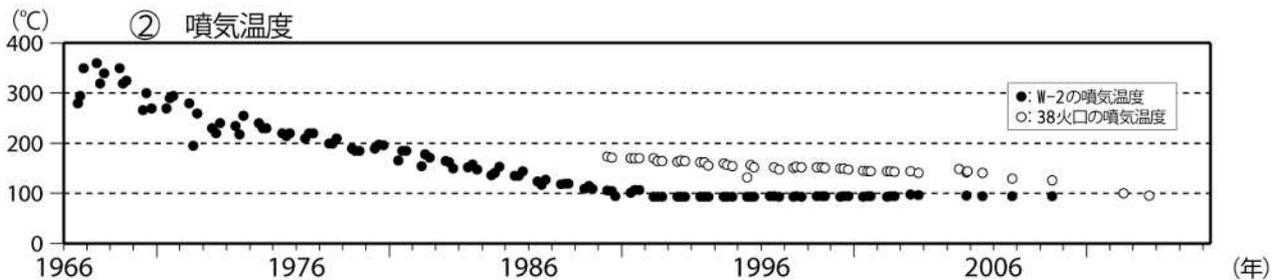
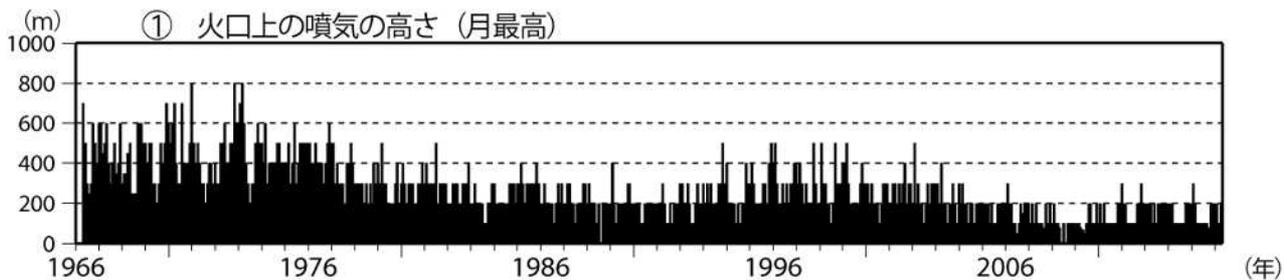
平成 27 年 6 月 15 日

火山噴火予知連絡会資料（その9）

目次

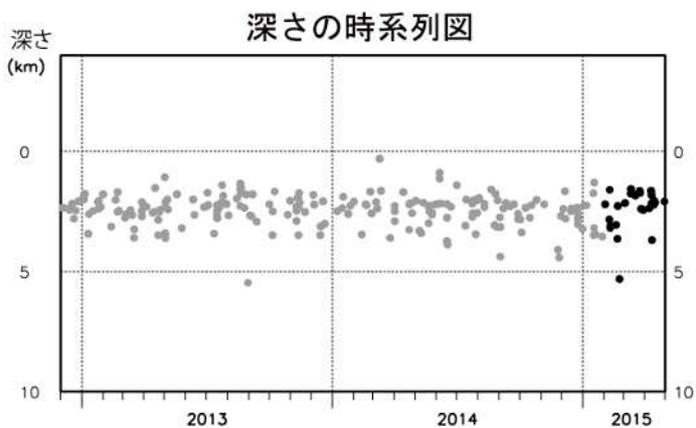
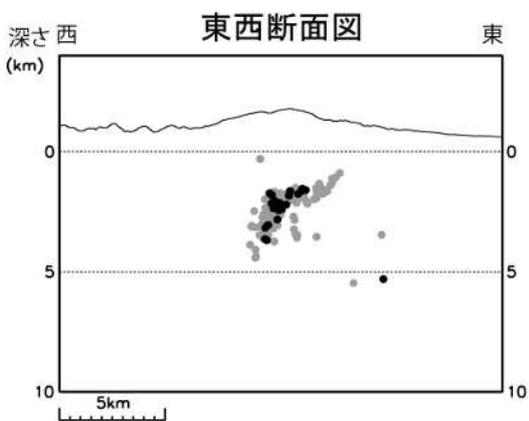
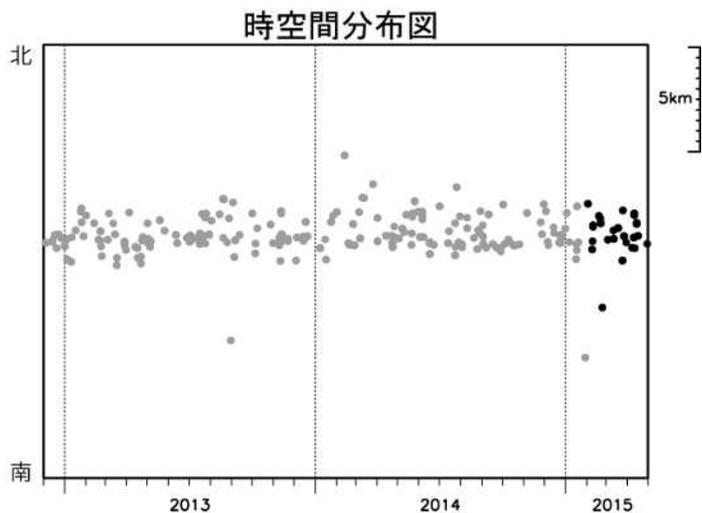
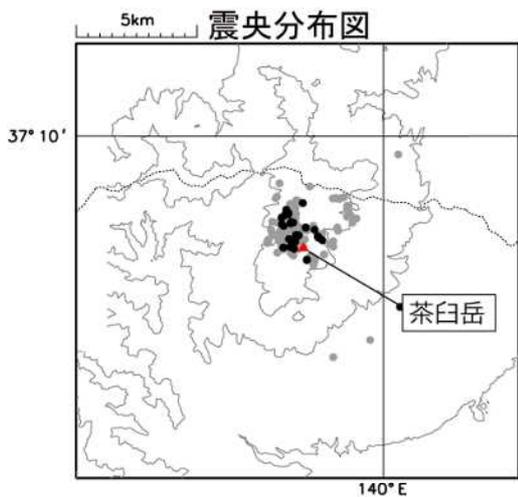
関東・中部地方

那須岳	3
気象庁 3-7、防災科研 8-9	
日光白根山	10
気象庁 10-14	
新潟焼山	15
気象庁 15-18	
弥陀ヶ原	19
気象庁 19-20	
焼岳	21
気象庁 21-27	
乗鞍岳	28
気象庁 28-31	
白山	32
気象庁 32-33	
富士山	34
気象庁 34-41、防災科研 42-49、地理院 50-53	
伊豆東部火山群	54
気象庁 54-59、地理院 60-63	
その他	64
地理院 64	



第 3 図 那須岳 火山活動経過図 (1966 年 1 月 ~ 2015 年 4 月 30 日)

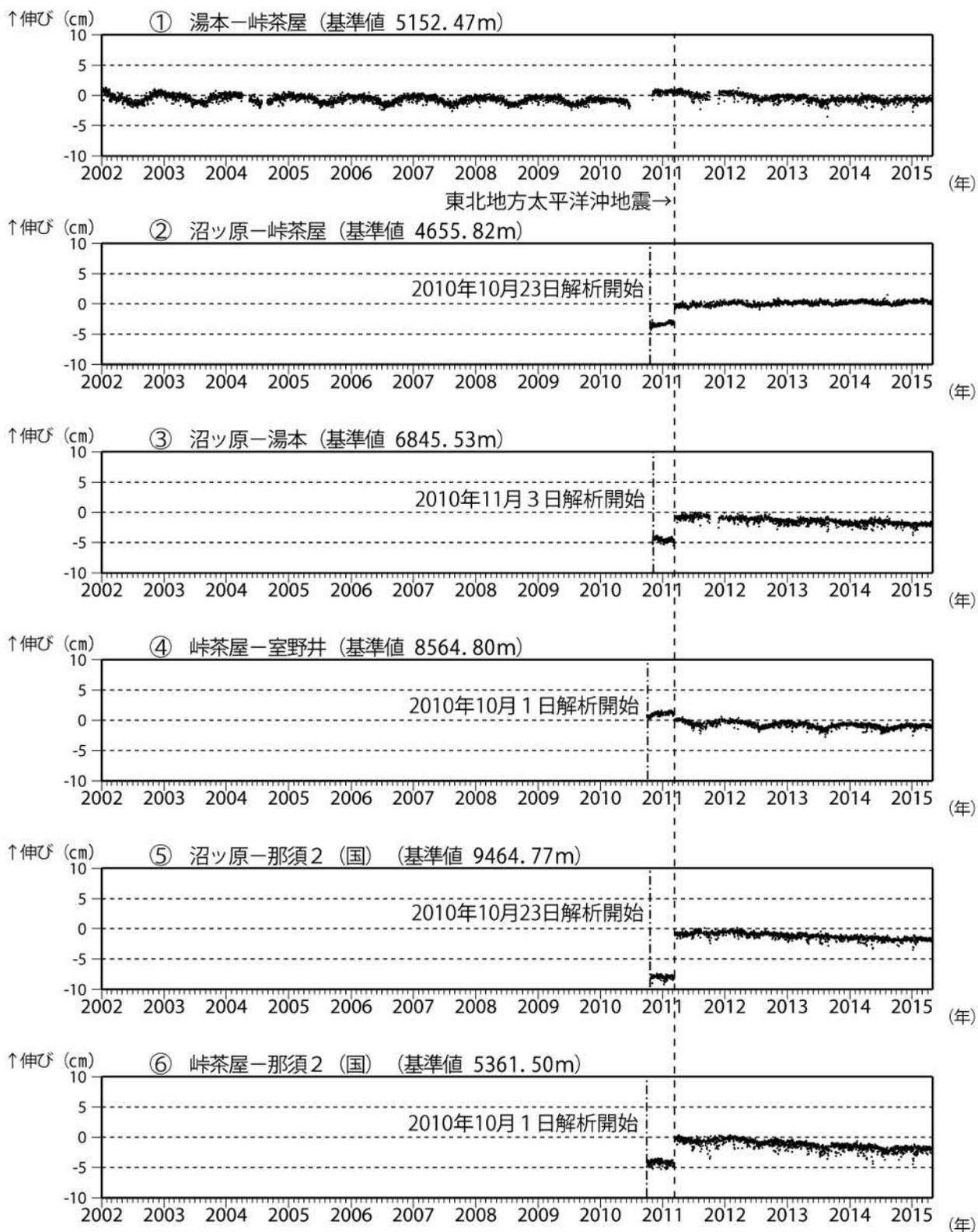
- 定時観測 (09 時・15 時) の最大値
- 茶臼岳西側斜面の温度観測定点
- 那須岳周辺の地震を含む (高雄観測点 S-P 5 秒)
- 山体付近の地震 (高雄観測点 S-P 1 秒)



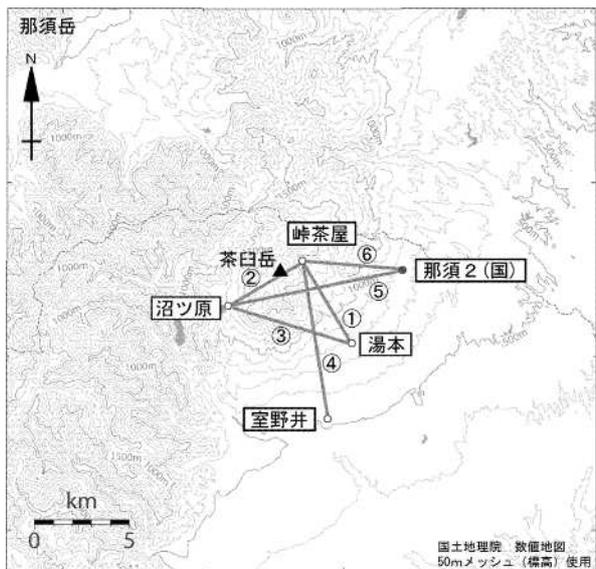
: 2012 年 12 月 1 日 ~ 2015 年 1 月 31 日 : 2015 年 2 月 1 日 ~ 2015 年 4 月 30 日

第 4 図 那須岳 山体周辺の観測点による震源分布図 (2012 年 12 月 1 日 ~ 2015 年 4 月 30 日)
火山性地震は少ない状態で経過した。震源は山頂直下のごく浅い所に分布した。

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 25000(行政界・海岸線)』および『数値地図 50mメッシュ (標高)』を使用した。



第 5 図 那須岳 GNSS 連続観測による基線長変化 (2002 年 1 月 1 日 ~ 2015 年 4 月 30 日)
 観測点配置図は第 1 図を参照。(国): 国土地理院
 2010 年 10 月以降のデータについては解析方法を改良し、対流圏補正と電離層補正を行っている。
 火山活動によるとみられる地殻変動は認められない。
 2011 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震の影響により、データに飛びがみられる。
 グラフ番号 ~ は第 6 図の GNSS 基線 ~ に対応している。
 グラフの空白期間は欠測を示す。



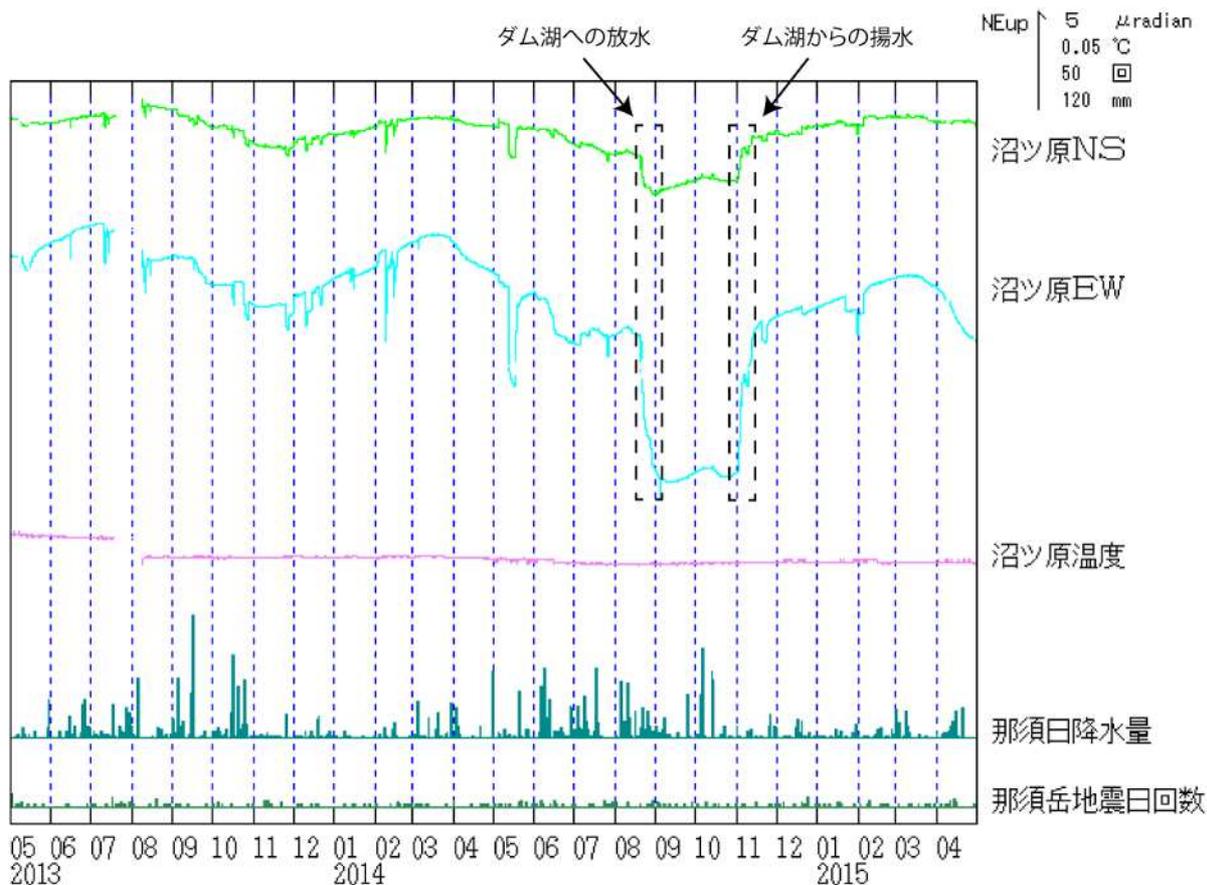
第 6 図 那須岳 GNSS 連続観測点配置図

小さな白丸 () は気象庁、小さな黒丸 () は気象庁以外の機関の観測点位置を示す。

(国): 国土地理院

図中の GNSS 基線 ~ は第 5 図の ~ に対応する。

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 25000 (行政界・海岸線)』および『数値地図 50mメッシュ (標高)』を使用した。



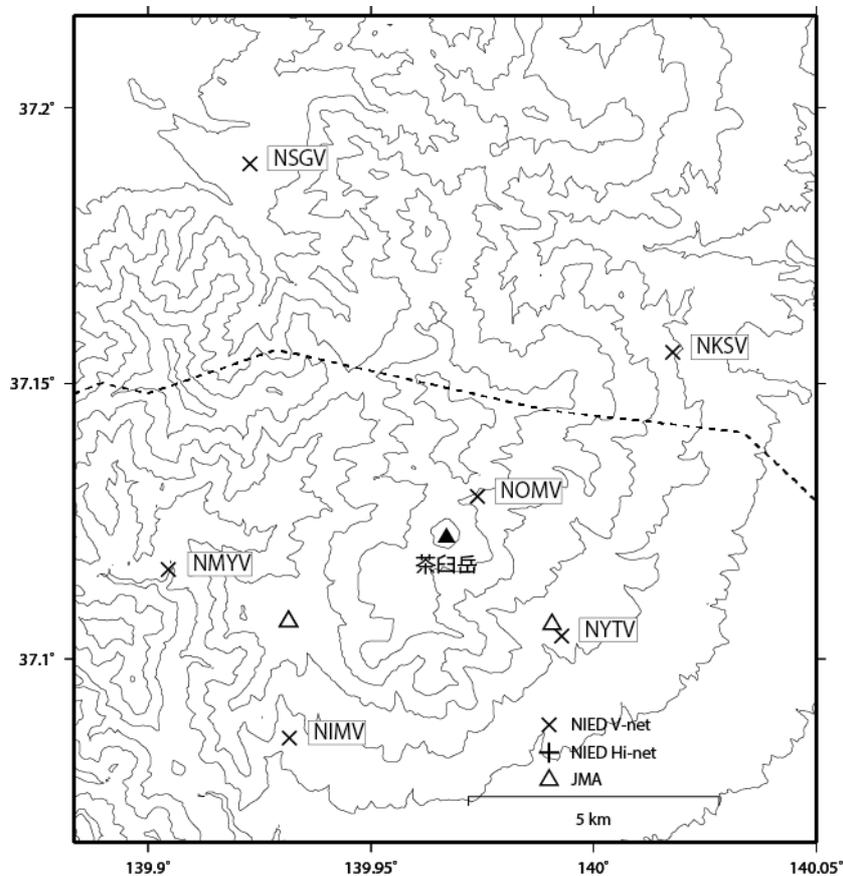
第 7 図 那須岳 沼ツ原観測点における傾斜変動

(2013 年 5 月 1 日 ~ 2015 年 4 月 30 日、時間値、潮汐補正済み)

火山活動によるとみられる傾斜変動は認められない。

グラフの空白期間は欠測を示す。

那須岳の火山活動について



この地図の作成にあたっては、国土地理院発行の数値地図 50mメッシュ（標高）を使用した。

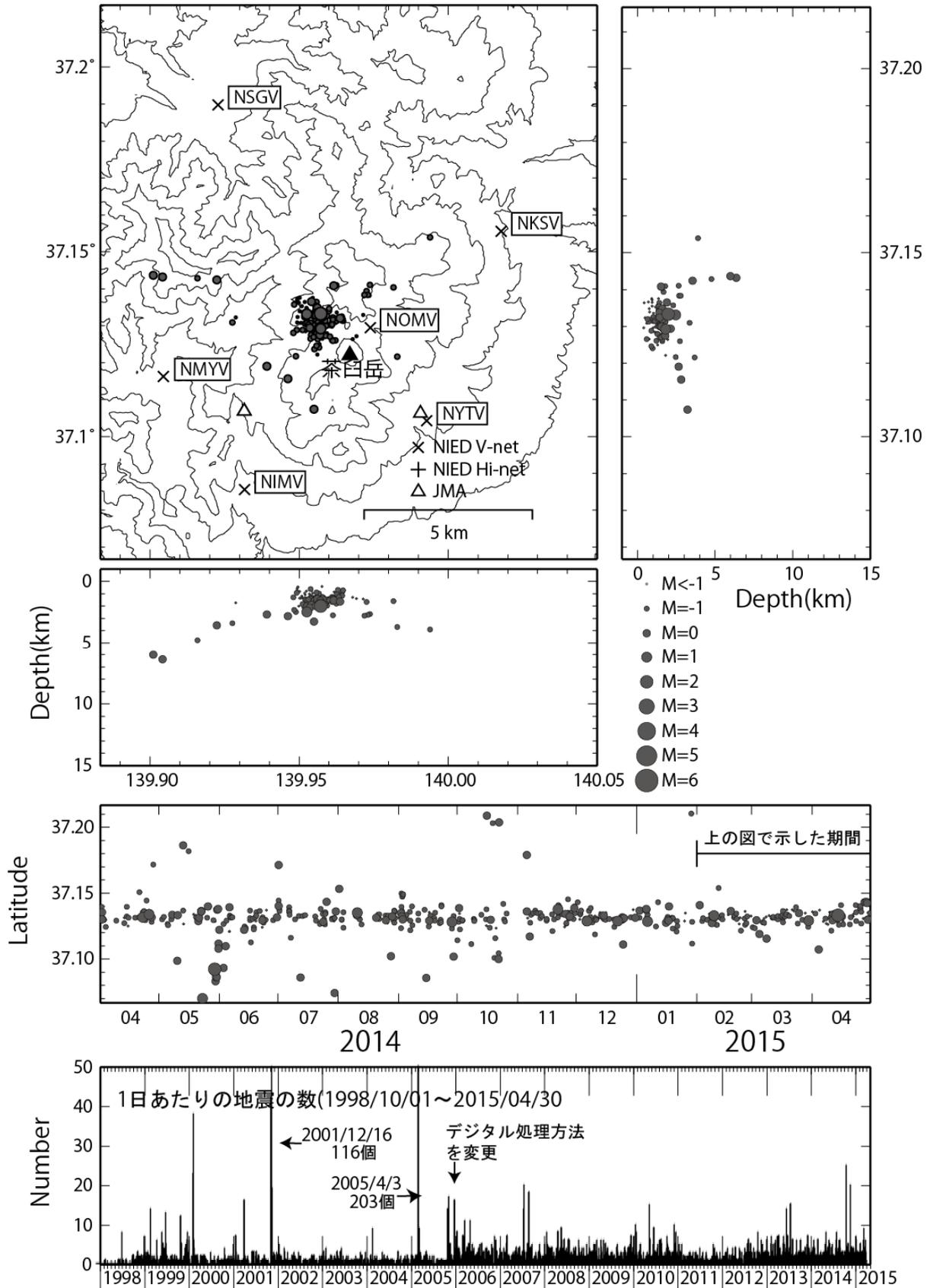
NOMV, NMYV, NIMV, NYTV, NKSV, NSGV=地震計(短周期)

資料概要

○ 地殻変動・地震活動

火山活動に関連するような顕著な地震活動は認められなかった。

那須岳の地震活動 (2015/02/01~2015/04/30)



震源決定には、気象庁の観測点（位置は図中）も使用した。
 地図の作成にあたっては、国土地理院発行の数値地図 50mメッシュ（標高）を使用した。

図 1 那須岳の地震活動 (2015/02/01~2015/04/30)

那須岳

日光白根山 (2015年4月30日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

概況（2015年2月～2015年4月30日）

・噴気など表面現象の状況（第1図）

^{うたがはま}歌ヶ浜（日光白根山の南東 13 km）に設置してある遠望カメラによる観測では、山頂部に噴気は認められなかった。

・地震活動（第3図、第4図 - ）

日光白根山付近を震源とする火山性地震の発生回数は少なく、地震活動は低調に経過した。

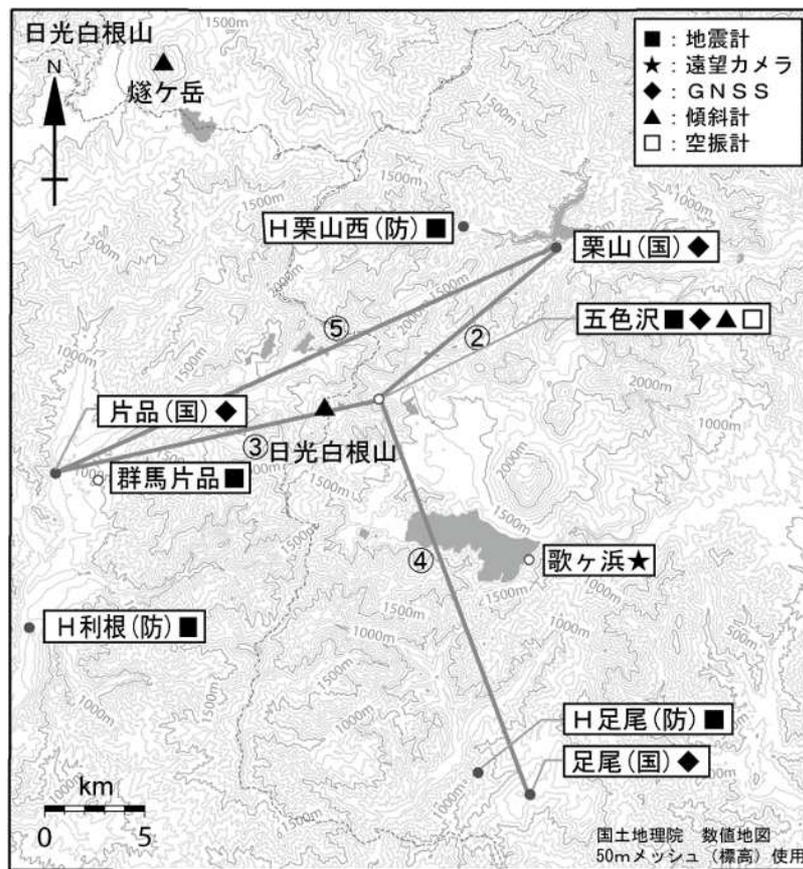
火山性微動は観測されなかった。

・地殻変動（第4図 - ～ 、第5図）

GNSS 連続観測及び傾斜観測では今期間、火山活動によるとみられる地殻変動は認められなかった。



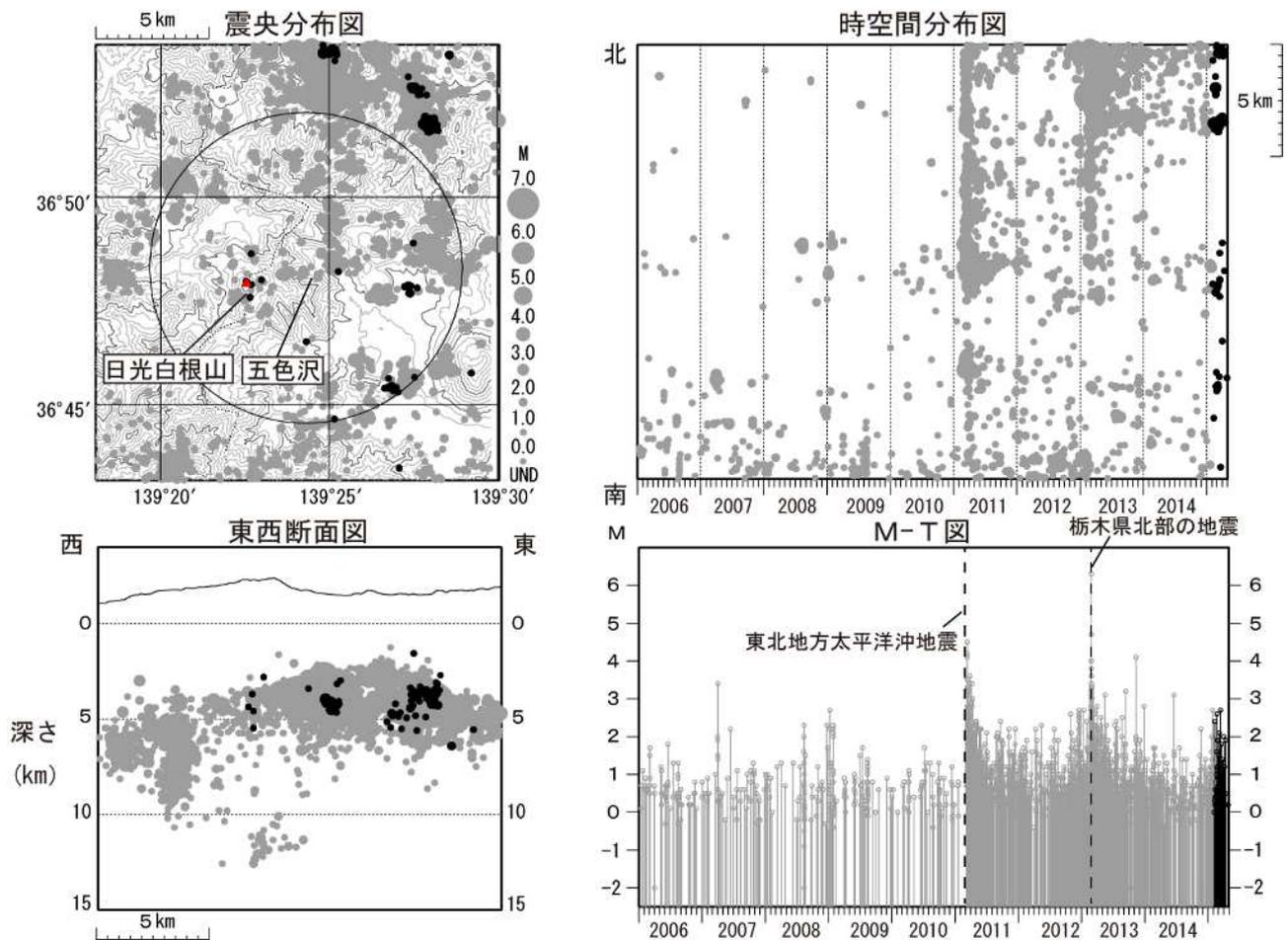
第 1 図 日光白根山 山頂部の状況(2015年4月17日 歌ヶ浜遠望カメラによる)



第 2 図 日光白根山 観測点配置図

小さな白丸 () は気象庁、小さな黒丸 () は気象庁以外の機関の観測点位置を示す。
 (国): 国土地理院、(防): 防災科学技術研究所
 GNSS 基線 ~ は第 4 図の ~ に対応している。

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 25000 (行政界・海岸線)』および『数値地図 50mメッシュ (標高)』を使用した。



第 3 図 日光白根山 一元化震源による山体・周辺の地震活動

(2006 年 1 月 1 日 ~ 2015 年 4 月 30 日)

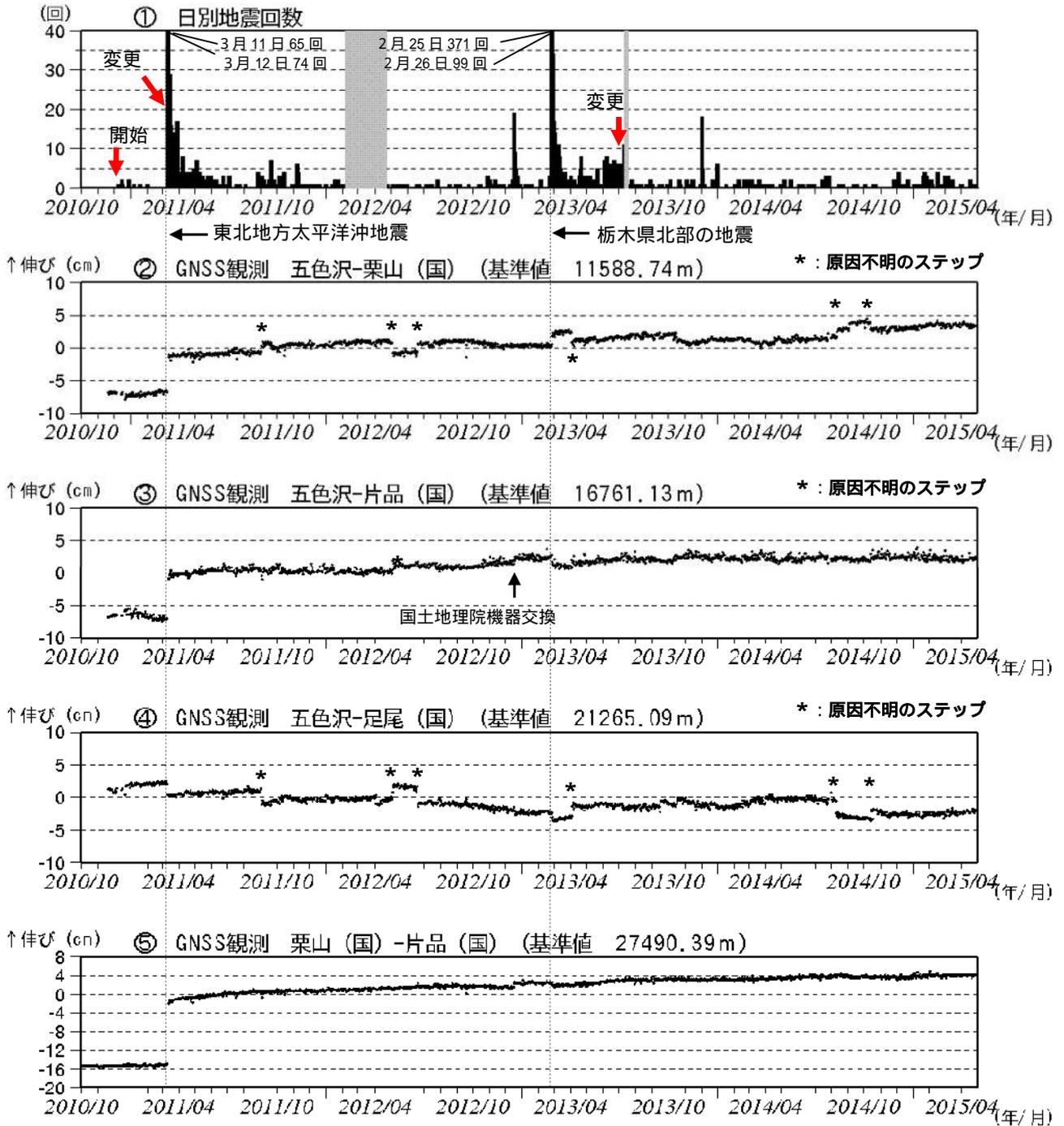
：2006 年 1 月 1 日 ~ 2015 年 1 月 31 日、 ：2015 年 2 月 1 日 ~ 2015 年 4 月 30 日

- ・ 日光白根山付近を震源とする火山性地震の発生回数は少なく、地震活動は低調に経過した。
- ・ マグニチュードは一部暫定値が含まれており、後日変更することがある。
- ・ 震央分布図中の円は第 4 図 - の計数対象地震(五色沢で S - P 時間 1 秒以内)のおよその範囲を示す。

この図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 25000 (行政界・海岸線)』及び『数値地図 50mメッシュ (標高)』を使用した。

計数基準変更
 開始 2010年12月10日～2011年3月10日
 変更 2011年3月11日～2013年6月30日
 変更 2013年7月1日～

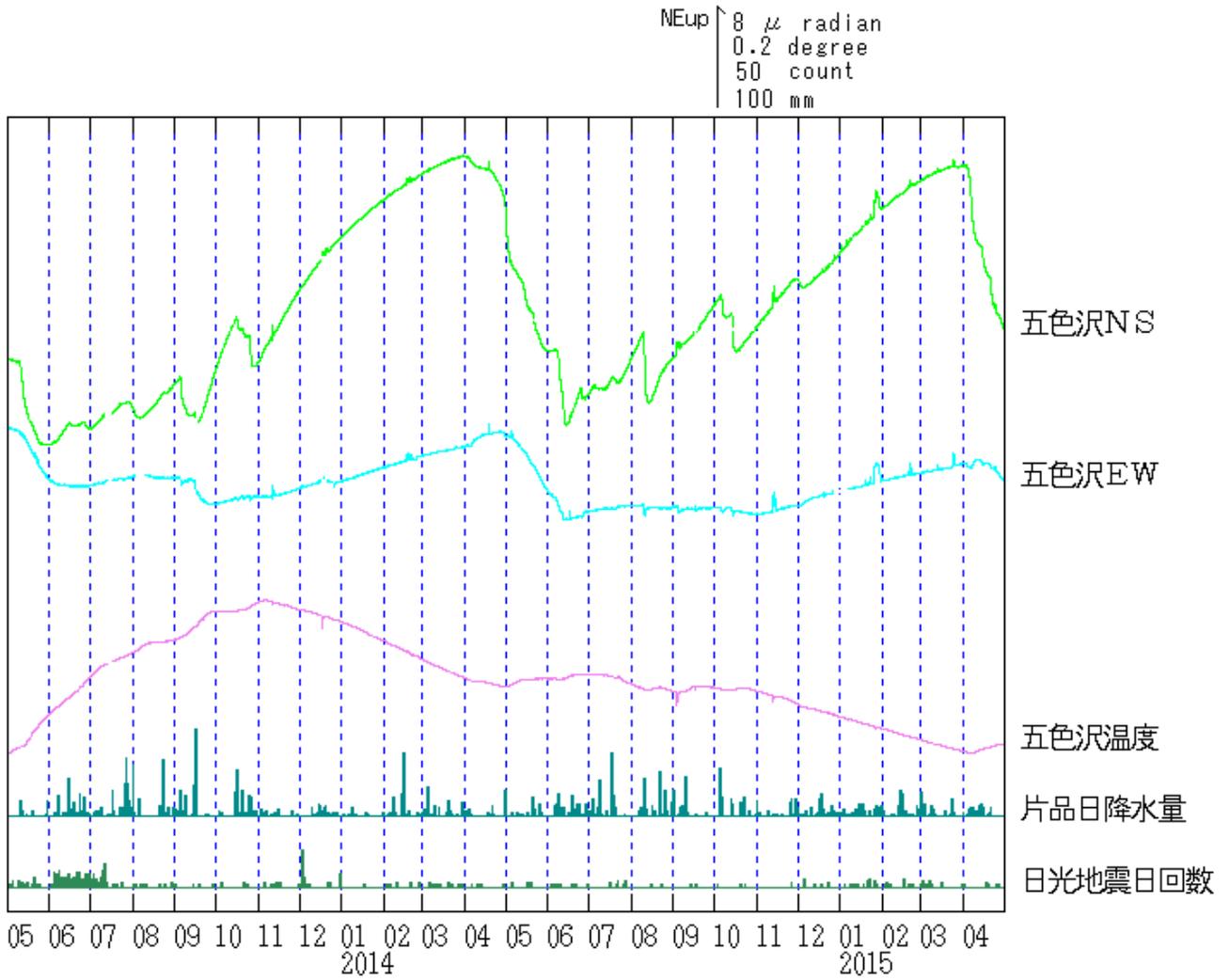
計数基準：五色沢振幅 1.0 $\mu\text{m/s}$ 以上、S - P1.5 秒以内
 計数基準：五色沢振幅 10.0 $\mu\text{m/s}$ 以上、S - P1.5 秒以内
 計数基準：五色沢振幅 2.0 $\mu\text{m/s}$ 以上、S - P1.0 秒以内



第 4 図 日光白根山 火山活動経過図 (2010 年 10 月 1 日 ~ 2015 年 4 月 30 日)

日光白根山周辺の日別地震回数

- ・日光白根山付近を震源とする火山性地震の発生回数は少なく、地震活動は低調に経過した。
- ・グラフの灰色部分は機器障害による欠測を示す。
- ～ GNSS 連続観測による基線長変化 (国): 国土地理院
- ・解析に際しては対流圏補正と電離層補正を行っている。
- ・火山活動によるとみられる地殻変動は認められない。
- ・2011 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震及び 2013 年 2 月 25 日に発生した栃木県北部の地震の影響により、データに飛びがみられる。
- ・～ は第 2 図の～ に対応している。グラフの空白部分は欠測を示す。



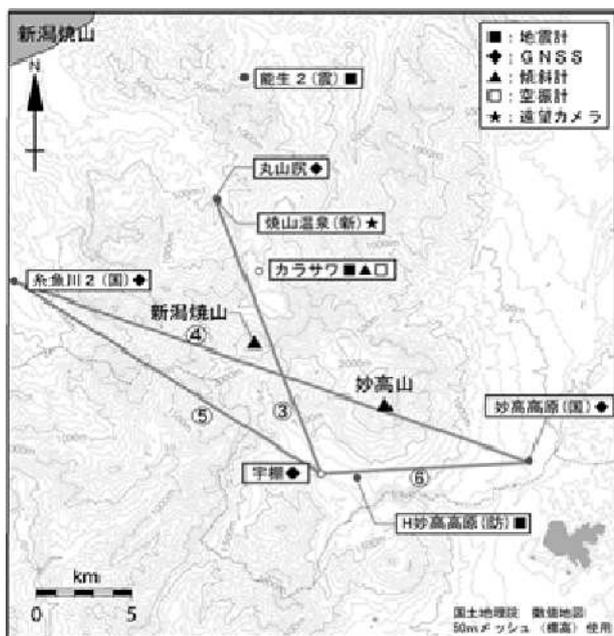
第 5 図 日光白根山 五色沢観測点における傾斜変動
 (2013年5月1日~2015年4月30日、時間値、潮汐補正済み)
 火山活動によるとみられる傾斜変動は認められない。
 空白期間は欠測を示す。

新潟焼山 (2015年4月30日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。
 噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

概況（2015年2月～2015年4月30日）

- ・噴気など表面現象の状況（第2図、第3図- ）
 新潟県土木部砂防課の焼山温泉監視カメラでは、山頂部東側斜面で弱い噴気が時々観測された。噴気活動に特段の変化は認められなかった。
- ・地震活動（第3図- 、第4図）
 新潟焼山付近の地震活動は低調に経過し、火山性微動は観測されなかった。
- ・地殻変動（第3図- ~ 、第5図）
 GNSS 連続観測と傾斜観測では、火山活動によるとみられる地殻変動は認められなかった。



第1図 新潟焼山 観測点配置図

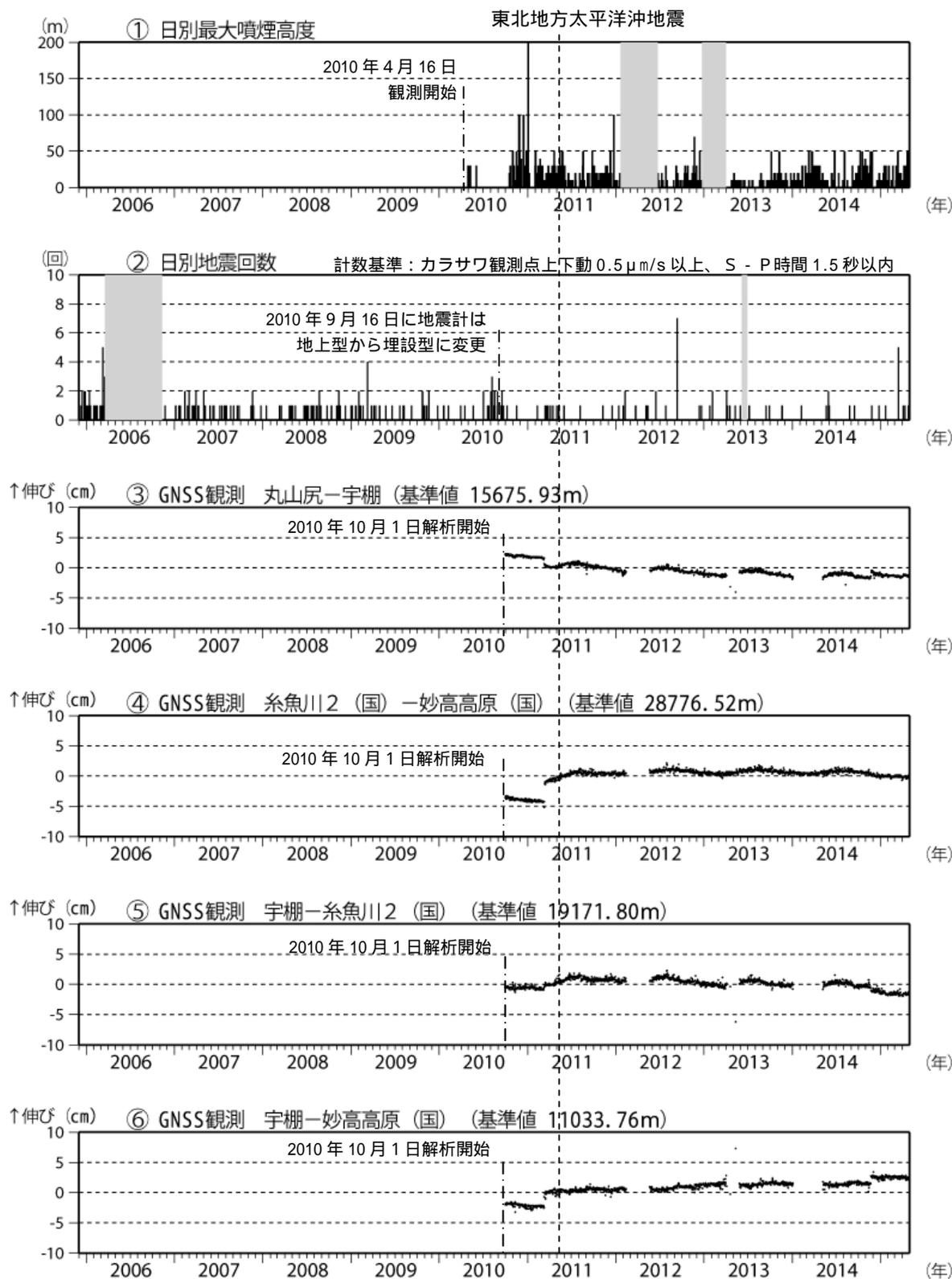


第2図 新潟焼山 山頂部の状況

小さな白丸 () は気象庁、小さな黒丸 () は気象庁以外の機関の観測点位置を示す。 (2015年4月12日 焼山温泉監視カメラによる)

(国): 国土地理院、(防): 防災科学技術研究所、
 (震): 東京大学地震研究所、(新): 新潟県
 GNSS 基線 ~ は第3図の ~ にそれぞれ対応している。
 この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 25000 (行政界・海岸線)』および『数値地図 50mメッシュ (標高)』を使用した。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、京都大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び新潟県のデータを利用して作成した。



第 3 図 新潟焼山 最近の火山活動経過図 (2005 年 12 月 ~ 2015 年 4 月 30 日)

日別最大噴煙高度 (2010 年 4 月 16 日 ~ 2015 年 4 月 30 日)

日別地震回数 (2005 年 12 月 1 日 ~ 2015 年 4 月 30 日)

~ GNSS 連続観測結果 (2010 年 10 月 1 日 ~ 2015 年 4 月 30 日) (国): 国土地理院

・ ~ は第 1 図の ~ に対応している。

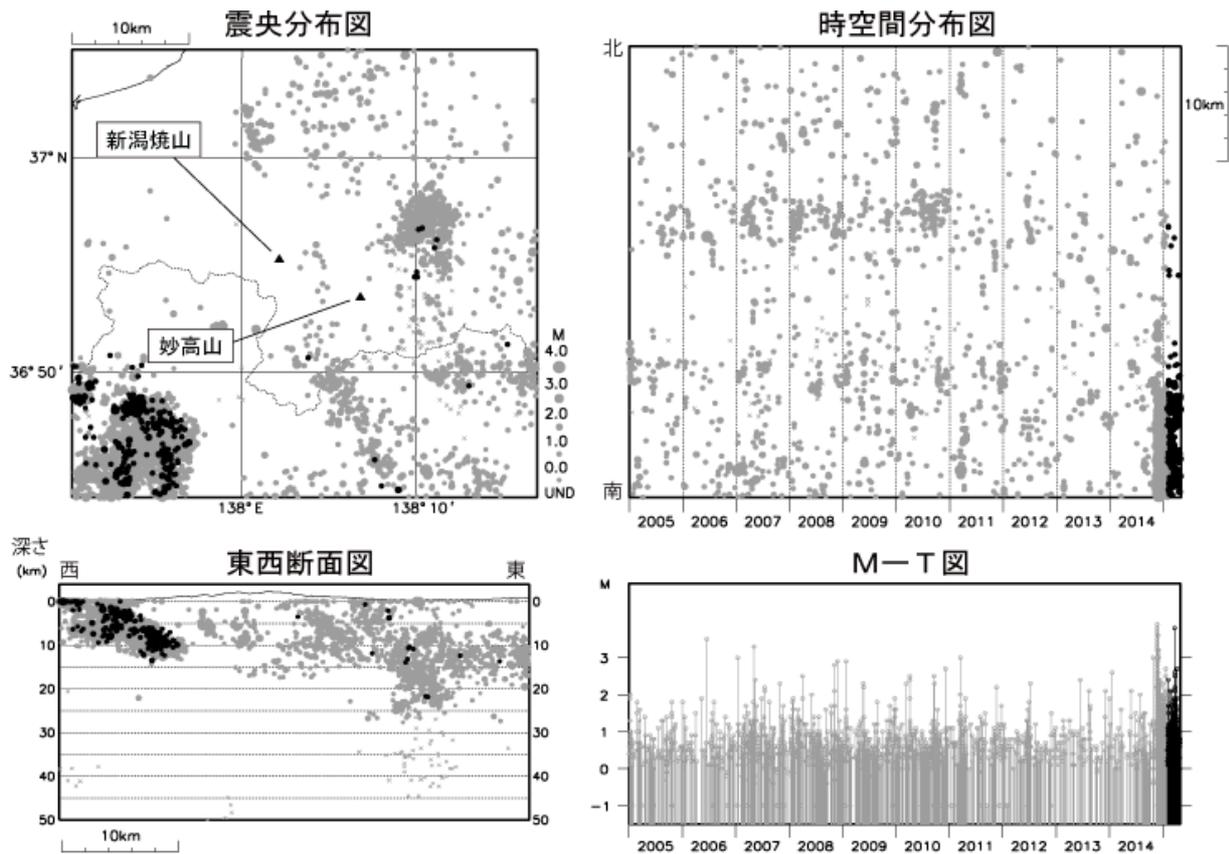
・ 解析に際しては対流圏補正と電離層補正を行っている。

・ 火山活動によるとみられる地殻変動は認められない。

・ 2011 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震の影響により、データに飛びがみられる。

、 のグラフの灰色部分は機器調整による欠測を示す。

のグラフの空白部分は欠測を示す。



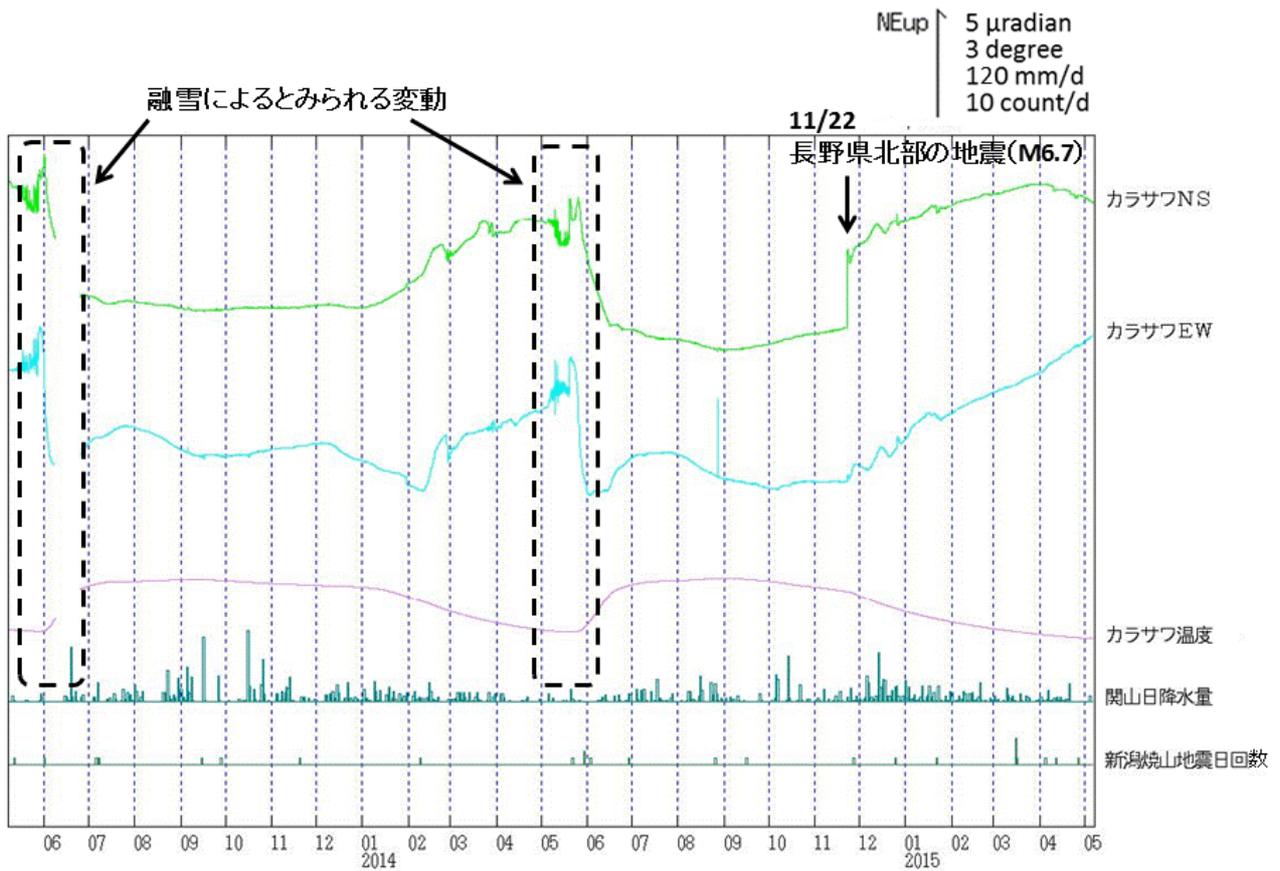
第 4 図 新潟焼山 一元化震源による山体周辺の地震活動(2005 年 1 月 1 日～2015 年 4 月 30 日)

: 2005 年 1 月 1 日～2015 年 1 月 31 日

: 2015 年 2 月 1 日～2015 年 4 月 30 日

× : 深部低周波地震

今期間、新潟焼山周辺で震源が決定された火山活動に関連すると思われる地震は観測されなかった。
 なお、長野県北部を震源とする地震の多くは、2014 年 11 月 22 日 22 時 08 分に発生した長野県北部を震源とする地震（マグニチュード 6.7、最大震度 6 弱）及びその余震活動によるものである。
 この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 25000(行政界・海岸線)』を使用した。



第 5 図 新潟焼山 カラサワ観測点における傾斜変動
 (2013年5月1日~2015年4月30日、時間値、潮汐補正済み)

火山活動によるとみられる傾斜変動は認められない。
 2013年4月15日~6月25日は機器障害によりデータ不安定(空白は欠測期間)

弥 陀 ケ 原 (2015 年 4 月 30 日現在)

弥陀ヶ原近傍の地震は少ない状態で経過している。
 立山地獄谷では以前から熱活動が活発に継続しており、この付近では火山ガスに注意が必要。
 噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

概況（2015 年 2 月～ 4 月 30 日）

- ・地震活動（第 2 図、第 3 図）

弥陀ヶ原近傍の地震は少ない状態で経過している。



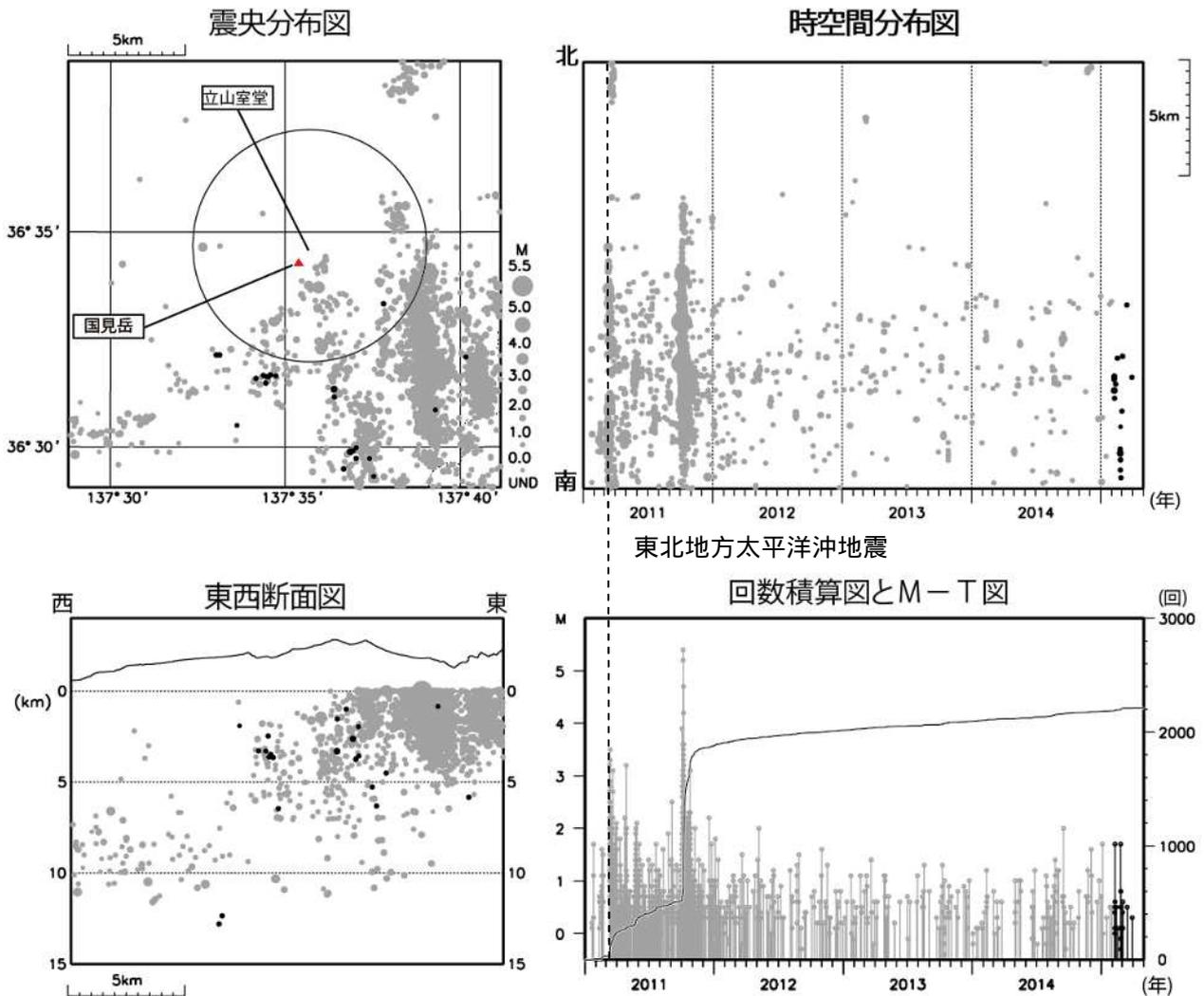
第 1 図 弥陀ヶ原 観測点配置図

小さな白丸 () は気象庁、小さな黒丸 () は気象庁以外の機関の観測点位置を示す。

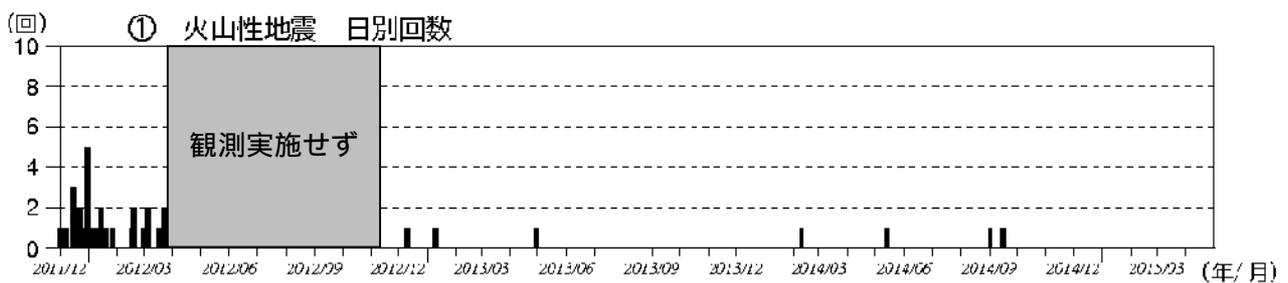
(防): 防災科学技術研究所、(京): 京都大学防災研究所

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 25000 (行政界・海岸線)』および『数値地図 50m メッシュ (標高)』を使用した。

この資料は気象庁のほか、京都大学、名古屋大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成した。



第 2 図 弥陀ヶ原 一元化震源による周辺の地震活動図 (2011 年 1 月 1 日 ~ 2015 年 4 月 30 日)
 : 2011 年 1 月 1 日 ~ 2015 年 1 月 31 日、 : 2015 年 2 月 1 日 ~ 2015 年 4 月 30 日
 ・周辺の地震活動は低下しながら継続している。
 ・弥陀ヶ原近傍の地震活動は低調な状況で推移している。



第 3 図 弥陀ヶ原 立山室堂に設置した地震計による地震回数
 (2011 年 12 月 1 日 ~ 2012 年 3 月 24 日、2012 年 11 月 7 日 ~ 2015 年 4 月 30 日)
 計数基準: 立山室堂振幅 40 $\mu\text{m/s}$ 以上、S-P 時間 1 秒以内 (おおよそ第 2 図の円内に対応)

焼 岳

(2015 年 4 月 30 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

概況（2015 年 2 月～2015 年 4 月 30 日）

・噴気など表面現象の状況（第 1 図、第 2 図）

北陸地方整備局設置の焼岳北カメラ（焼岳の北北西約 4 km）による遠望観測では、北峰付近の噴気孔からの噴気の高さは概ね 100m 以下で経過した。また、同局設置の焼岳南西斜面カメラ（焼岳の西北西約 2.5km）による遠望観測では、岩坪谷上部の噴気孔からの噴気の高さは概ね 60m 以下で経過した。遠望観測では、その他の地域で噴気は認められなかった。

・地震活動（第 3 図 - 、第 4 図～第 6 図）

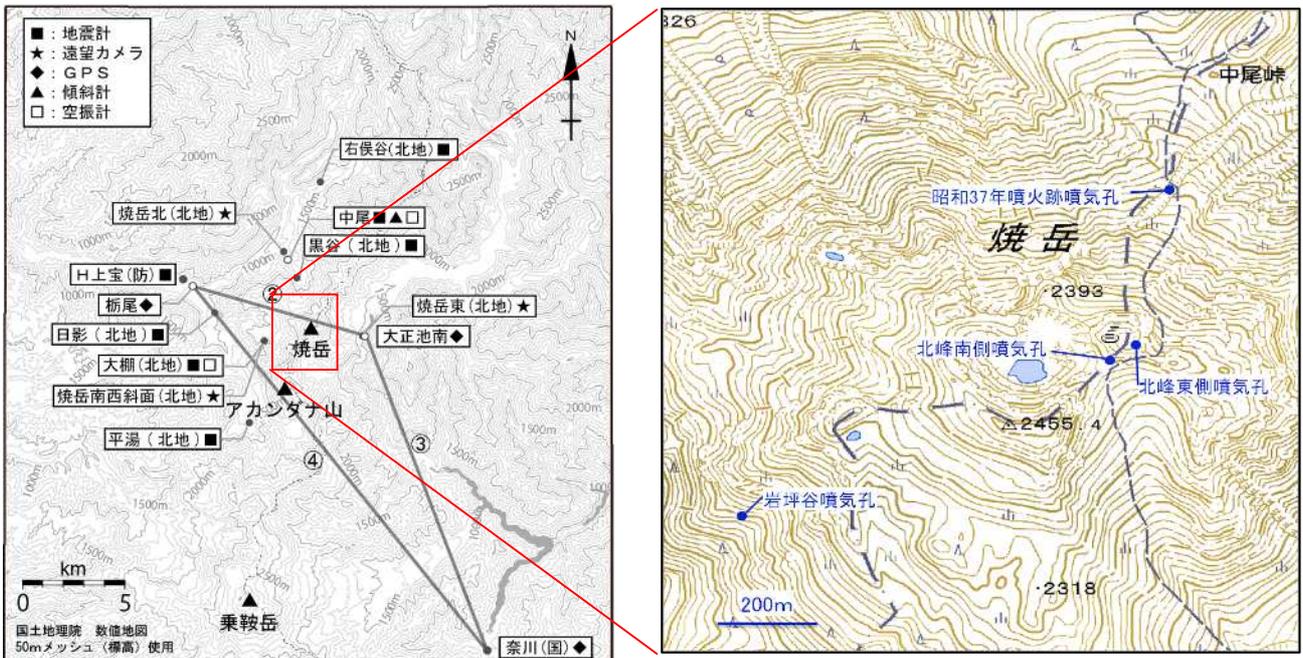
焼岳山頂付近の浅い所を震源とする火山性地震の発生回数は少なく、地震活動は静穏に経過した。

深部低周波地震は少ない状態で経過した。

火山性微動は観測されなかった。

・地殻変動（第 3 図 - ～、第 7 図）

GNSS 連続観測及び傾斜観測では、火山活動によるとみられる変動は認められなかった。



第 1 図 焼岳 観測点配置及び噴気孔の位置

小さな白丸 () は気象庁、小さな黒丸 () は気象庁以外の機関の観測点位置を示す。

(国): 国土地理院、(防): 防災科学技術研究所、(北地): 北陸地方整備局

GNSS基線 ~ は第 3 図の ~ に対応している。

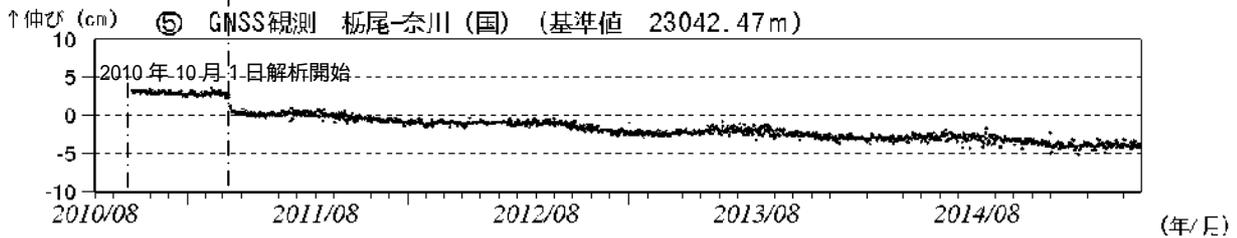
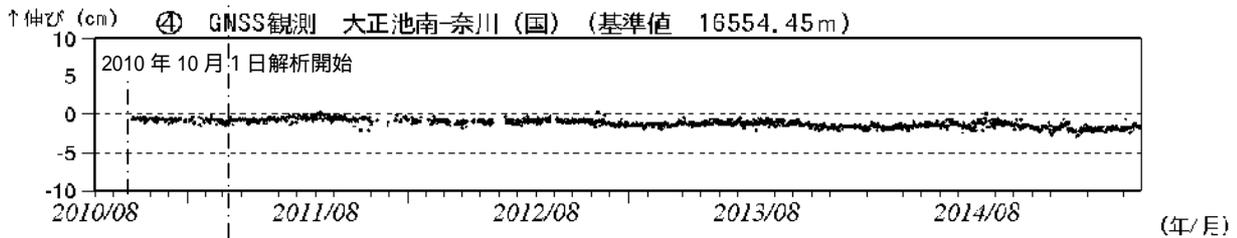
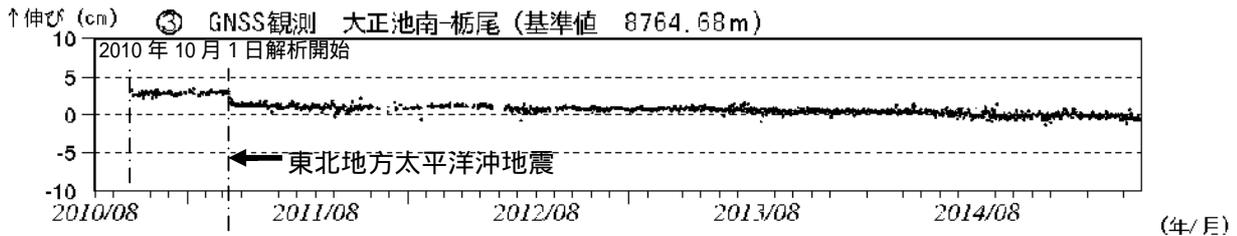
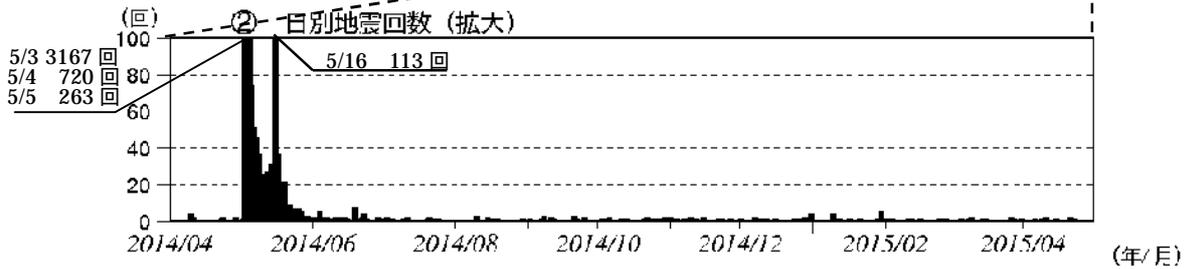
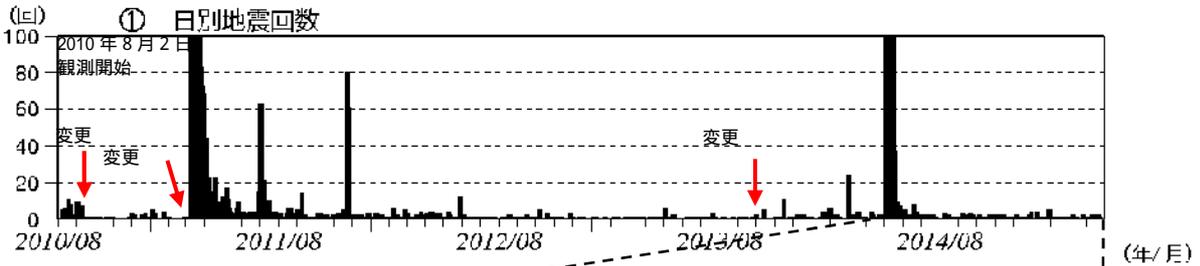
この地図の作成には、国土地理院発行の『2万5千分1地形図』、『数値地図25000(行政界・海岸線)』および『数値地図50mメッシュ(標高)』を使用した。



第 2 図 焼岳 山頂部及び南西斜面の状況

(左図: 2015年4月12日 焼岳北カメラ、右図: 2015年4月12日 焼岳南西斜面カメラ)

【計数基準の変遷】開 始	2010年8月2日～2010年9月21日	中尾振幅 0.5 μ m/s 以上、S-P 2 秒以内
変 更	2010年9月22日～2011年3月10日	中尾振幅 0.5 μ m/s 以上、S-P 1 秒以内
変 更	2011年3月11日～2013年9月30日	中尾振幅 3.0 μ m/s 以上、S-P 1 秒以内
変 更	2013年10月1日～	中尾振幅 2.0 μ m/s 以上、S-P 1 秒以内



第 3 図 焼岳 火山活動経過図 (2010 年 8 月 2 日～2015 年 4 月 30 日)

焼岳周辺の日別地震回数

2011 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震以降、焼岳周辺で地震活動が活発な状況となったが、その後、地震活動は低下した。また 2011 年 7 月に地震が一時的に増加した。2014 年 5 月 3 日より地震が増加したが、その後、地震活動は次第に低下した。

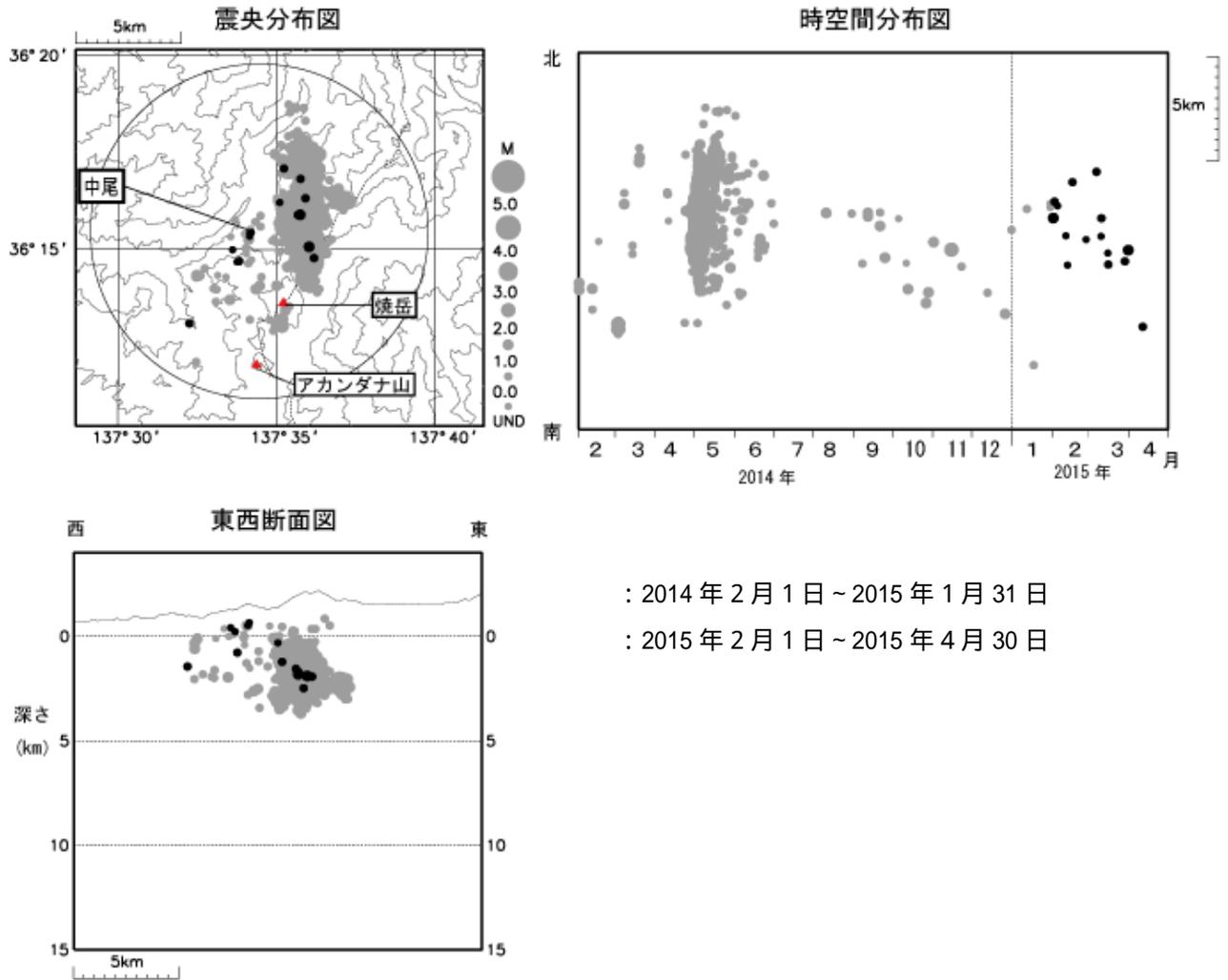
～ GNSS 連続観測による基線長変化(国): 国土地理院

解析に際しては対流圏補正と電離層補正を行っている。

火山活動によるとみられる変動は認められない。

2011 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震の影響により、データに飛びがみられる。

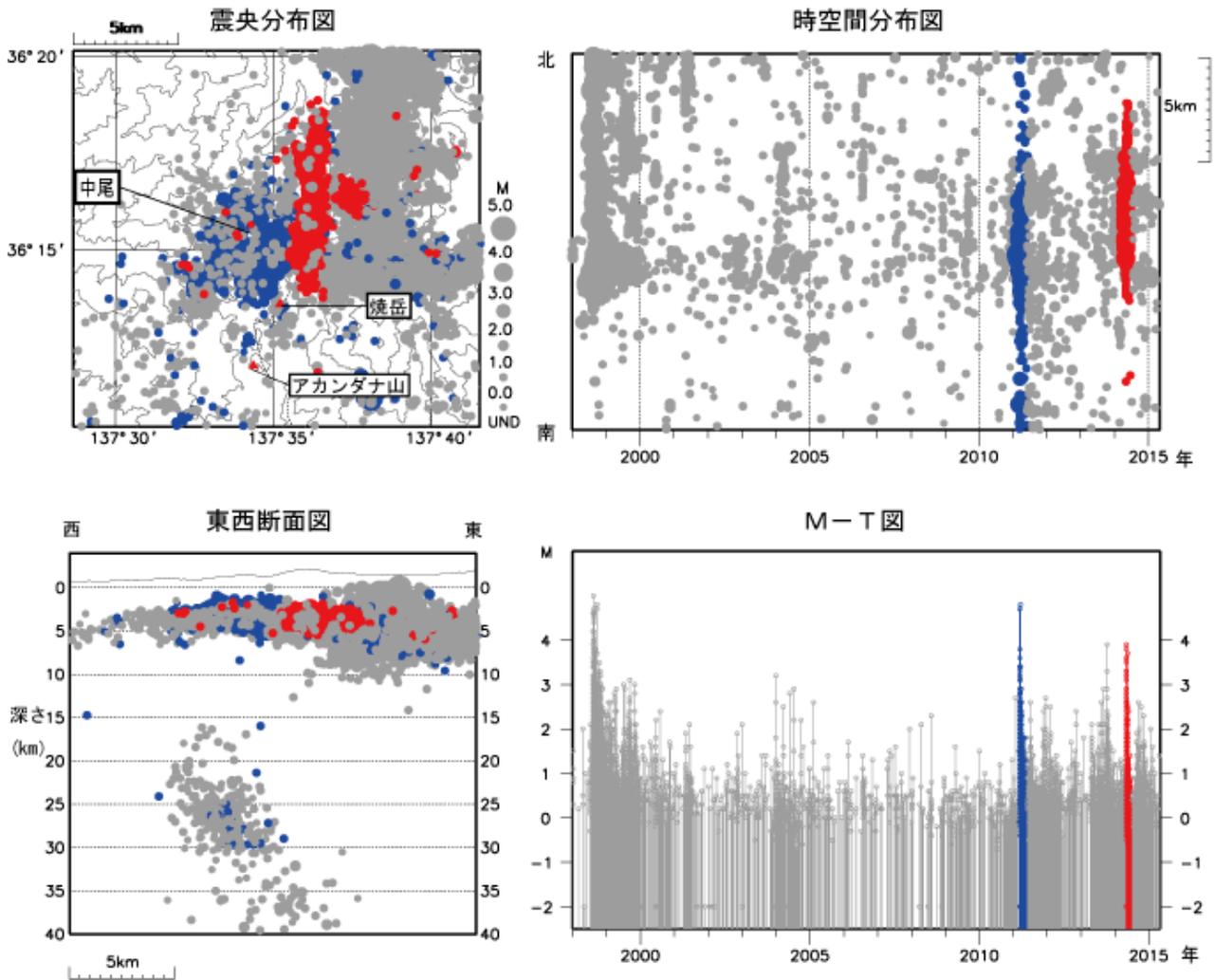
～ は第 1 図の ～ に対応している。グラフの空白部分は欠測を示す。



: 2014 年 2 月 1 日 ~ 2015 年 1 月 31 日
 : 2015 年 2 月 1 日 ~ 2015 年 4 月 30 日

第 4 図 焼岳 山体周辺の観測点による震源分布図 (2014 年 2 月 1 日 ~ 2015 年 4 月 30 日)

- 震央分布図中の円は第 3 図 - の計数対象地震(中尾で S - P 時間 1 秒以内)のおよその範囲を示す。
- ・ 2014 年 5 月 3 日から焼岳山頂の北側数 km を震源とする地震活動が活発化した。その後、次第に低下した。
 - ・ 山頂近傍の地震は少なく、浅部の低周波地震は観測されなかった。



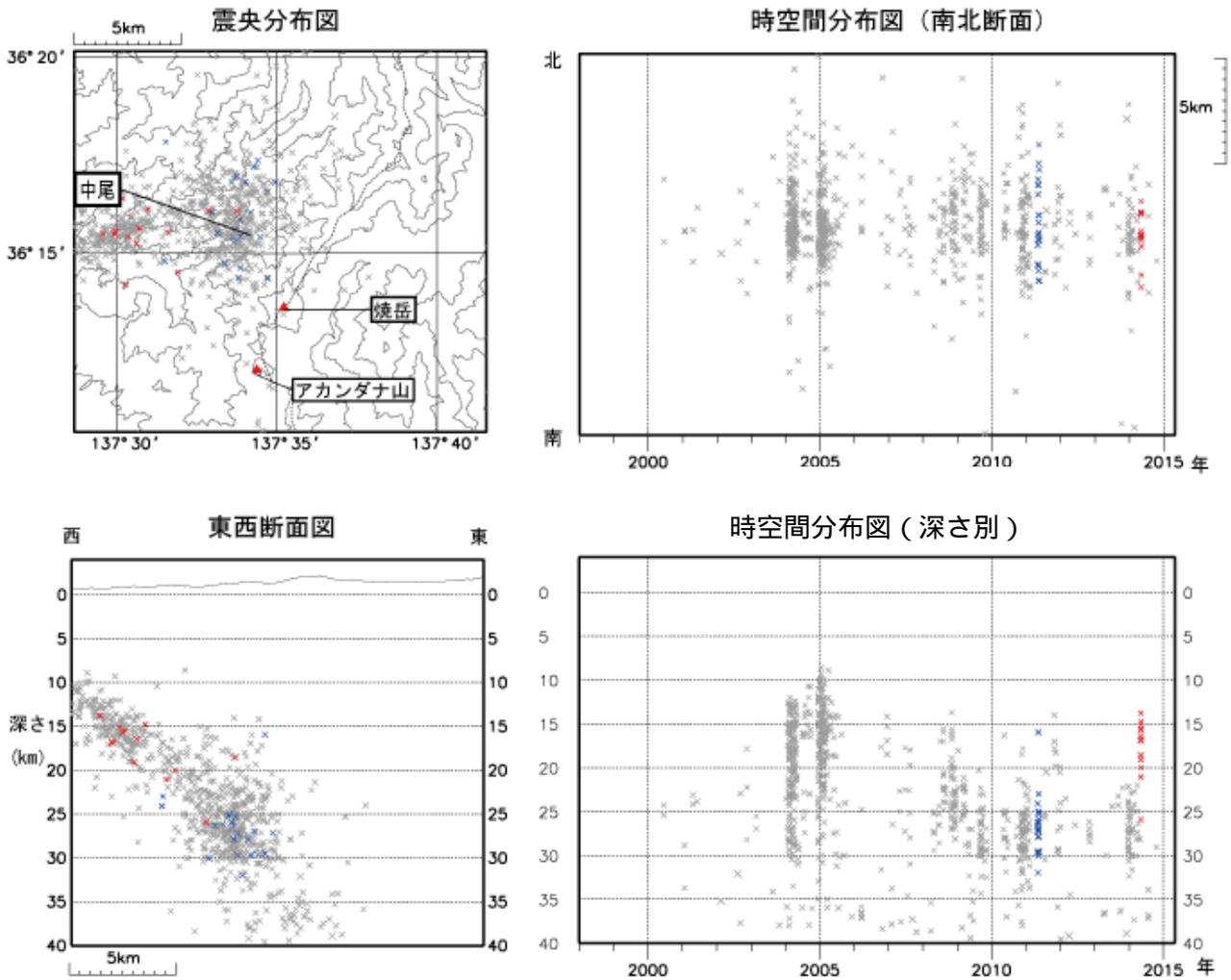
第5図 焼岳 一元化震源による地震活動（1998年1月1日～2015年4月30日）

：2011年3月1日～5月31日（東北地方太平洋沖地震を含む地震が多発した期間）

：2014年5月1日～6月30日（2014年5～6月の地震が多発した期間）

：その他の期間

・マグニチュードは一部暫定値が含まれており、後日変更することがある。

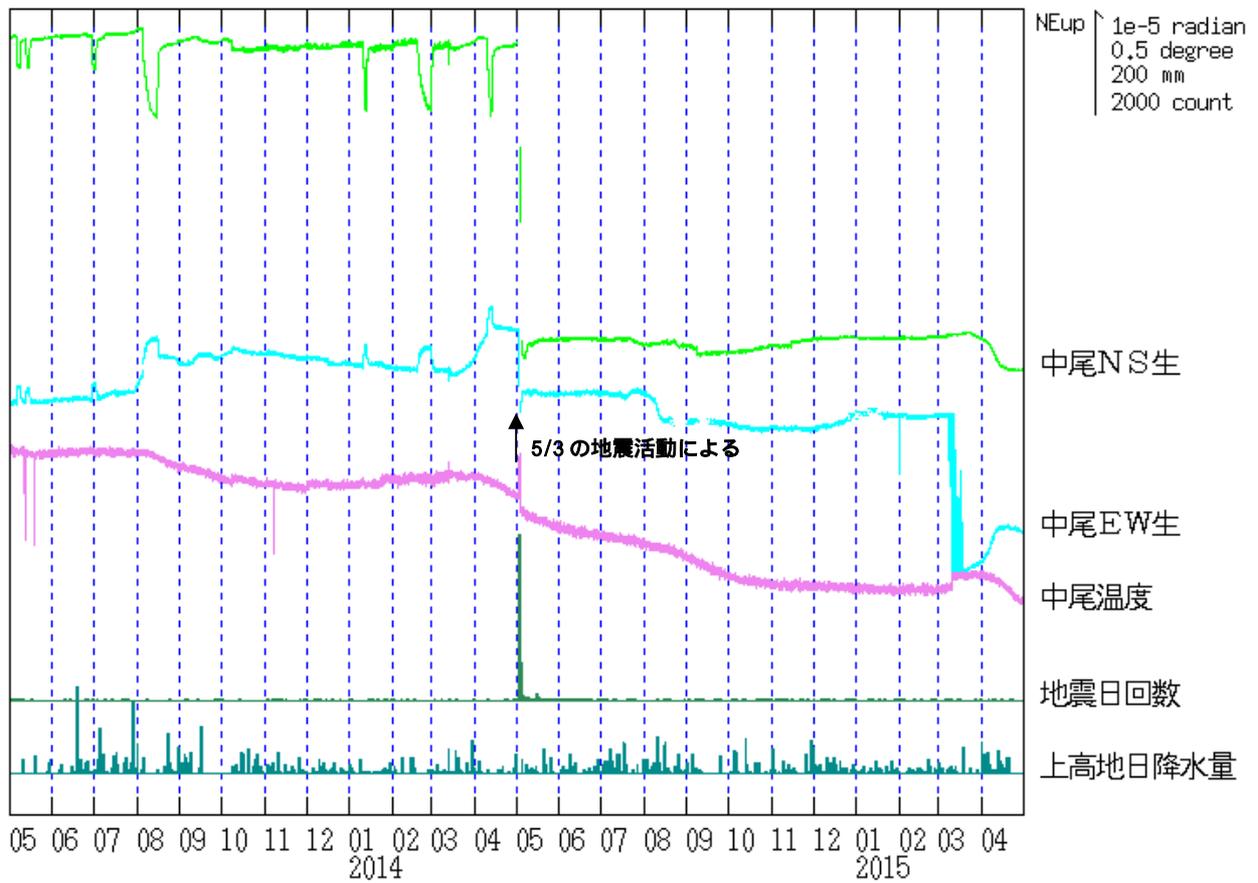


第 6 図 焼岳 一元化震源による低周波地震活動 (1999 年 9 月 1 日 ~ 2015 年 4 月 30 日)

- × : 1999 年 9 月 1 日 ~ 2010 年 12 月 31 日、2012 年 1 月 1 日 ~ 2014 年 4 月 30 日
- × (blue) : 2011 年 1 月 1 日 ~ 12 月 31 日 × (red) : 2014 年 5 月 1 日 ~ 2015 年 4 月 30 日

- ・ マグニチュードは一部暫定値が含まれており、後日変更することがある。
- ・ 参考値登録を含む。低周波地震は、1999 年 9 月から識別して登録を開始した。

第 4 図 ~ 第 6 図の作成には、国土地理院発行の数値地図 25000 (行政界・海岸線) および『数値地図 50 mメッシュ (標高)』を使用した。



第 7 図 焼岳 中尾観測点における傾斜変動

(2013年5月1日～2015年4月30日、時間値)

・火山活動によるとみられる傾斜変動は認められない。

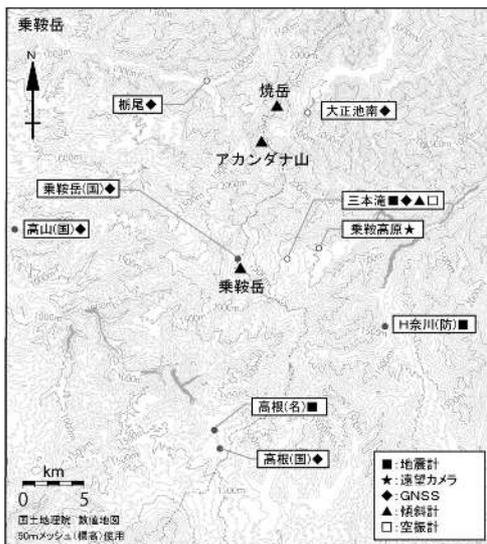
乗 鞍 岳

(2015年4月30日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。
 噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

概況（2015年2月～4月30日）

- ・噴気など表面現象の状況（第2図）
 乗鞍高原（乗鞍岳の東北東7km）に設置にしてある遠望カメラでは、山頂部に噴気は認められなかった。
- ・地震活動（第3図-、第5図）
 乗鞍岳付近を震源とする地震の発生回数は少なく、地震活動は低調に経過した。
 火山性微動や低周波地震は観測されなかった。
- ・地殻変動（第3図- ~、第6図）
 GNSS 連続観測と傾斜観測では、火山活動によるとみられる地殻変動は認められなかった。



第1図 乗鞍岳 観測点配置



第2図 乗鞍岳 山頂部の状況

(2015年4月12日 乗鞍高原遠望カメラによる)

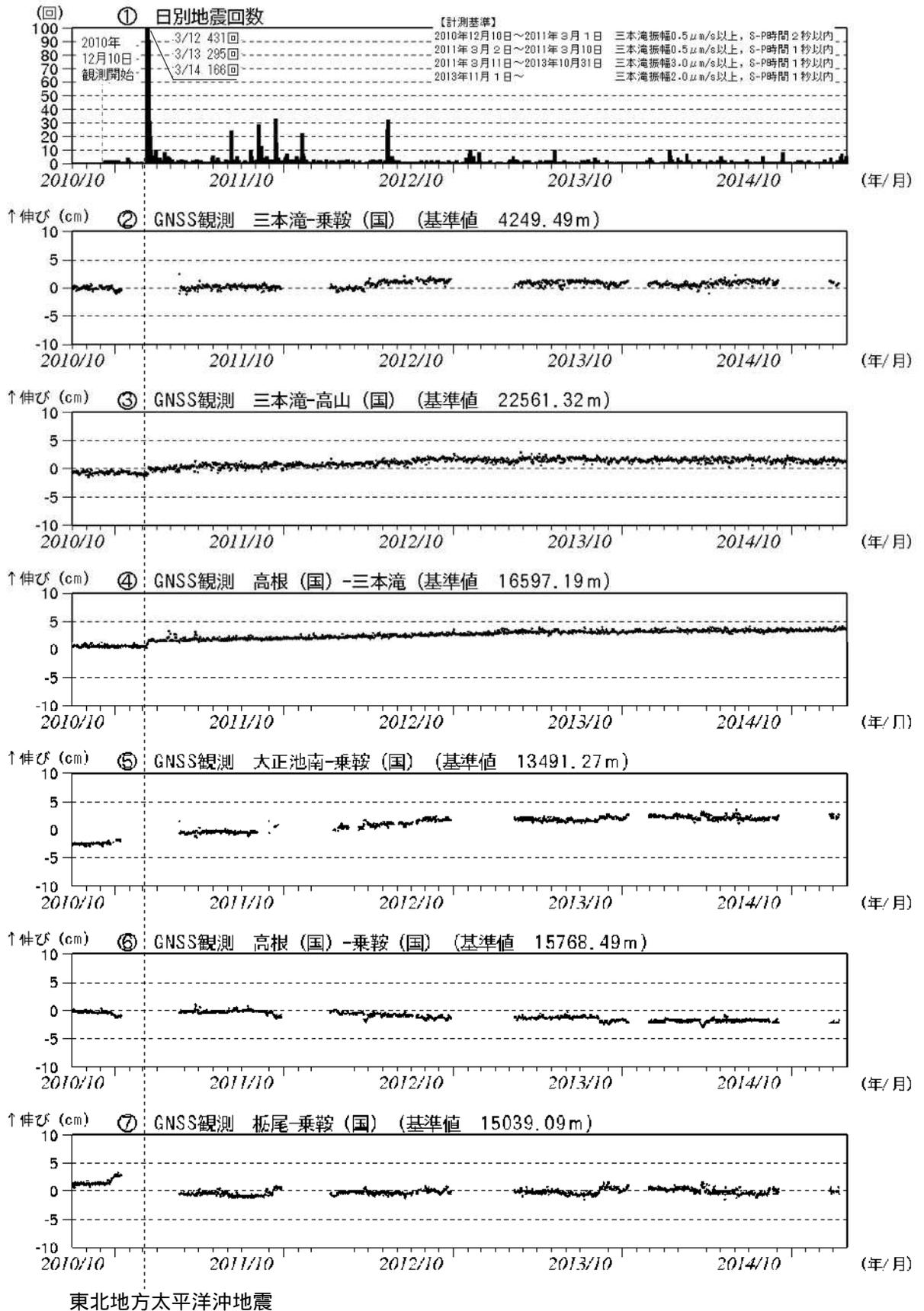
小さな白丸()は気象庁、小さな黒丸()は気象庁以外の機関の観測点位置を示す。

(国): 国土地理院、(防): 防災科学技術研究所、

(名): 名古屋大学

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図25000(行政界・海岸線)』および『数値地図50mメッシュ(標高)』を使用した。

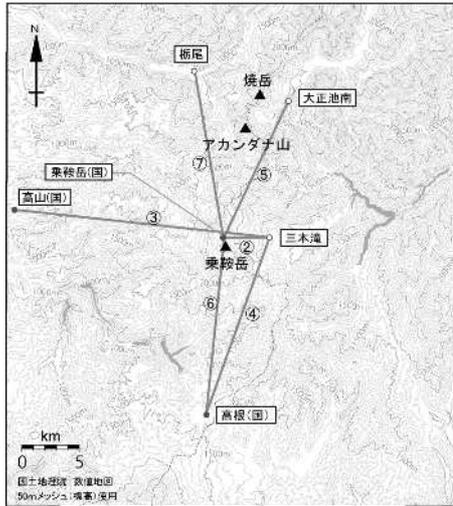
この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学、名古屋大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成した。



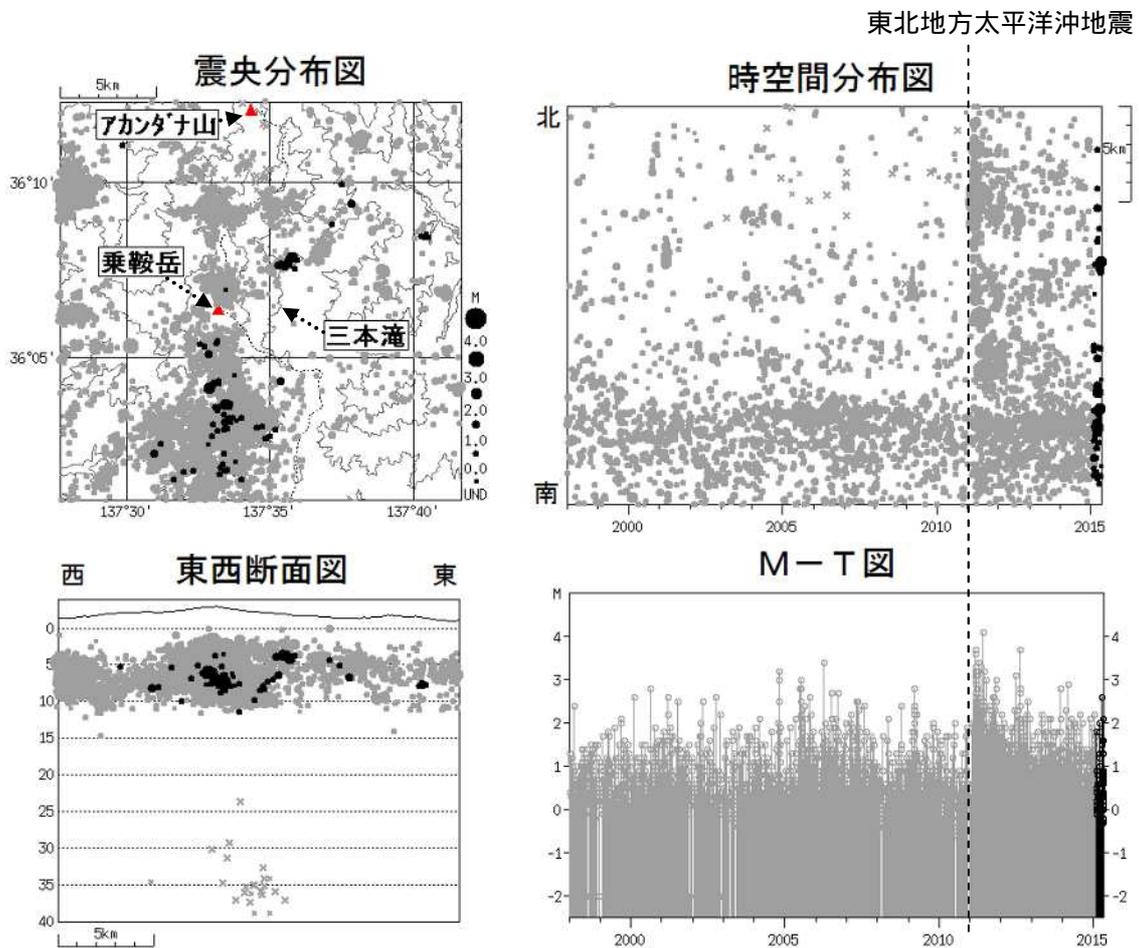
東北地方太平洋沖地震

第3図 乗鞍岳 火山活動経過図

- 日別地震回数(2010年12月10日~2015年4月30日)
- ~ GNSS連続観測による基線長変化(2010年10月1日~2015年4月30日)(国):国土地理院
- ・解析に際しては対流圏補正と電離層補正を行っている。
- ・火山活動によるとみられる変動は認められなかった。
- ・ ~ は第4図の ~ に対応している。グラフの空白部分は欠測を示す。



第 4 図 乗鞍岳 GNSS連続観測点配置
 小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示す。
 (国): 国土地理院
 GNSS基線 ~ は第 3 図の ~ に対応している。
 この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図25000(行政界・海岸線)』および『数値地図50mメッシュ(標高)』を使用した。



第 5 図 乗鞍岳 一元化震源による山体・周辺の地震活動(1998 年 1 月 1 日 ~ 2015 年 4 月 30 日)

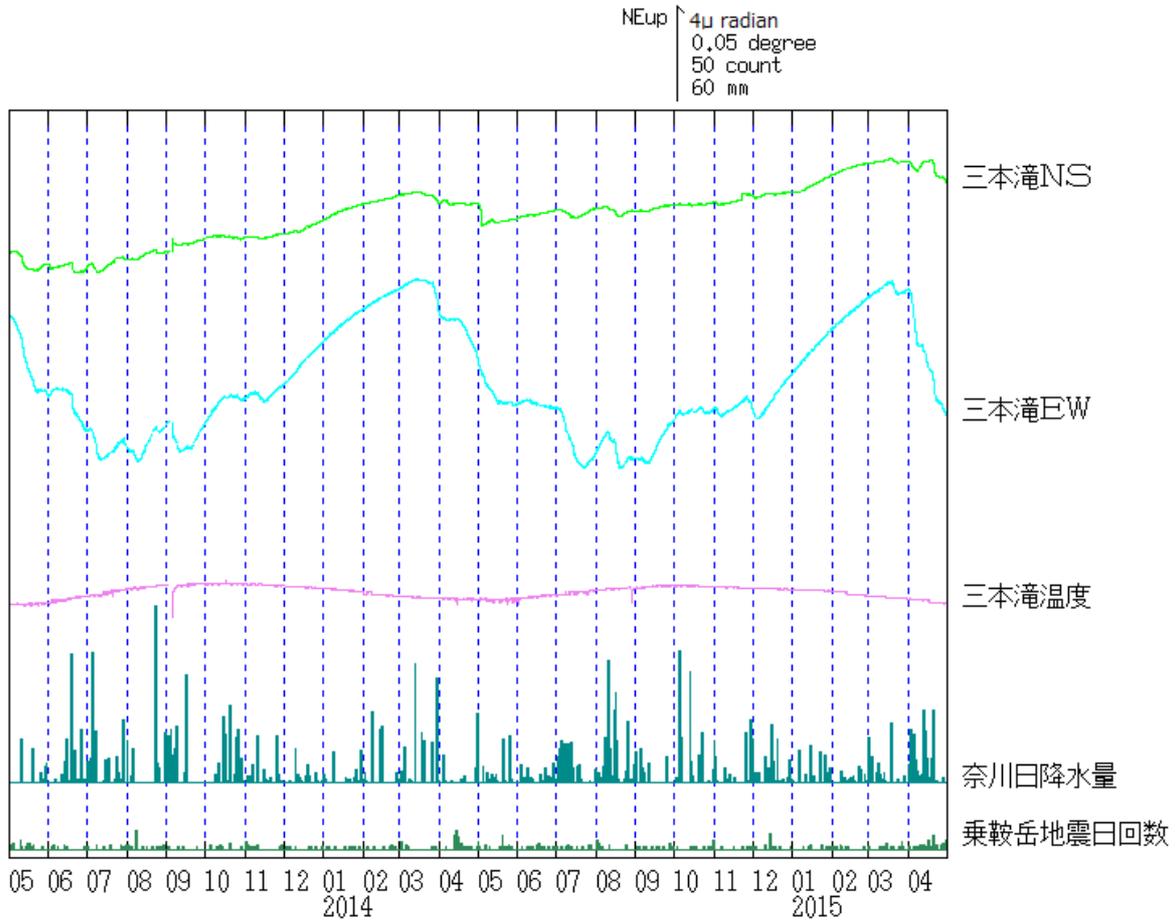
： 1998 年 1 月 1 日 ~ 2015 年 1 月 31 日

： 2015 年 2 月 1 日 ~ 2015 年 4 月 30 日

x : 深部低周波地震

・ マグニチュードは一部暫定値が含まれており、後日変更することがある。

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 25000(行政界・海岸線)』および『数値地図 50mメッシュ(標高)』を使用した。



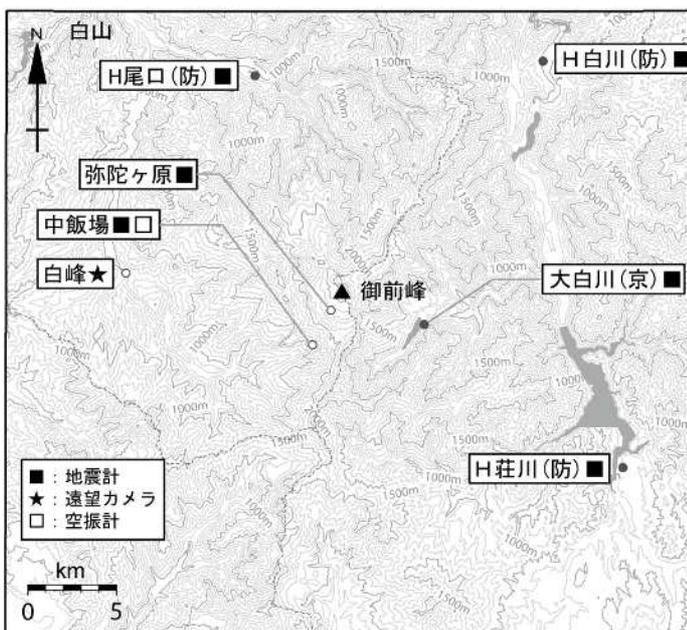
第 6 図 乗鞍岳 三本滝観測点における傾斜変動
 (2012 年 10 月 1 日 ~ 2015 年 4 月 30 日、時間値、潮汐補正済み)
 ・火山活動によるとみられる傾斜変動は認められない。

白 山 (2015 年 4 月 30 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。
 噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

概況（2015 年 2 月～ 4 月 30 日）

- ・噴気など表面現象の状況（第 2 図）
 白峰（白山山頂の西約 12km）に設置してあるカメラでは、山頂部に噴気は認められなかった。
- ・地震活動（第 3～ 4 図）
 火山性地震は少ない状態で経過した。また、3 月 7 日に深部低周波地震が 1 回観測された。
 火山性微動は観測されなかった。



第 1 図 白山 観測点配置図

第 2 図 白山 山頂部の状況

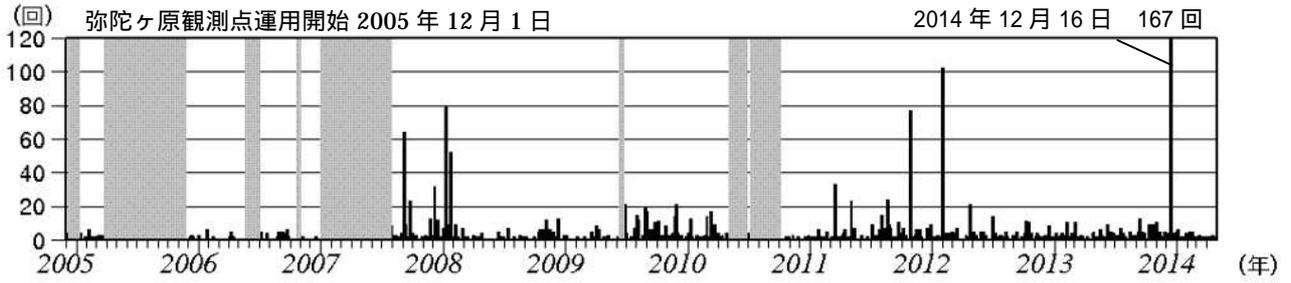
小さな白丸()は気象庁、小さな黒丸()は気象庁以外の機関の観測点位置を示す。

(防)：国立研究開発法人防災科学技術研究所、
 (京)：京都大学防災研究所

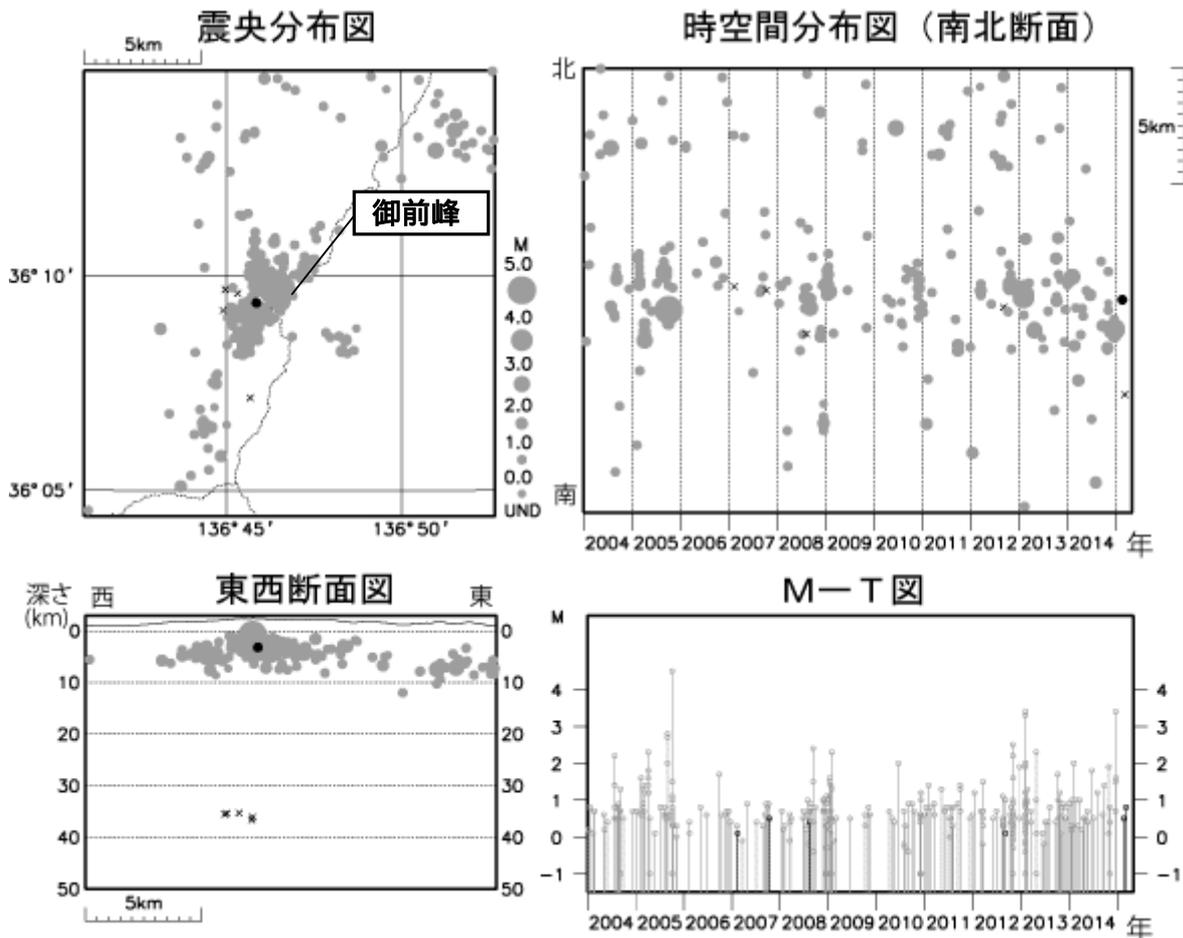
この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 25000(行政界・海岸線)』および『数値地図 50mメッシュ(標高)』を使用した。

この資料は気象庁のほか、京都大学、名古屋大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成した。

計数基準：～2011年9月30日 弥陀ヶ原 振幅 1.0 μm/s、S-P 時間 1.5 秒以内
 2011年10月1日～ 中飯場 振幅 1.0 μm/s、S-P 時間 1.7 秒以内



第 3 図 白山 日別地震回数 (2005 年 12 月～2015 年 4 月 30 日) (図の灰色部分は機器障害による欠測期間)



第 4 図 白山 一元化震源による白山付近の地震活動 (2004 年 1 月 1 日～2015 年 4 月 30 日)
 : 2004 年 1 月 1 日～2015 年 1 月 31 日 : 2015 年 2 月 1 日～4 月 30 日 × : 深部低周波地震
 3 月 7 日に深部低周波地震が観測された。

この図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 25000 (行政界・海岸線)』を使用した。

富士山

(2015年4月30日現在)

2011年3月15日に発生した静岡県東部の地震（マグニチュード6.4）以降、富士山周辺では地震活動が活発な状態となったが、その後地震活動は低下しながら継続している。

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められない。

噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

概況（2015年2月～2015年4月30日）

・噴気など表面現象の状況（第2図）

萩原（富士山山頂の東南東18km）に設置してある遠望カメラ、および、中部地方整備局が設置した朝霧（富士山山頂の西約14km）、富士砂防事務所（富士山山頂の南西約17km）の遠望カメラでは、噴気は認められなかった。

・地震活動（第3図、第4-1図、第4-2図）

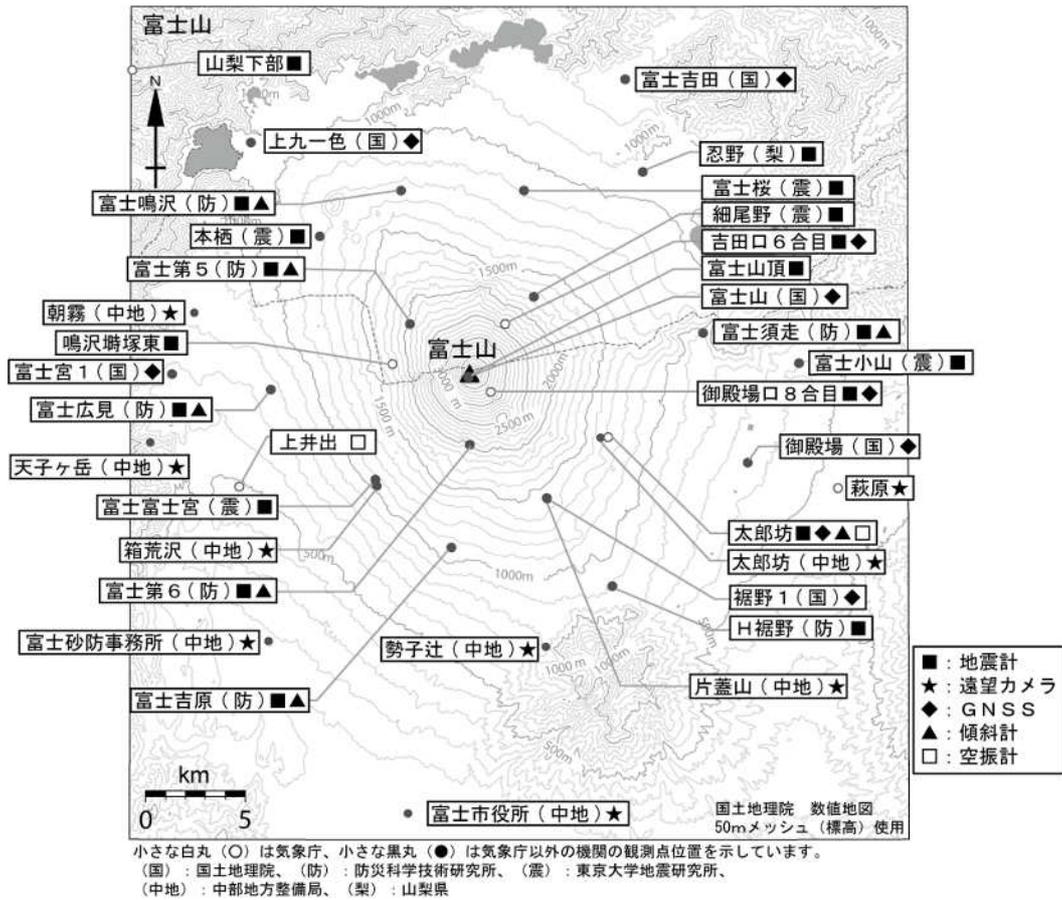
2011年3月15日22時31分に山頂の南南西約5km、深さ15kmを震源とする静岡県東部の地震（マグニチュード6.4、最大震度6強）が発生し、その震源から山頂直下付近にかけて地震が多発した。その後、地震活動は低下しながら継続している。

深部低周波地震は概ね少ない状況で経過した。震源は、北東山腹の深さ10～20kmに分布した。

火山性微動及び浅部の低周波地震は観測されなかった。

・地殻変動（第5図、第7図）

GNSS連続観測及び傾斜観測では、火山活動によるとみられる地殻変動は認められなかった。



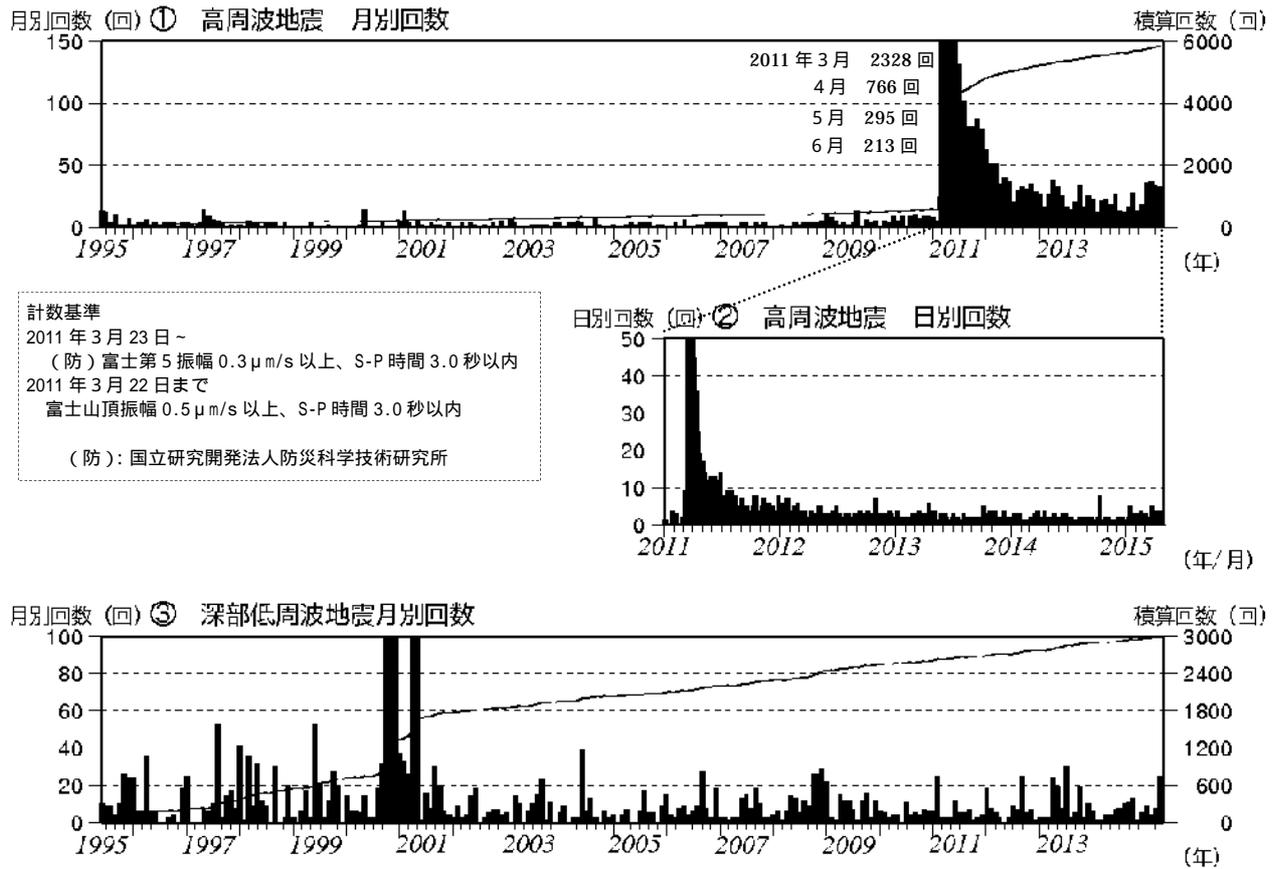
第 1 図 富士山 観測点配置図

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 25000 (行政界・海岸線)』および『数値地図 50 mメッシュ (標高)』を使用した。



第 2 図 富士山 山頂部の状況 (2015 年 4 月 16 日 萩原遠望カメラによる)

・噴気は認められなかった。

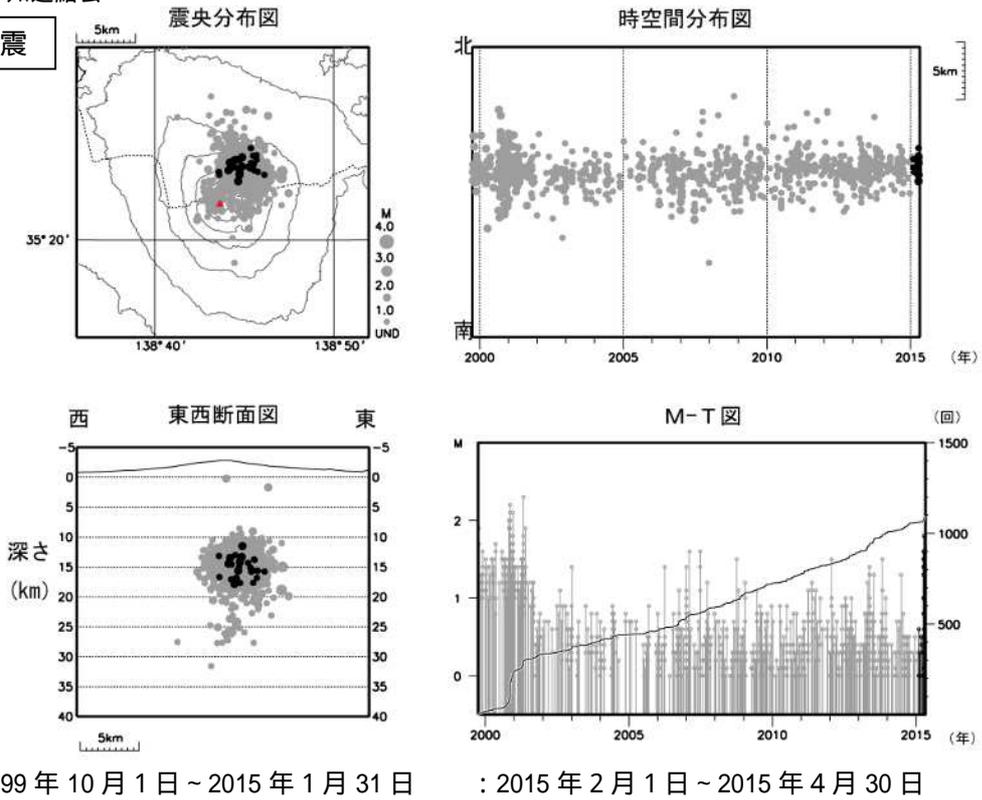


第 3 図 富士山 月別・日別地震回数とその積算回数 (1995年6月～2015年4月30日)

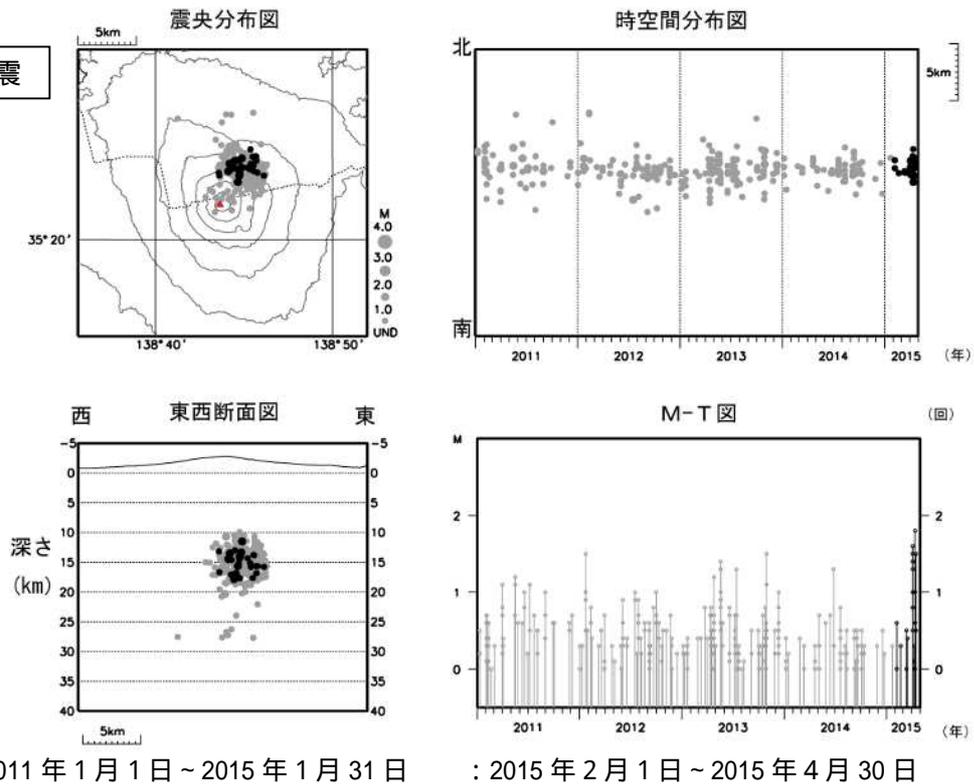
(機器障害のため2007年5月10日～2007年6月1日まで欠測)

- ・2011年3月15日に発生した静岡県東部の地震(マグニチュード6.4)以降、富士山周辺では高周波地震活動が活発な状態となったが、その後活動は低下しながら継続している。
- ・深部低周波地震は概ね少ない状態で経過した。

深部低周波地震



深部低周波地震



第 4 - 2 図 富士山 一元化震源による深部低周波地震の活動

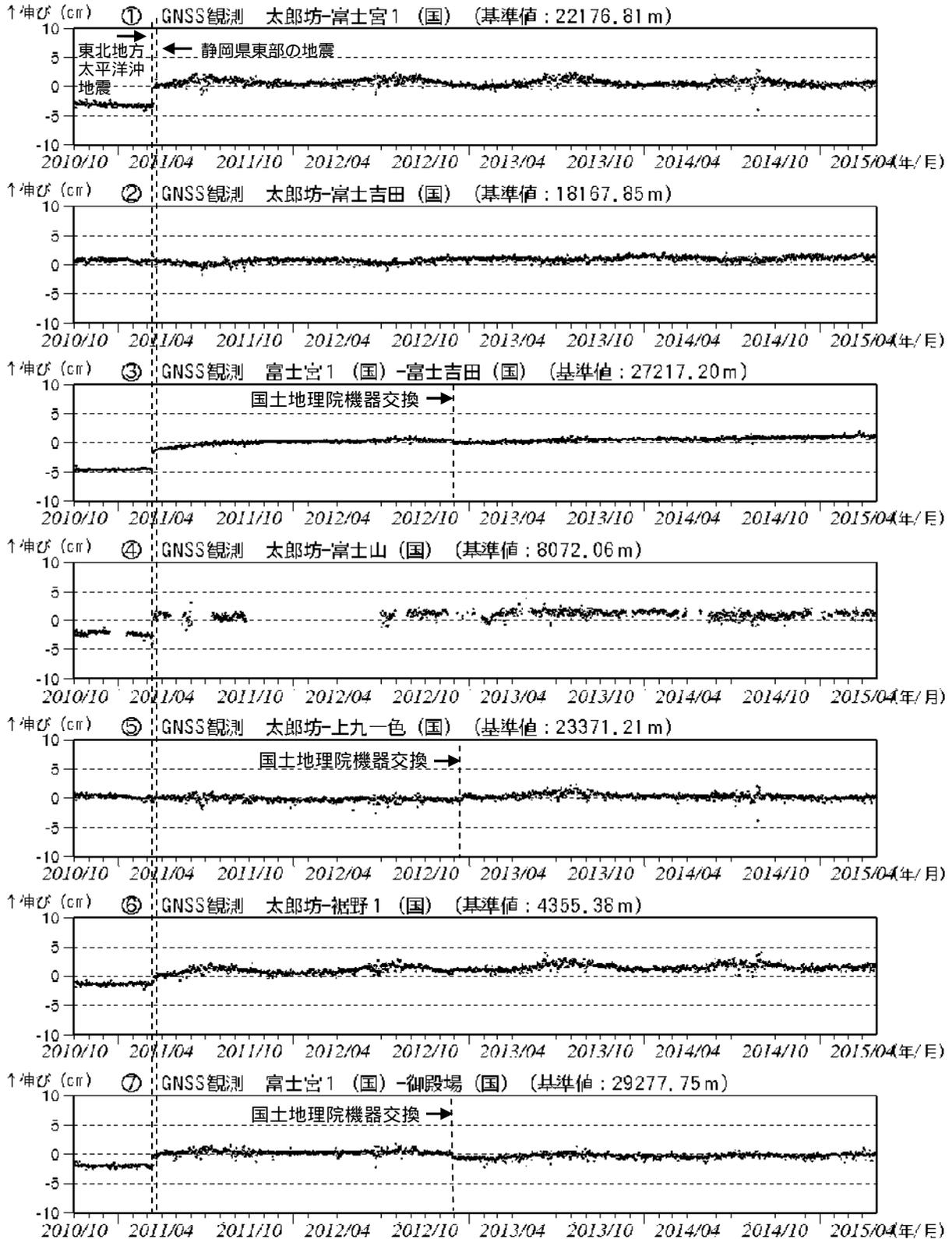
(1999 年 10 月 1 日 ~ 2015 年 4 月 30 日)

上 : 1999 年 10 月 1 日 ~ 2015 年 4 月 30 日、下 : 2011 年 1 月 1 日 ~ 2015 年 4 月 30 日

- ・マグニチュードは一部暫定値が含まれており、後日変更することがある。
- ・深部低周波地震は概ね少ない状況で経過した。震源は、北東山腹の深さ 10 ~ 20 km 付近に分布した。

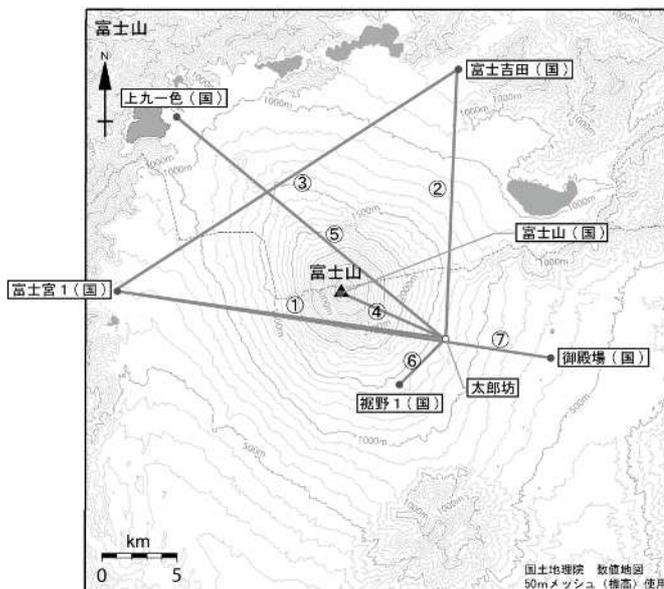
この図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 25000 (行政界・海岸線)』および『数値地図 50mメッシュ (標高)』を使用した。

富士山



第 5 図 富士山 GNSS 連続観測による基線長変化 (2010 年 10 月 1 日 ~ 2015 年 4 月 30 日)
(国): 国土地理院

- ・解析に際しては対流圏補正と電離層補正を行っている。
- ・2011 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震、及び 2011 年 3 月 15 日に発生した静岡県東部の地震の影響により、データに飛びがみられる。
- ・ ~ は第 6 図の GNSS 基線 ~ に対応している。グラフの空白部分は欠測を示す。



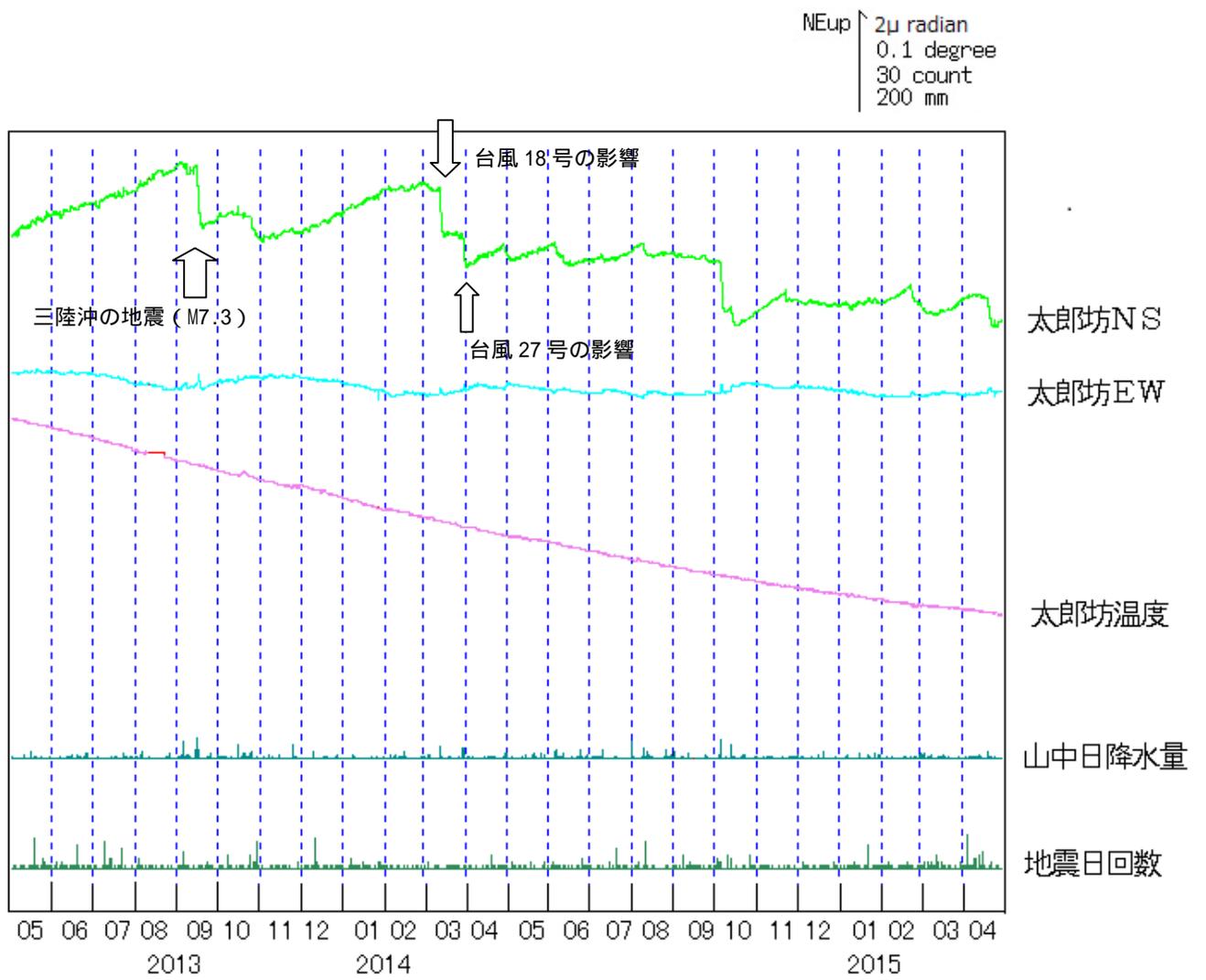
第 6 図 富士山 GNSS 連続観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示す。

(国): 国土地理院

GNSS 基線 ~ は第 5 図の ~ に対応している。

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 25000 (行政界・海岸線)』および『数値地図 50 mメッシュ (標高)』を使用した。

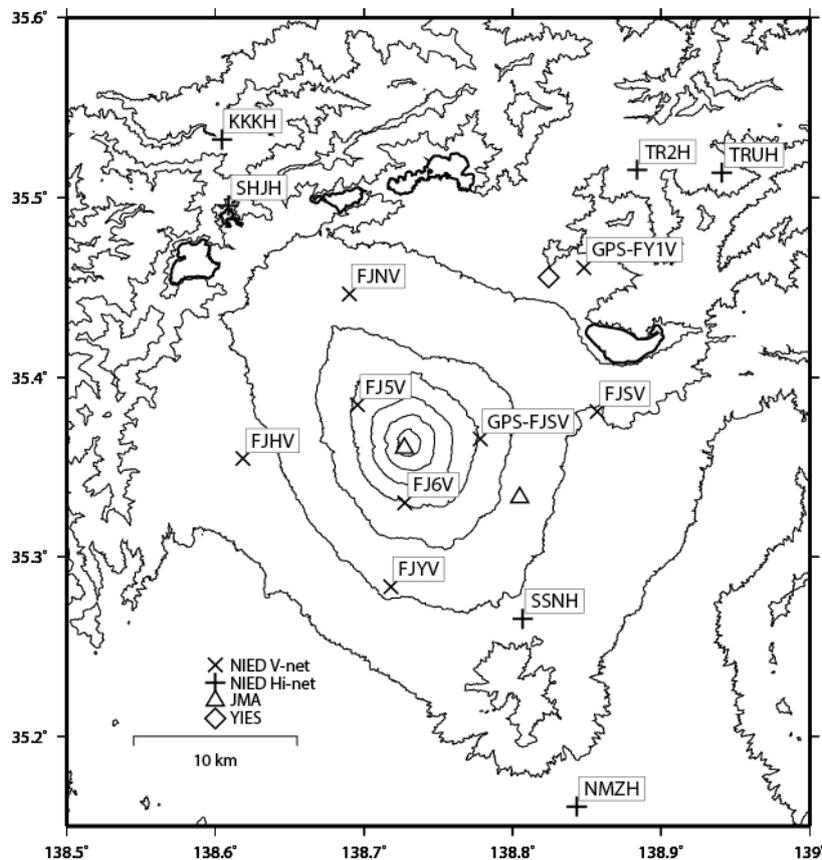


第 7 図 富士山 太郎坊観測点における傾斜変動

(2013年5月1日~2015年4月30日、時間値、潮汐補正済み)

- ・火山活動によるとみられる傾斜変動は認められない。
- ・空白期間は欠測を示す。

富士山の火山活動について



この地図の作成にあたっては、国土地理院発行の
数値地図 50mメッシュ（標高）を使用した。

- FJNV=地震計（短周期・長周期）、傾斜計、気圧計、温度計、雨量計
- FJ5V=地震計（短周期・長周期）、傾斜計、気圧計、温度計、雨量計、GNSS
- FJYV=地震計（短周期・長周期）、傾斜計、気圧計、温度計、雨量計、GNSS
- FJHV=地震計（短周期・長周期）、傾斜計、気圧計、温度計、雨量計、GNSS
- FJ5V=地震計（短周期）、傾斜計、GNSS
- FJ6V=地震計（短周期）、傾斜計、GNSS
- FY1V=地震計（短周期）、GNSS

資料概要

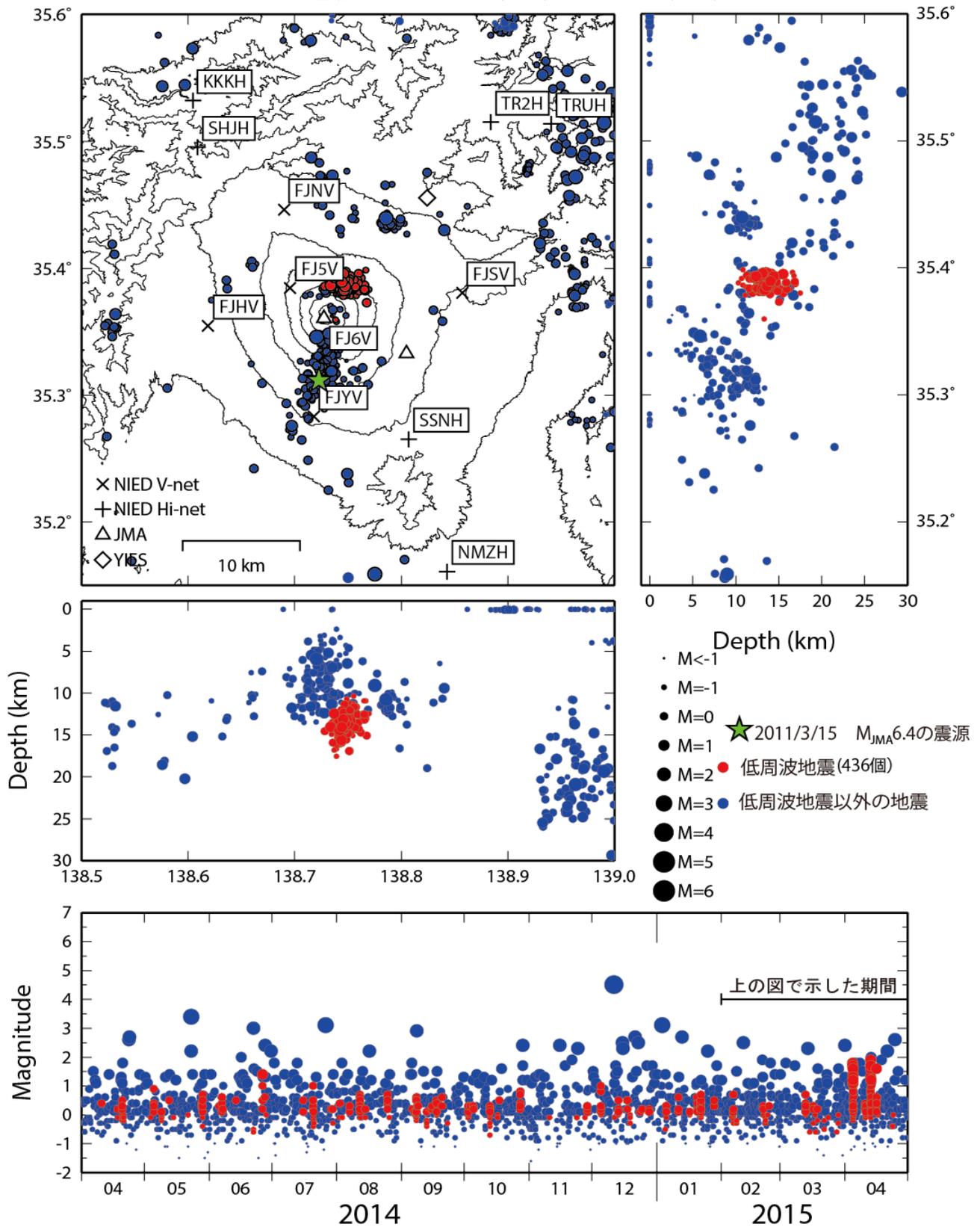
○ 地震活動

2011 年 3 月 15 日静岡県東部地震の余震は減少しながらも継続している。深部低周波地震の積算回数が 2013 年からやや増加傾向にある。

○ 地殻変動

地殻変動記録には、火山活動に起因すると考えられる異常な変動は認められない。

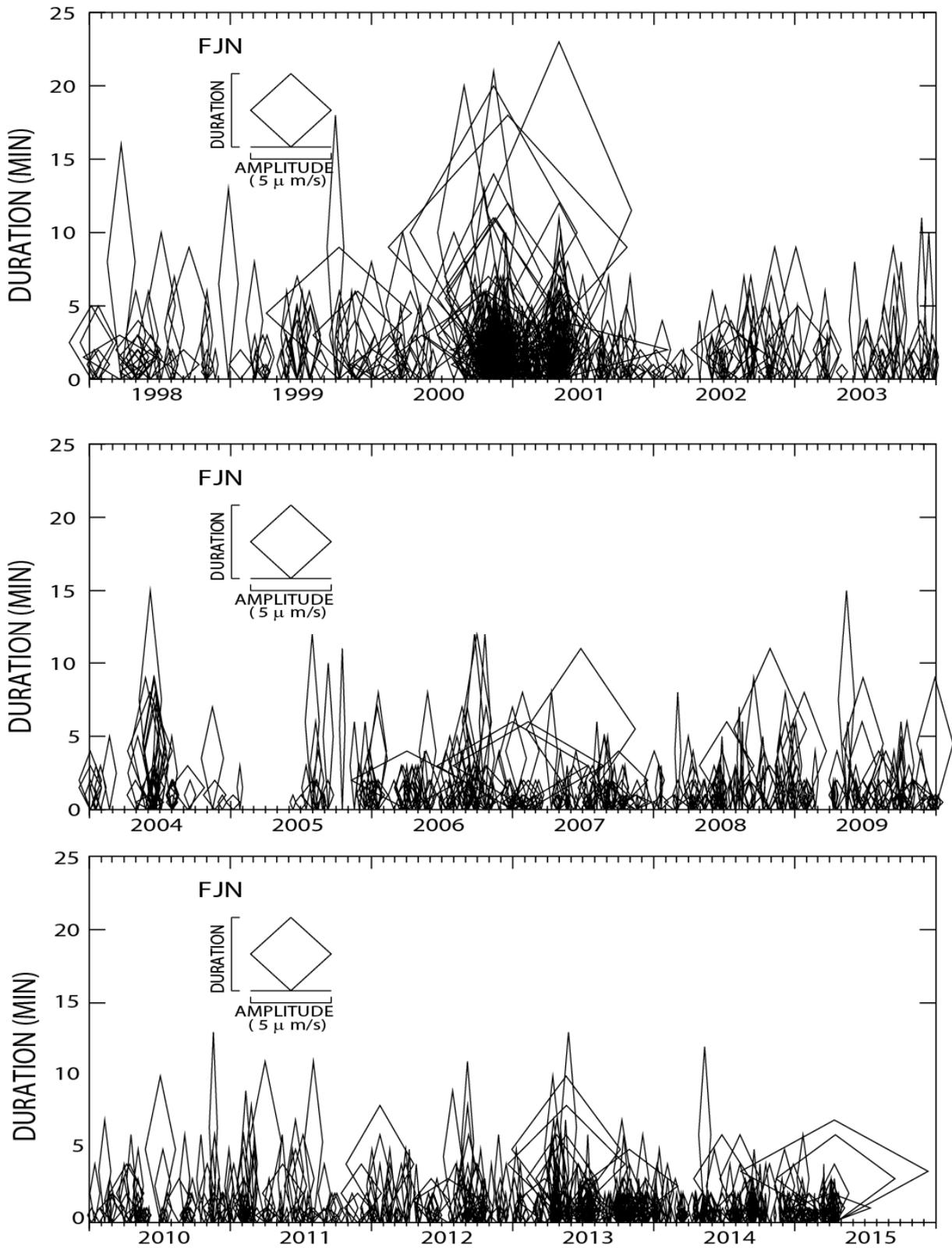
富士山の地震活動 (2015/02/01~2015/04/30)



震源決定には、気象庁の観測点（位置は図中）も使用した。
 この地図の作成にあたっては、国土地理院発行の数値地図 50mメッシュ（標高）を使用した。

図1 富士山の地震活動 (2015/02/01~2015/04/30)

富士山の深部低周波地震活動ダイヤモンド・ダイアグラム

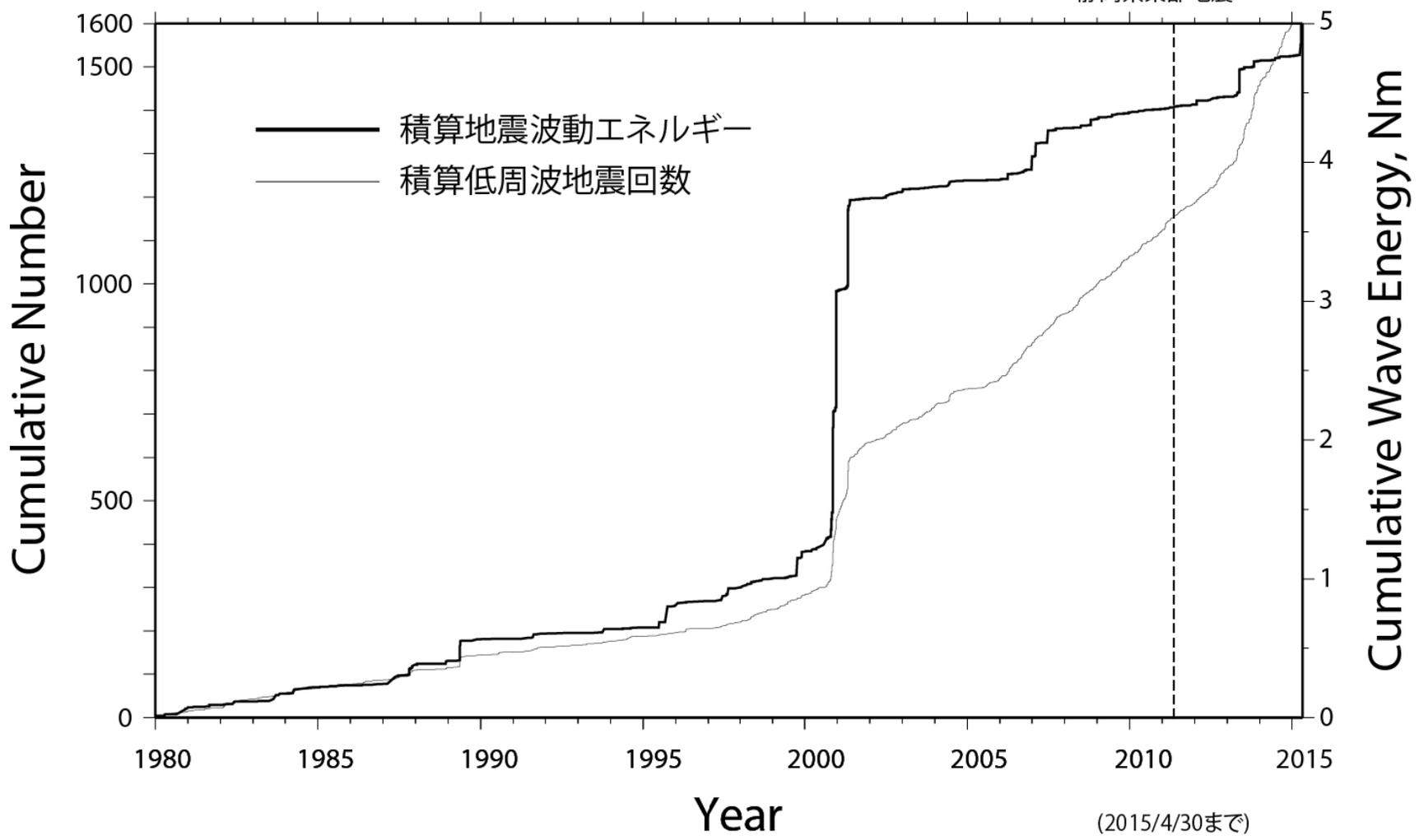


(FJN観測点の振幅から推定。但し、FJN欠測時は、FJ5、FJ6を使用。)

図 2 富士山深部低周波地震活動ダイヤモンド・ダイアグラム

富士山の積算低周波地震回数と積算地震波動エネルギー

静岡県東部地震 (x10⁹)



(FJN観測点の振幅から推定。但し、FJN欠測時は、FJ5、FJ6を使用。)

図3 富士山積算低周波地震回数

富士山周辺の積算地震回数

(1996/01/01~2015/04/30, 深さ<25kmの低周波地震以外の地震, 破線はM>0.5)

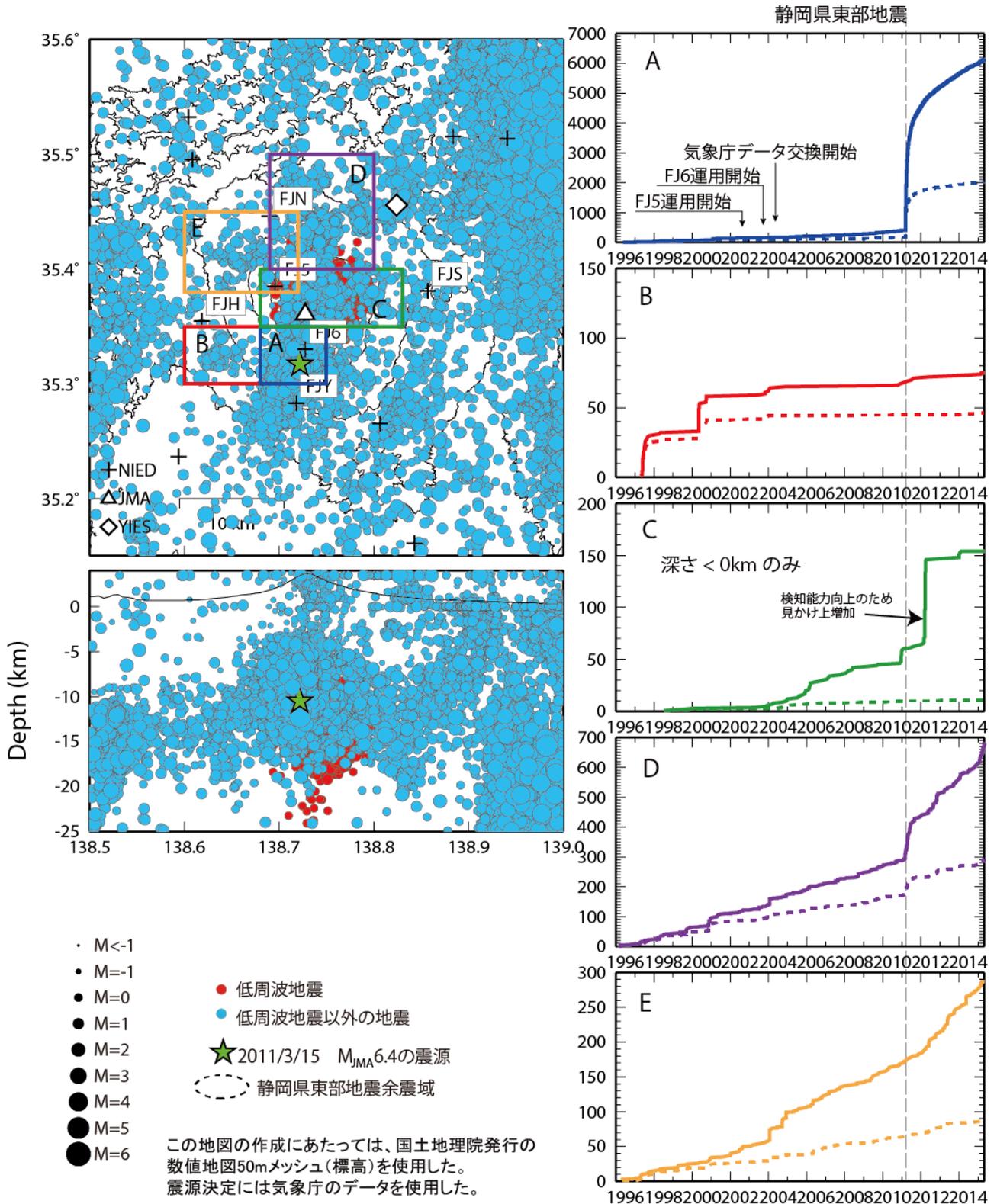
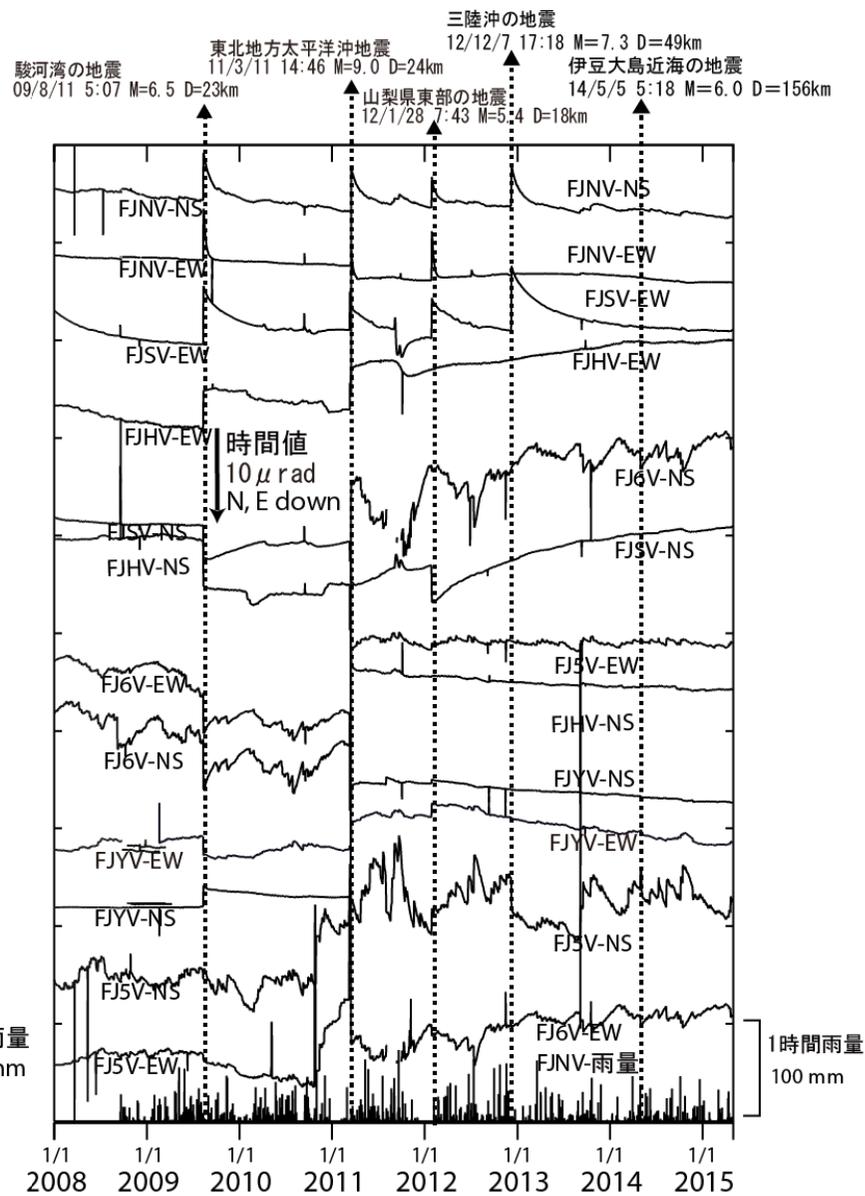
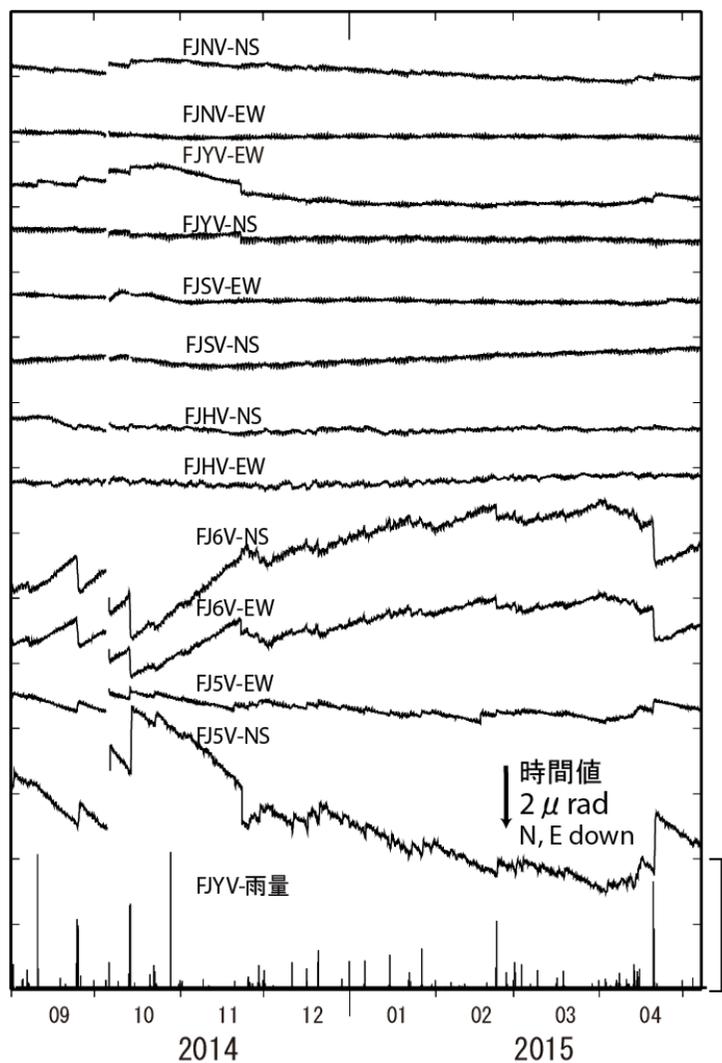


図 4 富士山周辺の積算地震回数

富士山の傾斜変動 (2014/09/01~2015/04/30)

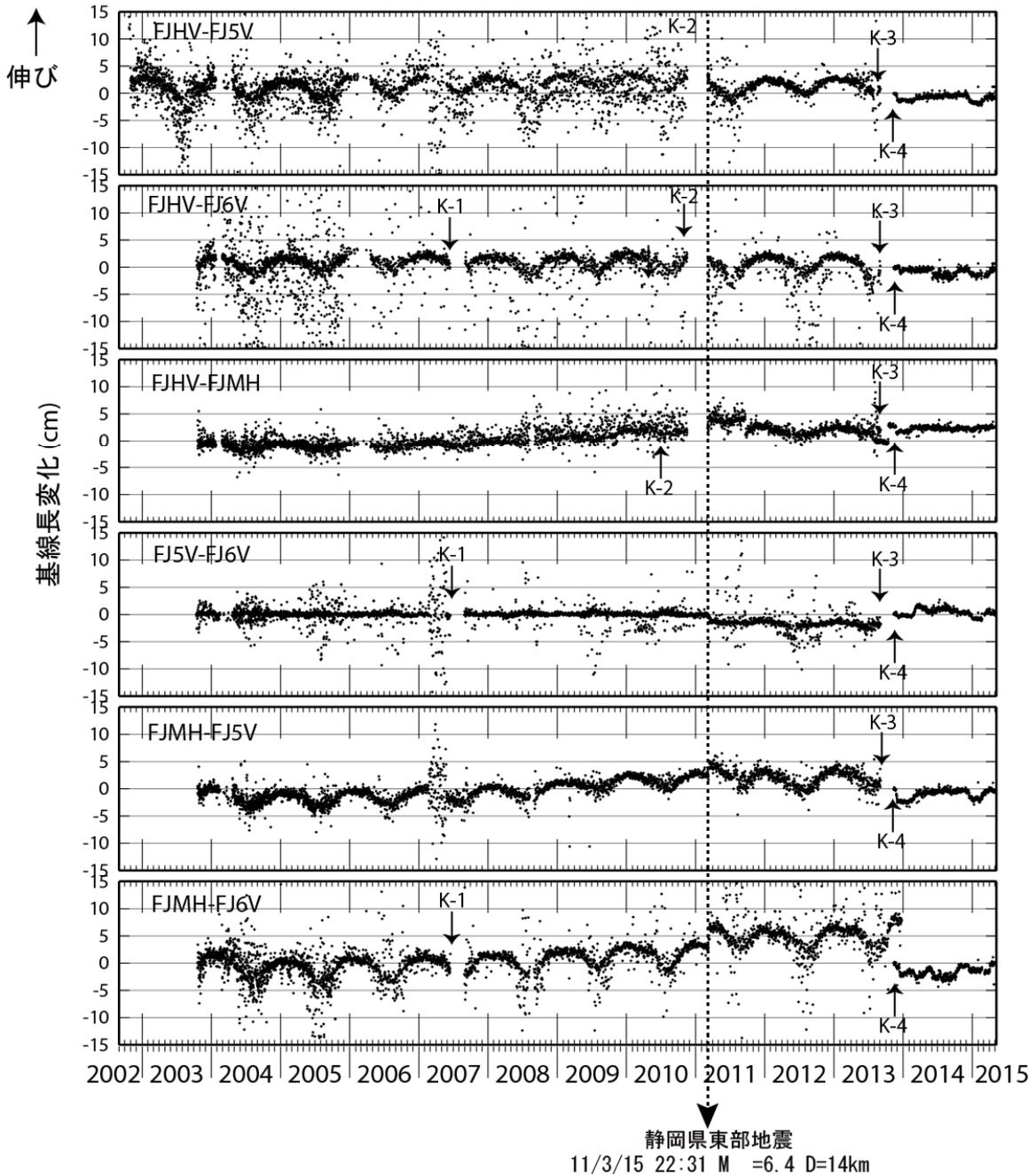
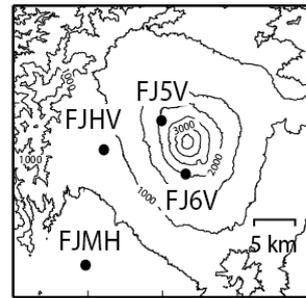
富士山の傾斜変動 (2008/1/1~2015/04/30)

図5 富士山の傾斜変動



富士山の GNSS 観測結果

基線長変化 (日平均値, 2002/10/24~2015/05/07)



2007年2月22日-5月26日の間、FJ5はデータ異常。
 地図の作成にあたっては、国土地理院発行の数値地図50mメッシュ(標高)を使用した。

図6 富士山のGNSS観測結果

表1 GNSS観測履歴

観測点番号	観測点名	図中記号	日付	保守内容
0616	富士第5 (FJ5V)		2002/10/24	観測開始
			2002/11/1	アンテナ大幅移動
			2007/2/22	解析結果にばらつき
			2007/5/31	センサーリセット
		K-3	2013/9/4~	通信障害の為、欠測
		K-4	2013/11/13	2周波観測開始
0615	富士広見 (FJHV)		2002/10/24	観測開始
			2002/11/1	アンテナ大幅移動
		K-2	2010/11/18~2011/3/5	欠測
			2011/3/5	アンテナ交換 (アンテナID0615→0811へ変更)
			2011/4/2	修理済みのアンテナへ交換
		K-3	2013/9/5~	通信障害の為、欠測
			2013/8/2	2周波機器設置
		K-4	2013/11/13	2周波観測開始
0770	富士第6 (FJ6V)		2002/10/16	観測開始
		K-1	2007/6/16~2007/8/30	欠測
			2007/6/27	バッテリーコントローラ故障
			2007/8/21	バッテリーコントローラ再設置
		K-4	2013/11/13	2周波観測開始
0777	富士富士宮 (FJMH)		2002/10/21	観測開始
			2008/8/9~2008/8/31	欠測
			2008/9/1	アンテナ交換
			2009/3/4	センサーリセット
	富士忍野 (FY1V)		2013/7/31	2周波機器設置
			2013/11/13	2周波観測開始
	富士吉原 (FJYV)		2013/11/13	2周波機器設置及び観測開始
			2015/1/25~2015/3/26	通信断
	富士須走 (FJSV)		2013/11/13	2周波機器設置及び観測開始

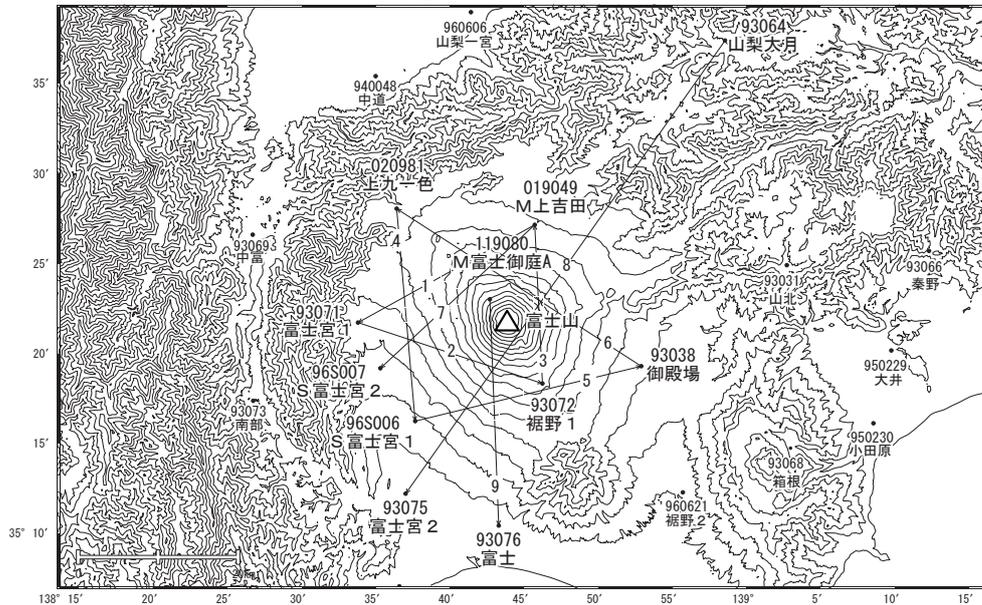
表2 富士山 2周波GNSS観測点位置

観測点番号	観測点名	緯度、経度	備考
0616	富士第5 (FJ5V)	35.3848N 138.6955E	
0615	富士広見 (FJHV)	35.3549N 138.6185E	
0770	富士第6 (Fj6V)	35.3302N 138.7276E	
	富士忍野 (FY1V)	35.4610N 138.8479E	同名の地震観測点(35.4557N 138.8242E) と位置は異なる
	富士吉原 (FJYV)	35.2833N 138.7181E	
	富士須走 (FJSV)	35.3658N 138.7782E	同名の地震観測点(35.3809N 138.8571E) と位置は異なる

富士山

富士山を囲む一部の基線では、2014年12月頃からわずかな伸びの傾向が見られます。2005年、2013年には伸びた後に縮んで元に戻りましたが、今回も同様の季節的な見かけの変化の可能性もあります。

富士山周辺GEONET(電子基準点等)による連続観測基線図



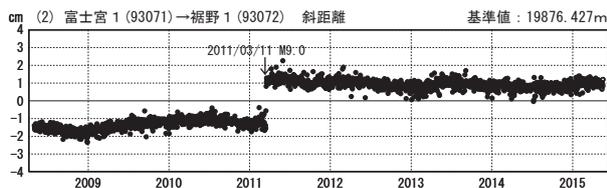
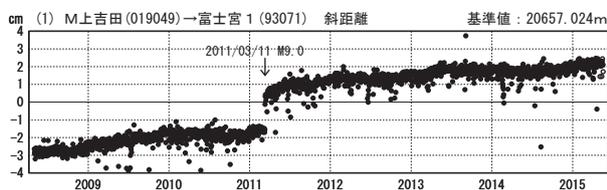
富士山周辺の各観測局情報

点番号	点名	日付	保守内容
93038	御殿場	20080108	レドーム閉閉・受信機交換
		20101101	周辺伐採
		20121112	アンテナ・受信機交換
93064	山梨大月	20070307	レドーム取り外し・再設置
		20081208	レドーム閉閉・受信機交換
		20100410	受信機交換
		20121112	アンテナ・受信機交換
93071	富士宮1	20100110	レドーム閉閉・受信機交換
		20121112	アンテナ交換
93072	裾野1	20121112	アンテナ・受信機交換
93075	富士宮2	20121112	アンテナ・受信機交換
		20140414	周辺伐採

点番号	点名	日付	保守内容
93076	富士	20080108	レドーム閉閉・受信機交換
		20121112	アンテナ・受信機交換
		20130613	受信機交換
019049	M上吉田	20100517	受信機交換
019053	M富士御庭A	20080502	除雪
		20080701	受信機交換
		20110928	移転(M富士御庭→M富士御庭A)
		20140909	アンテナ・受信機交換
020981	上九一色	20121212	アンテナ・受信機交換
96S006	S富士宮1	20120307	アンテナ交換
		20121113	受信機交換
		20150320	受信機交換
96S007	S富士宮2	20121113	アンテナ交換
		20150320	受信機交換

基線変化グラフ

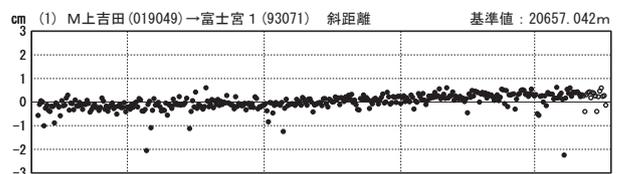
期間: 2008/05/01~2015/05/18 JST



●---[F3:最終解] ○---[R3:速報解]

基線変化グラフ

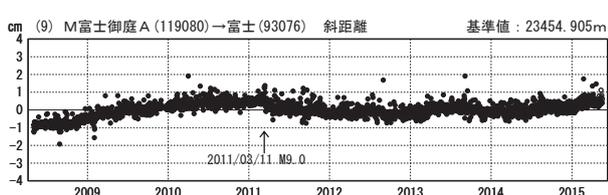
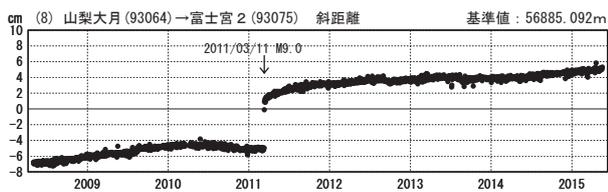
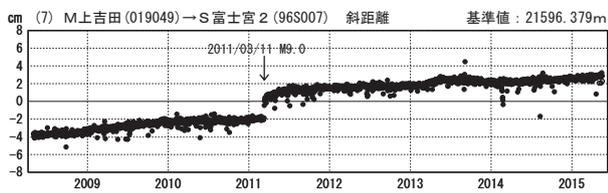
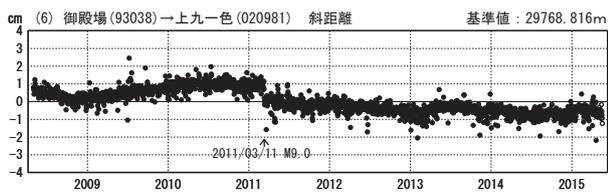
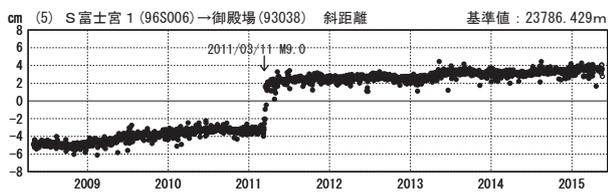
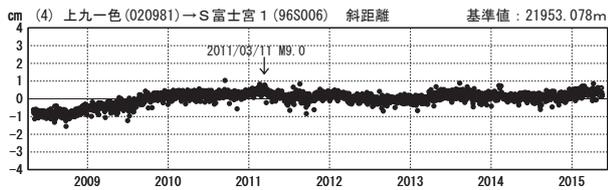
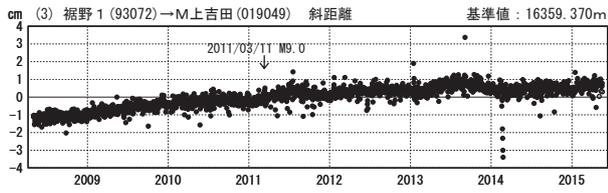
期間: 2014/05/01~2015/05/18 JST



※[R3:速報解]は暫定値、電子基準点の保守等による変動は補正済み

基線変化グラフ

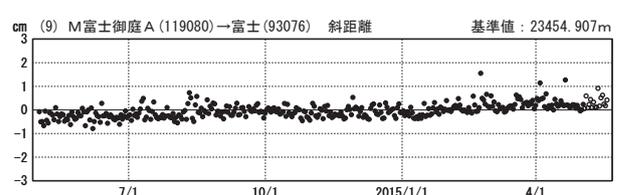
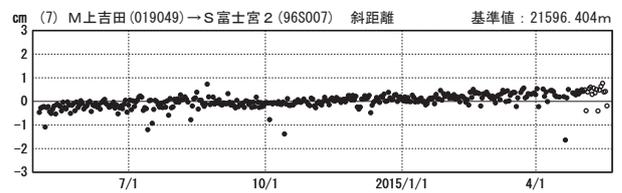
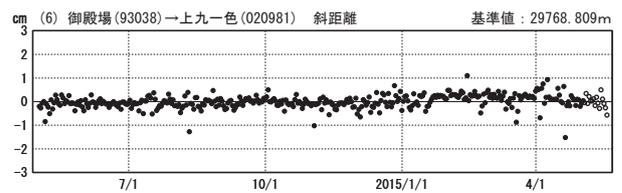
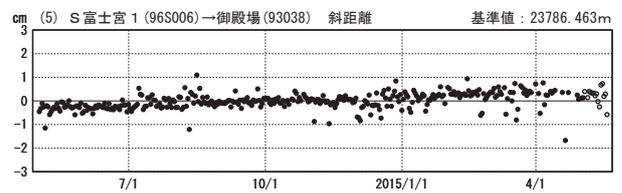
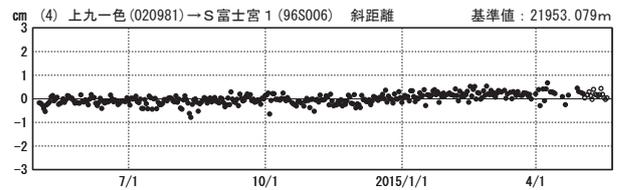
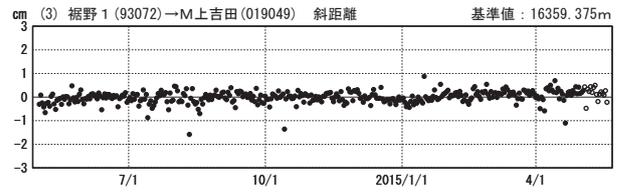
期間：2008/05/01～2015/05/18 JST



●—[F3:最終解] ○—[R3:速報解]

基線変化グラフ

期間：2014/05/01～2015/05/18 JST

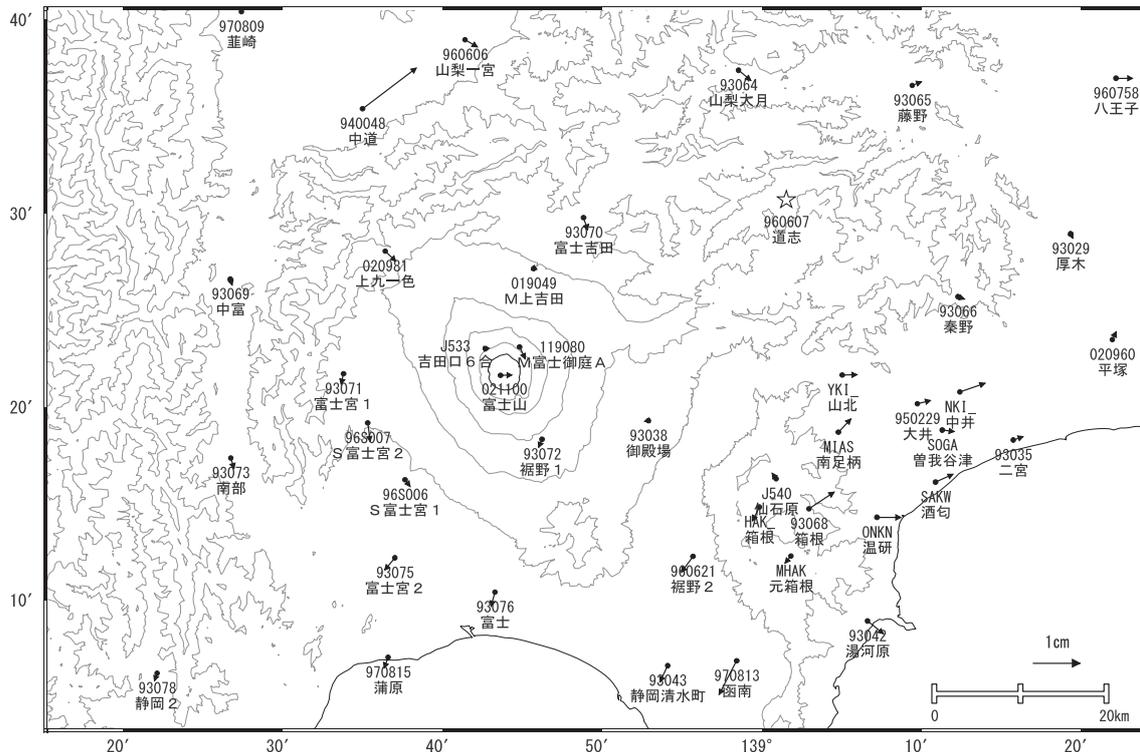


※[R3:速報解]は暫定値、電子基準点の保守等による変動は補正済み

富士山

富士山周辺の地殻変動(水平:3ヶ月)

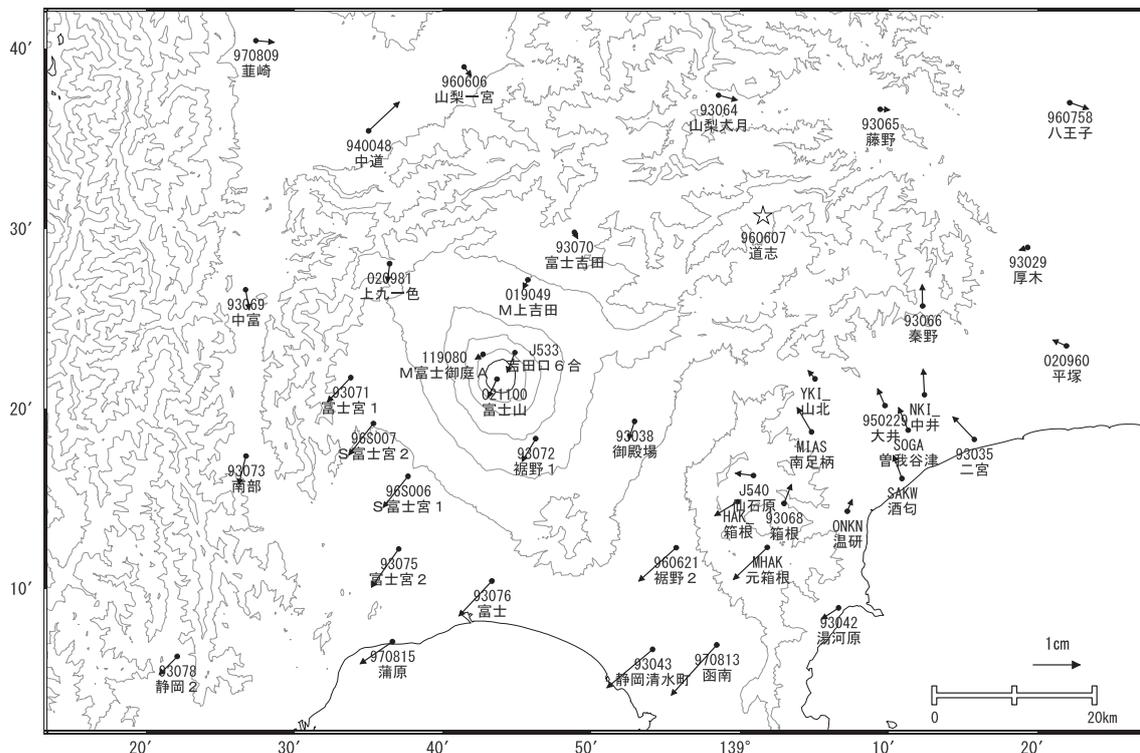
基準期間:2015/02/09~2015/02/18[F3:最終解]
比較期間:2015/05/09~2015/05/18[R3:速報解]



☆ 固定局:道志(960607)

富士山周辺の地殻変動(水平:1年)

基準期間:2014/05/09~2014/05/18[F3:最終解]
比較期間:2015/05/09~2015/05/18[R3:速報解]



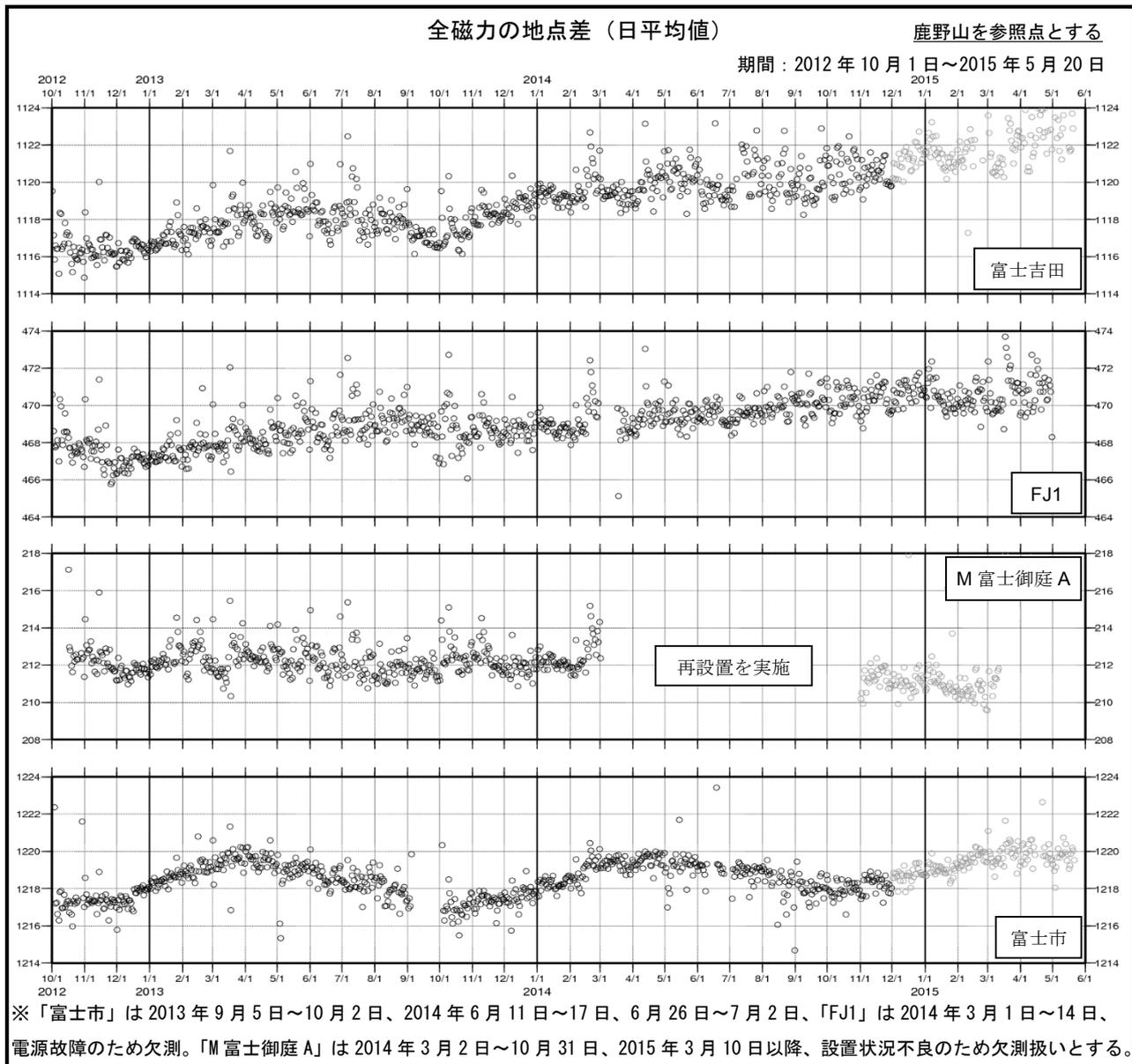
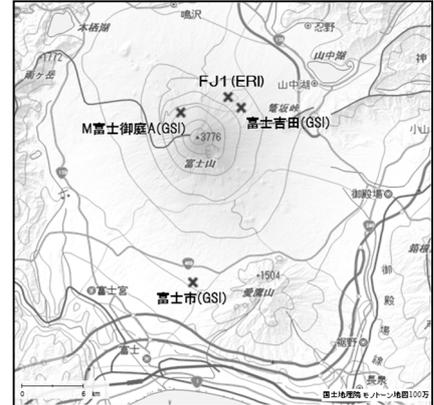
☆ 固定局:道志(960607)

※[R3:速報解]は暫定値、電子基準点の保守等による変動は補正済み

富士山における全磁力連続観測結果

富士山の火山活動に伴う地磁気の変化を把握するため、国土地理院では「富士吉田」観測点、「富士市」観測点、「M富士御庭A」観測点において、東京大学地震研究所では同様に「FJ1」観測点において全磁力連続観測を実施している。

下図に、房総半島に位置する国土地理院の観測所「鹿野山」を参照点とした単純な地点差（日平均）の推移を示す。グレーで示した2014年12月から2015年5月のデータは、ノイズの簡易修正のみ行った暫定値である。「富士吉田」、「富士市」に2013年4月から2014年4月をピークとして周期的な変化が見られるが、毎年同様の変化が見られており、年周変化と考えられる。「富士吉田」「FJ1」は年間2nT程度の増加が継続しているが、同じく山頂北側に設置したM富士御庭Aでは増加は確認されていないため、局所的な変化を捉えていると考えられ、2015年5月までの磁場の値には、全体としては特段の変化は見られない。



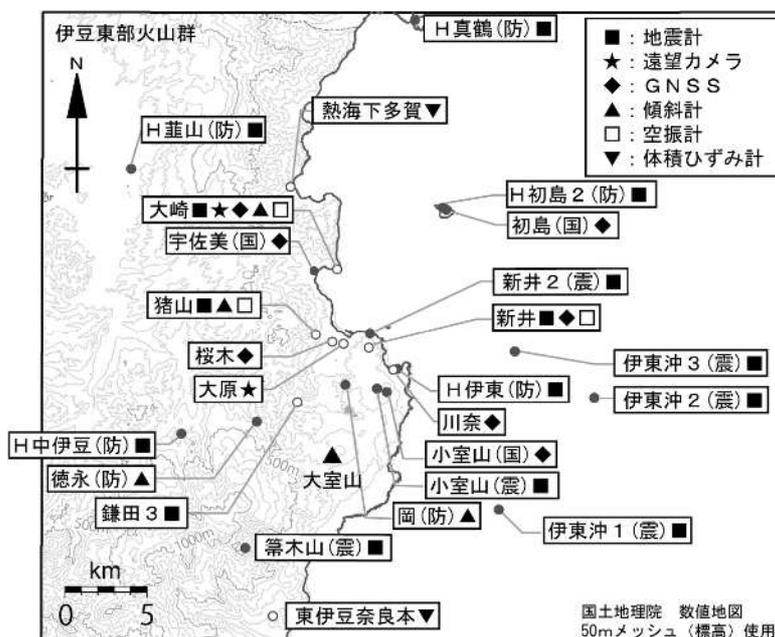
伊豆東部火山群 (2015年4月30日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

噴火予報(噴火警戒レベル1、活火山であることに留意)の予報事項に変更はない。

概況(2015年2月~2015年4月30日)

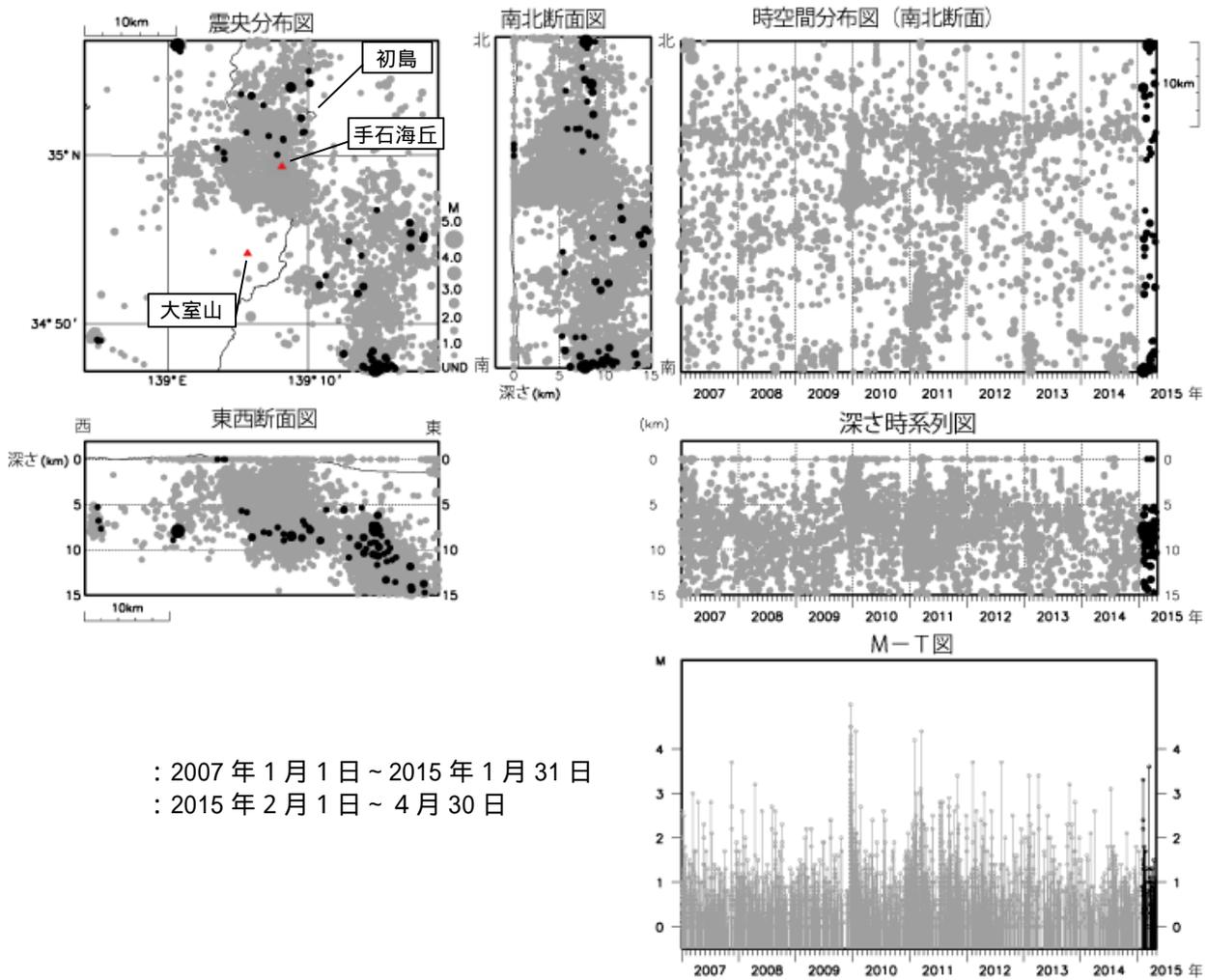
- ・噴煙などの表面現象
伊東市に設置している遠望カメラでは、噴煙などの表面現象は認められなかった。
- ・地震活動(第2図~第4図)
今期間、伊豆東部地方を震源とする地震活動は、低調に推移した。
火山性微動や低周波地震は観測されなかった。
- ・地殻変動(第5図、第6図-1~2、第7図)
傾斜計及びGNSSによる地殻変動観測では、火山活動によるとみられる変動は認められなかった。



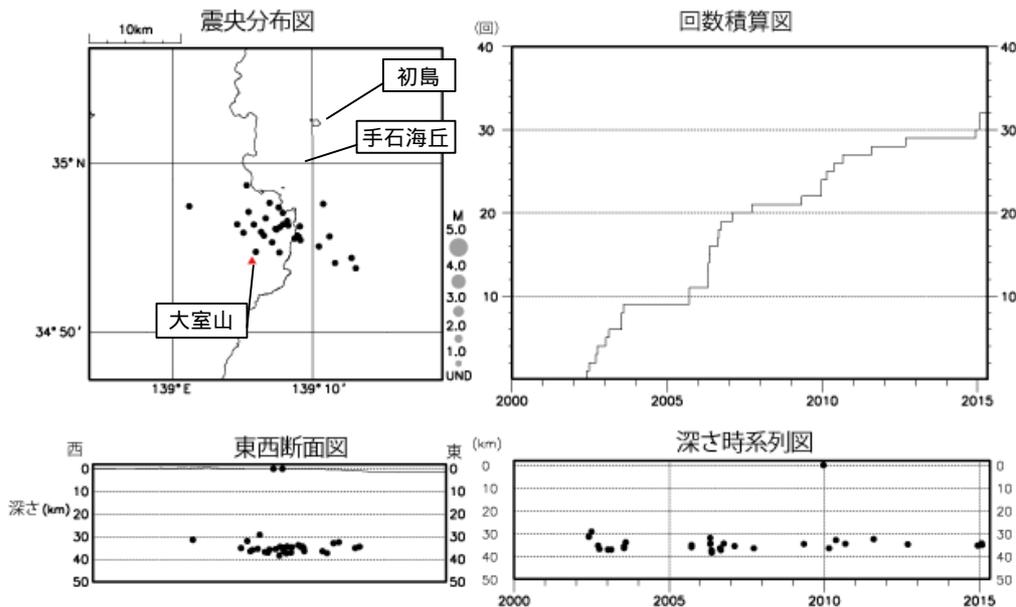
第1図 伊豆東部火山群 観測点配置図

小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示す。
(国): 国土地理院、(防): 防災科学技術研究所、(震): 東京大学地震研究所
この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 25000(行政界・海岸線)』および『数値地図 50mメッシュ(標高)』を使用した。

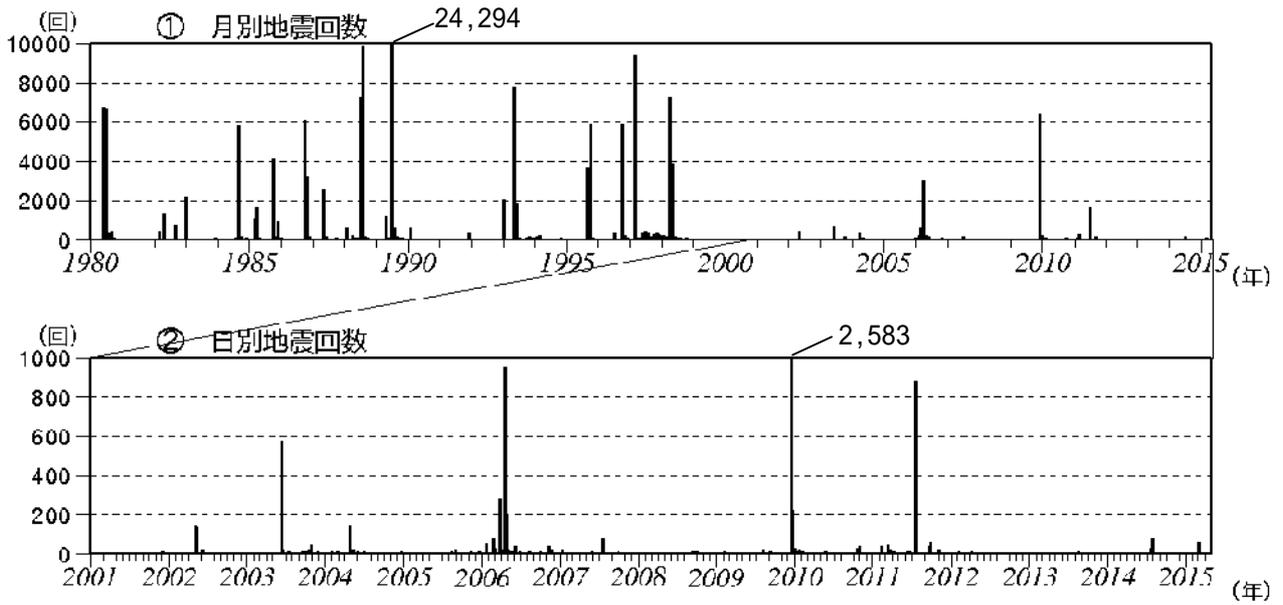
この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成した。



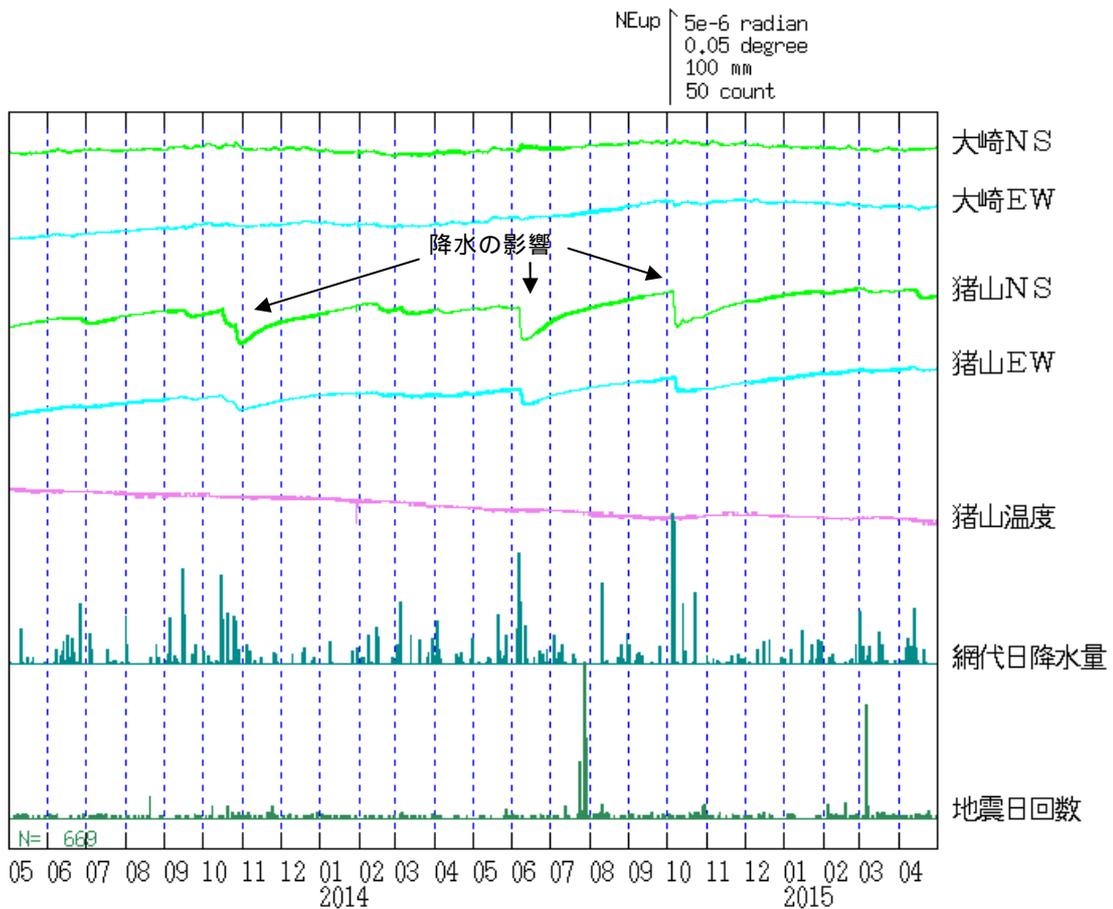
第 2 図 伊豆東部火山群 一元化震源による地震活動の推移 (2007 年 1 月 1 日 ~ 2015 年 4 月 30 日)
 今期間、地震活動は概ね低調に経過した。
 この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 25000 (行政界・海岸線)』を使用した。



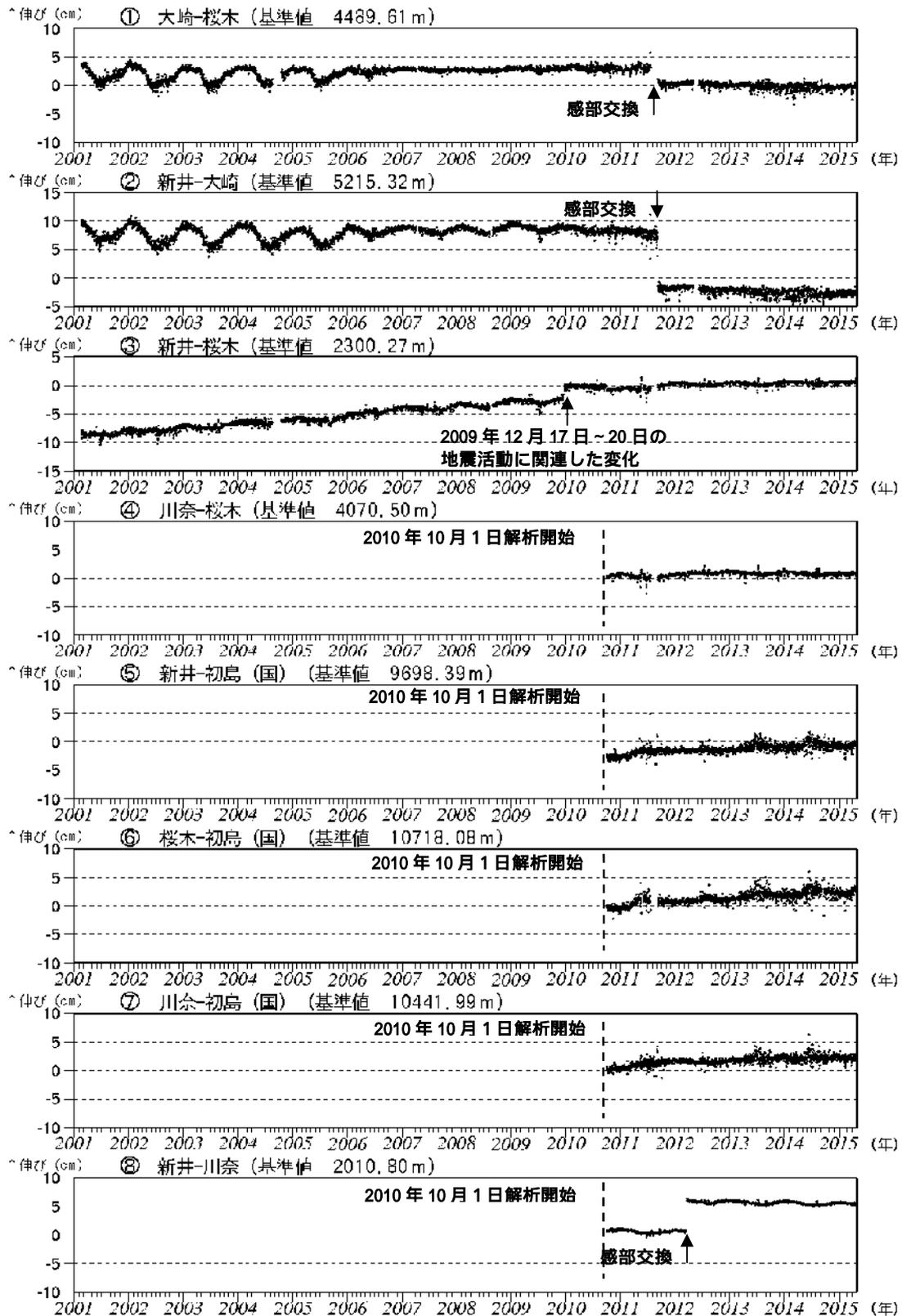
第 3 図 伊豆東部火山群 一元化震源による深部低周波地震の発生状況 (2000 年 1 月 1 日 ~ 2015 年 4 月 30 日)
 この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 25000 (行政界・海岸線)』を使用した。



第 4 図 伊豆東部火山群 日別地震回数 (1980 年 1 月 1 日 ~ 2015 年 4 月 30 日)
 鎌田 2 地震観測点による日別地震回数 (1980 年 1 月 1 日 ~ 2012 年 6 月 19 日)
 鎌田 3 地震観測点による日別地震回数 (2012 年 7 月 24 日 ~)
 今期間、地震活動は低調に経過した。



第 5 図 伊豆東部火山群 大崎及び猪山観測点における傾斜変動
 (2013 年 5 月 1 日 ~ 2015 年 4 月 30 日、時間値、いずれも潮汐補正済み)
 今期間、火山活動によると見られる傾斜変動は認められなかった。
 グラフの空白は欠測を示す。



第 6 - 1 図 伊豆東部火山群 GNSS 連続観測による基線長変化 (2001 年 1 月 ~ 2015 年 4 月 30 日)

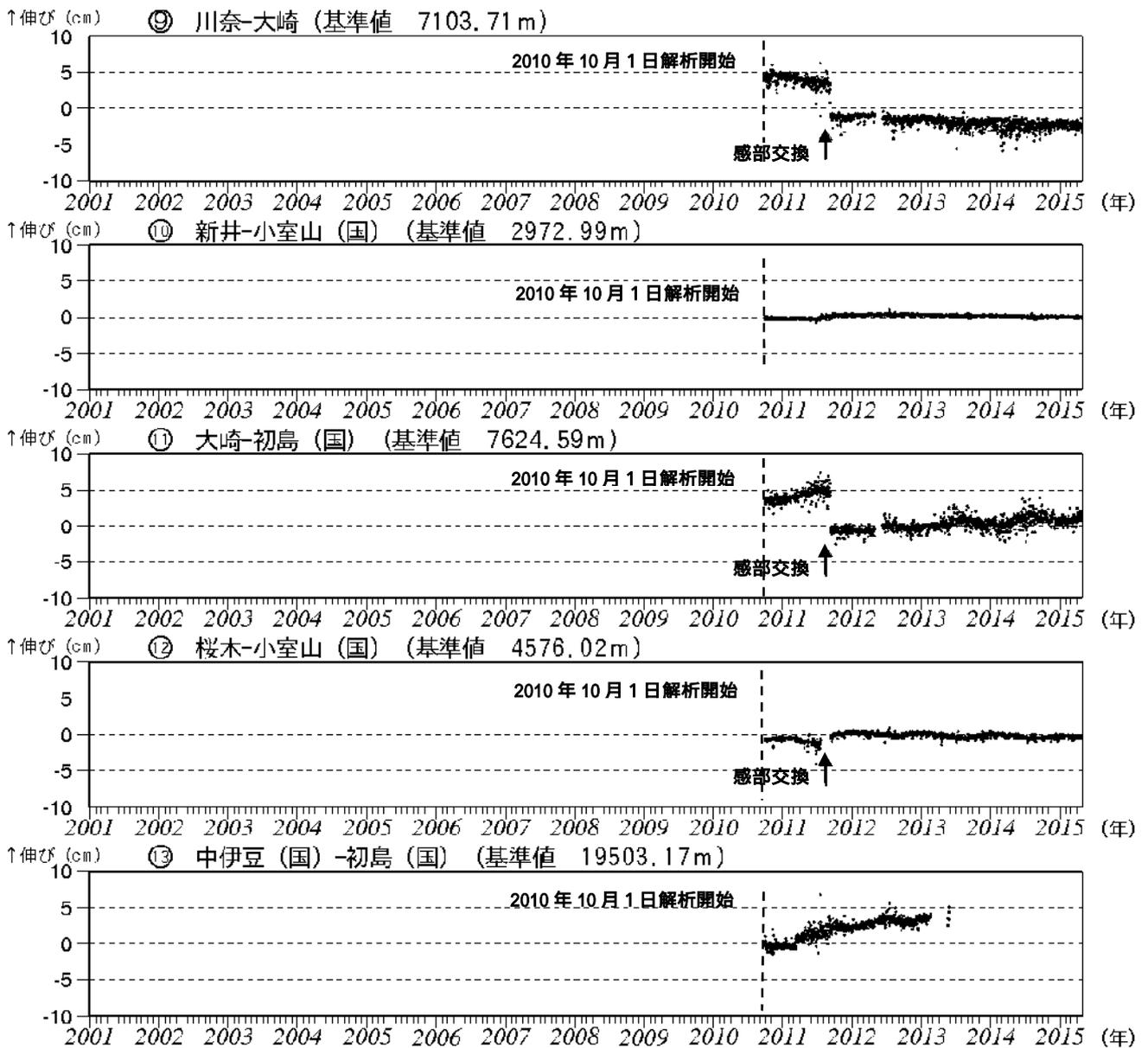
(観測開始は 2001 年 3 月) (国): 国土地理院

今期間、火山活動によるとみられる地殻変動は認められなかった。

2010 年 10 月以降のデータについては解析方法を改良し、対流圏補正と電離層補正を行っている。

2006 年までにみられる年周変化は見かけの変化であり、火山活動に伴うものではない。

~ は第 7 図の GNSS 基線 ~ に対応。グラフの空白は欠測を示す。

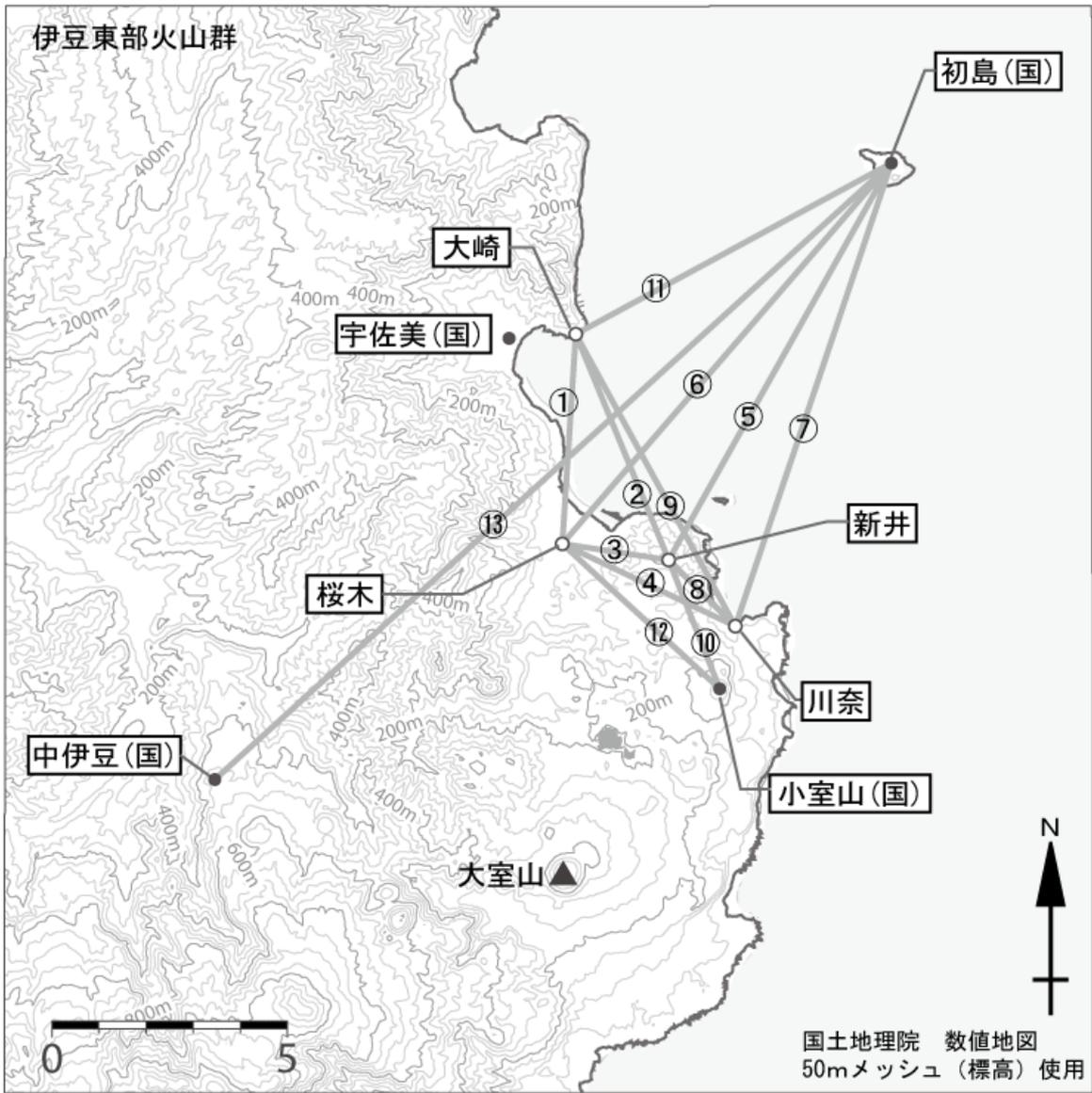


第 6 - 2 図 伊豆東部火山群 GNSS 連続観測による基線長変化(2001 年 1 月 ~ 2015 年 4 月 30 日)
 (観測開始は 2001 年 3 月) (国): 国土地理院

今期間、火山活動によるとみられる地殻変動は認められなかった。

2010 年 10 月以降のデータについては解析方法を改良し、対流圏補正と電離層補正を行っている。

~ は第 7 図の GNSS 基線 ~ に対応。グラフの空白は欠測を示す。



第 7 図 伊豆東部火山群 GNSS 観測点及び基線配置

小さな白丸 () は気象庁、小さな黒丸 () は気象庁以外の機関の観測点位置を示す。

(国): 国土地理院

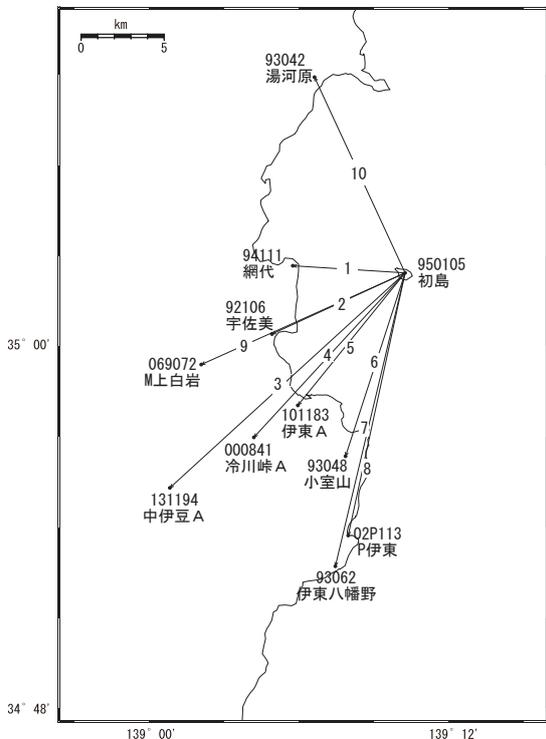
図中の GNSS 基線 ~ は第 6 図の ~ に対応する。

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 25000 (行政界・海岸線)』および『数値地図 50 mメッシュ (標高)』を使用した。

伊豆東部火山群

GNSS連続観測結果には特段の変化は見られません。

伊豆東部火山群周辺GEONET(電子基準点等)による連続観測基線図

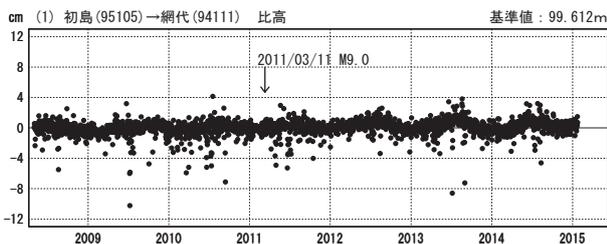
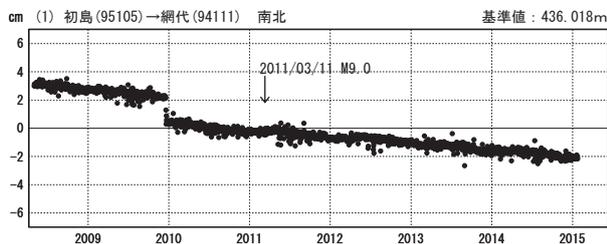
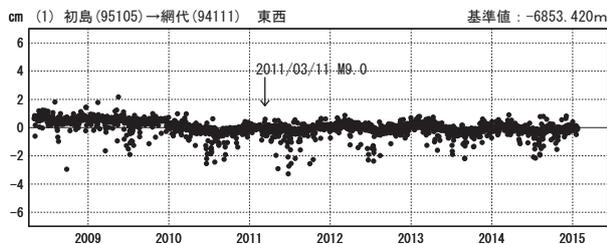


伊豆東部火山群周辺の各観測局情報

点番号	点名	日付	保守内容
92106	宇佐美	20100110	レドーム開閉・受信機交換
		20121212	アンテナ交換
131194	中伊豆A	20080119	レドーム開閉・受信機交換
		20121205	アンテナ・受信機交換
		20130711	移転(中伊豆→中伊豆A)
000841	冷川峠A	20080108	レドーム開閉・受信機交換
		20080508	アンテナ交換
		2012/2下~3上	周辺伐採
		20121012	アンテナ・受信機交換
101183	伊東A	20080918	アンテナ交換
		20100121	レドーム開閉・受信機交換
		20111101	移転(伊東→伊東A)
		20121012	アンテナ交換
		20130614	受信機交換
		20130702	受信機交換
93048	小室山	20121212	アンテナ・受信機交換
93062	伊東八幡野	20060707	周辺伐採
		20101027	周辺伐採
		20110111	レドーム開閉・レドーム拭き取り
		20121205	アンテナ交換
02P113	P伊東	20100929	アンテナ・受信機交換
93042	湯河原	20090224	受信機交換
		20121211	アンテナ・受信機交換
95105	初島	20090717	周辺伐採
		20101210	レドーム開閉・受信機交換
		20120912	アンテナ交換
94111	網代	20150303	撤去

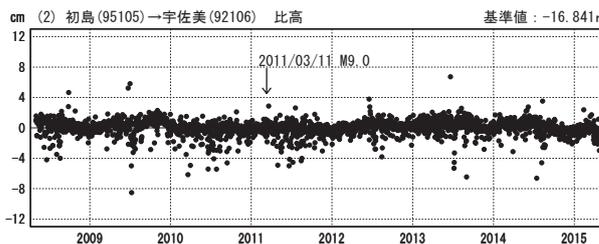
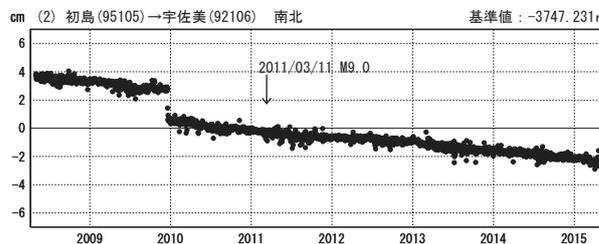
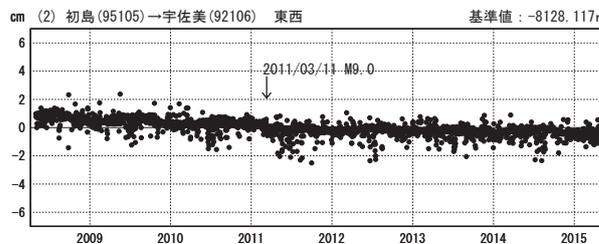
成分変化グラフ

期間: 2008/05/01~2015/05/18 JST



成分変化グラフ

期間: 2008/05/01~2015/05/18 JST



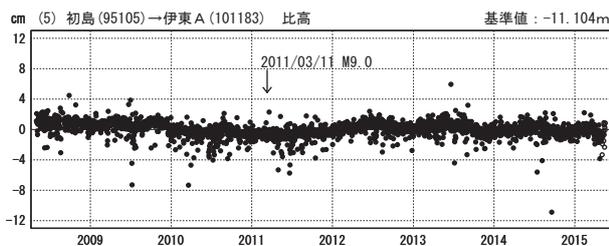
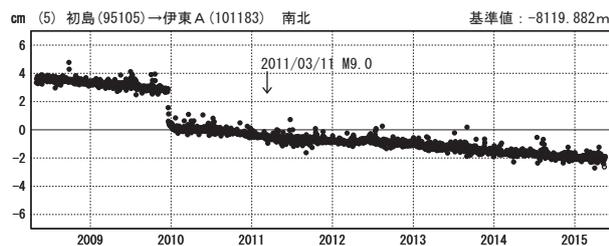
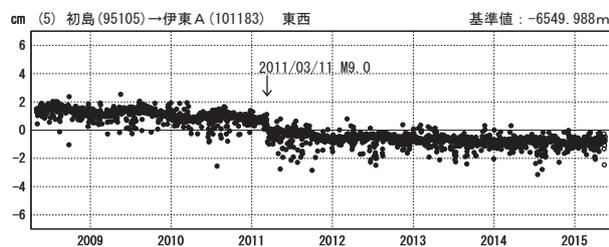
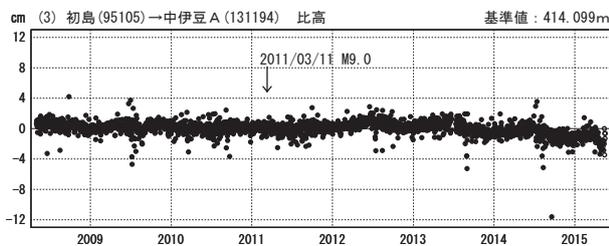
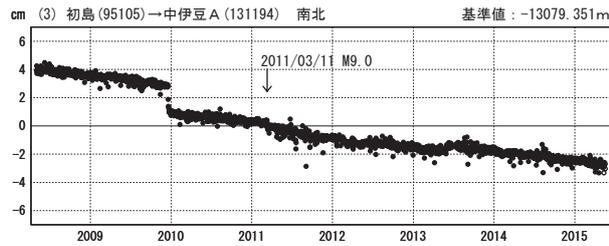
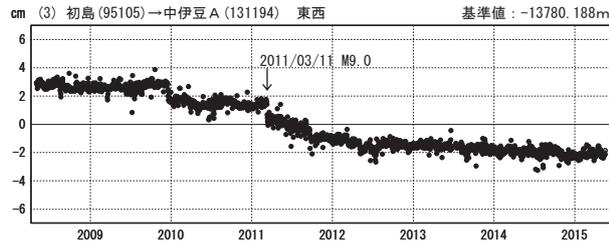
●—[F3:最終解] ○—[R3:速報解]

※[R3:速報解]は暫定値、電子基準点の保守等による変動は補正済み

伊豆東部火山群

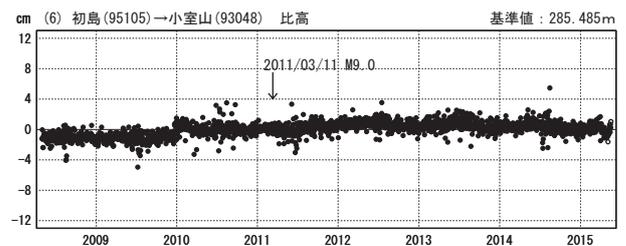
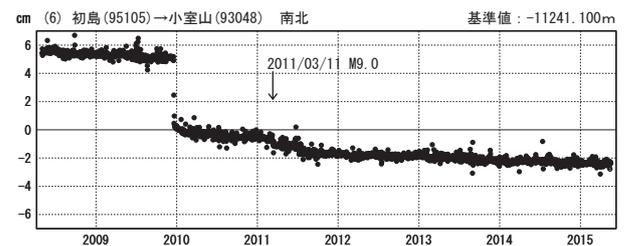
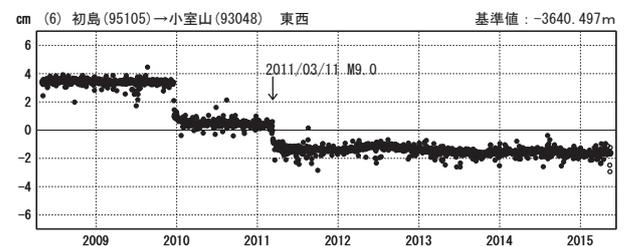
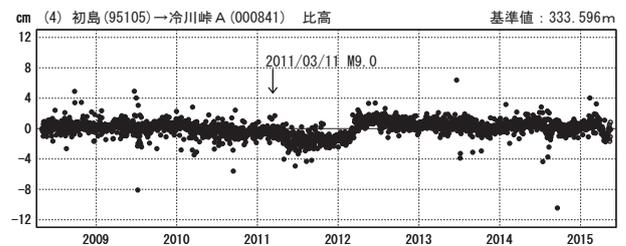
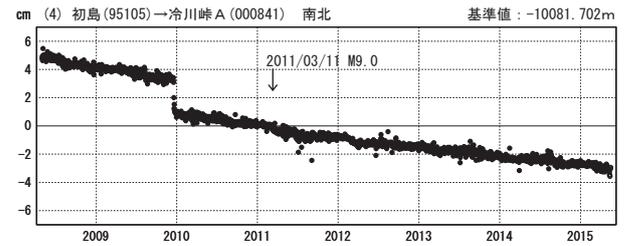
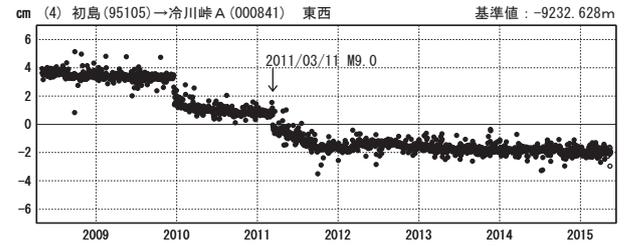
成分変化グラフ

期間：2008/05/01～2015/05/18 JST



成分変化グラフ

期間：2008/05/01～2015/05/18 JST



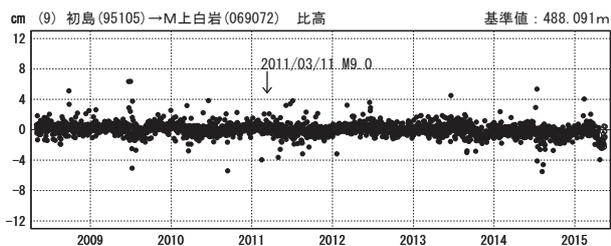
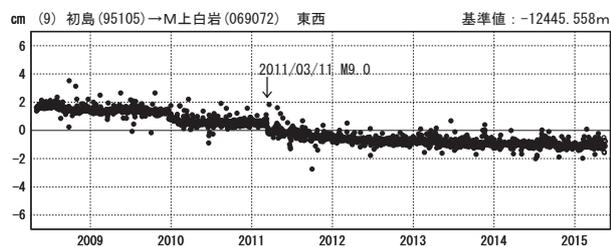
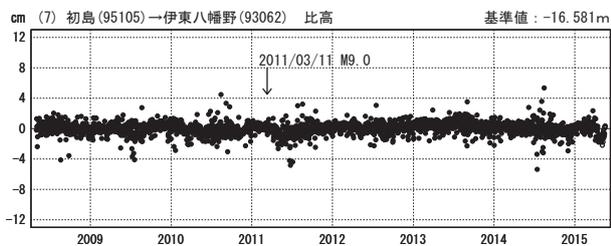
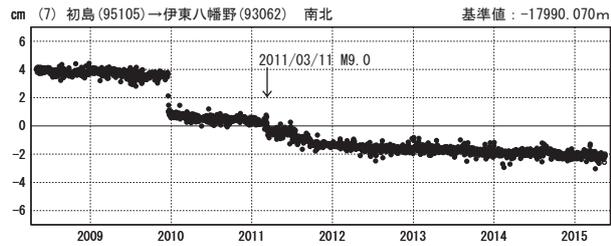
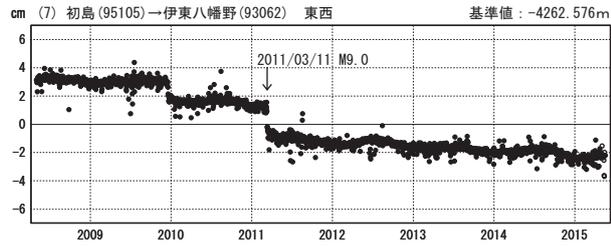
●—[F3:最終解] ○—[R3:速報解]

※[R3:速報解]は暫定値、電子基準点の保守等による変動は補正済み

伊豆東部火山群

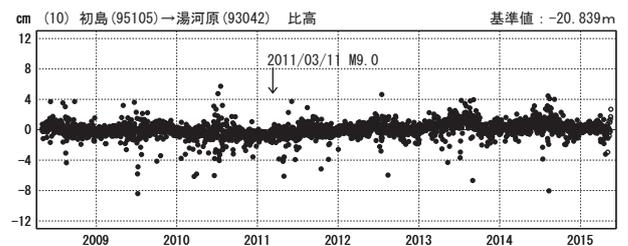
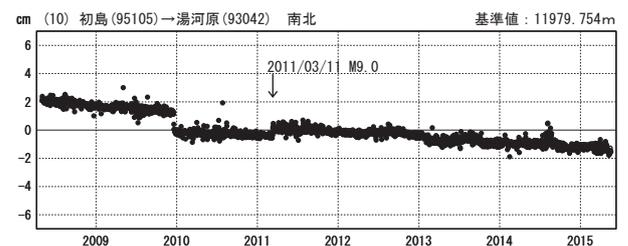
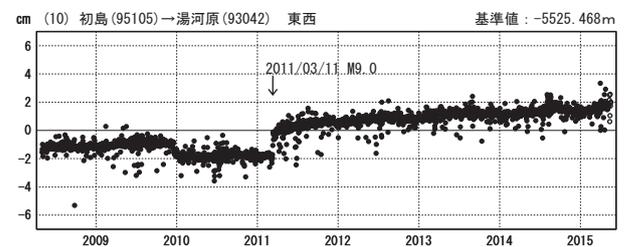
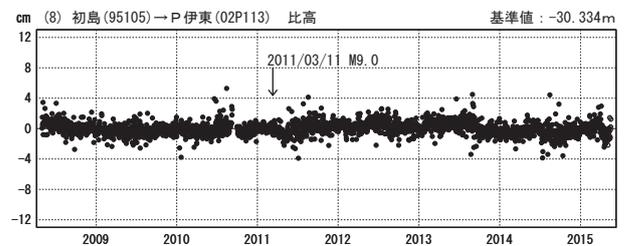
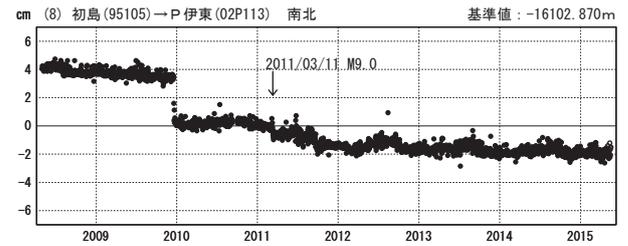
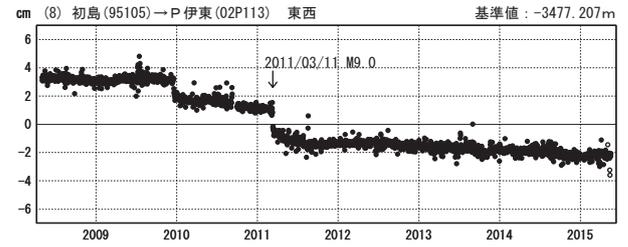
成分変化グラフ

期間：2008/05/01～2015/05/18 JST



成分変化グラフ

期間：2008/05/01～2015/05/18 JST



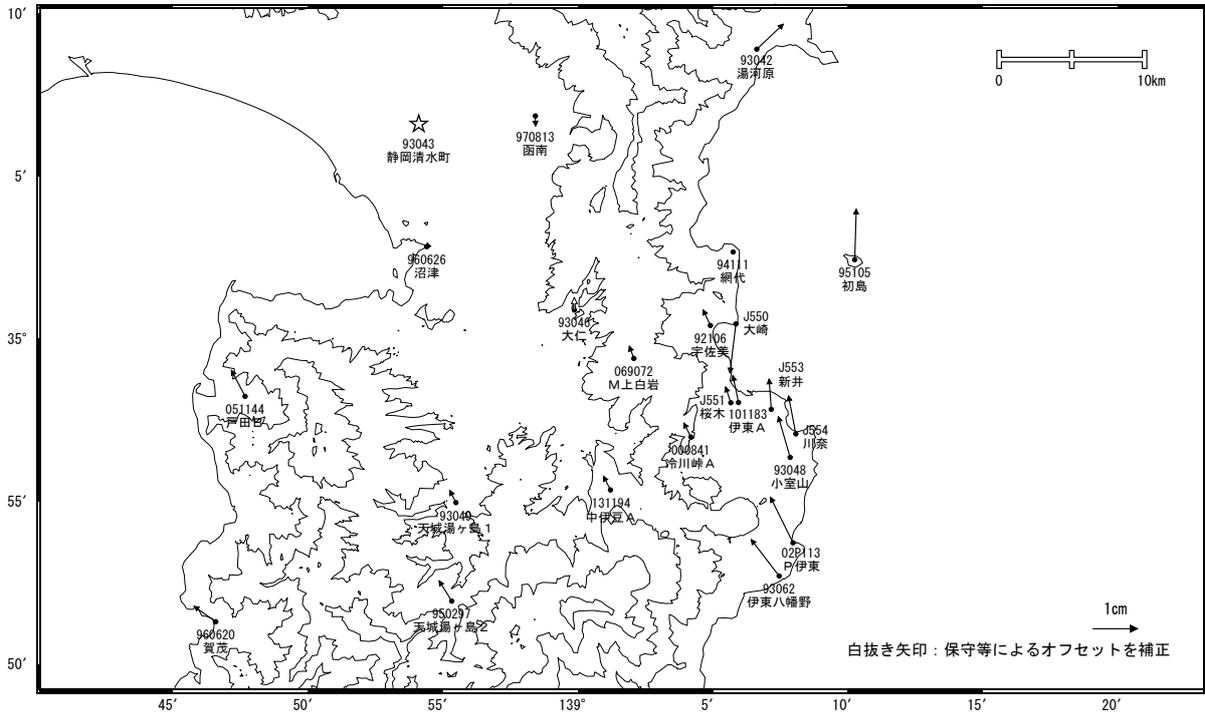
●—[F3:最終解] ○—[R3:速報解]

※[R3:速報解]は暫定値、電子基準点の保守等による変動は補正済み

伊豆東部火山群

伊豆東部火山群周辺の地殻変動(水平:1年)

基準期間:2014/05/09~2014/05/18[F3:最終解]
 比較期間:2015/05/09~2015/05/18[R3:速報解]



☆ 固定局:静岡清水町(93043)

※[R3:速報解]は暫定値、電子基準点の保守等による変動は補正済み

「だいち2号」SAR干渉解析判読結果（関東・中部地方）

地方	活火山名	衛星進行方向 (南行/北行)	Bperp (m)	観測方向 (右/左)	入射角(°)	観測日		期間(日)	判読結果	資料の有無
						マスター	スレーブ			
関東・中部地方	那須岳	北行	+ 26	右観測	32.4	2014/9/9	2015/2/24	168	干渉不良により有意な結果は得られなかった。	
		北行	- 10	右観測	39.7	2015/2/15	2015/4/12	56	干渉不良により有意な結果は得られなかった。	
	高原山	北行	- 10	右観測	39.7	2015/2/15	2015/4/12	56	干渉不良により有意な結果は得られなかった。	
	榛名山	北行	- 77	右観測	32.6	2014/12/21	2015/3/1	70	干渉不良により有意な結果は得られなかった。	
		北行	- 13	右観測	43.1	2014/12/12	2015/4/17	126	ノイズレベルを超える変動は見られない。	
	草津白根山	北行	- 13	右観測	43.1	2014/12/12	2015/4/17	126	干渉不良により有意な結果は得られなかった。	
		北行	- 77	右観測	32.6	2014/12/21	2015/3/1	70	干渉不良により有意な結果は得られなかった。	
	浅間山	北行	- 77	右観測	32.6	2014/12/21	2015/3/1	70	ノイズレベルを超える変動は見られない。	
		北行	- 13	右観測	43.1	2014/12/12	2015/4/17	126	ノイズレベルを超える変動は見られない。	
	横岳	北行	+ 178	右観測	39.9	2014/9/19	2015/4/3	196	ノイズの影響が大きく有意な結果は得られなかった。	
	新潟焼山	北行	+ 178	右観測	39.9	2014/9/19	2015/4/3	196	干渉不良により有意な結果は得られなかった。	
	妙高山	北行	+ 178	右観測	39.9	2014/9/19	2015/4/3	196	干渉不良により有意な結果は得られなかった。	
	弥陀ヶ原	北行	+ 210	右観測	39.4	2014/8/22	2015/3/6	196	干渉不良により有意な結果は得られなかった。	
	焼岳	北行	+ 210	右観測	36.4	2014/8/22	2015/3/6	196	干渉不良により有意な結果は得られなかった。	
	アカンダナ山	北行	+ 210	右観測	36.4	2014/8/22	2015/3/6	196	干渉不良により有意な結果は得られなかった。	
	乗鞍岳	北行	+ 210	右観測	36.4	2014/8/22	2015/3/6	196	干渉不良により有意な結果は得られなかった。	
	御嶽山	北行	+ 210	右観測	36.4	2014/8/22	2015/3/6	196	干渉不良により有意な結果は得られなかった。	
	白山	北行	- 30	右観測	32.6	2014/8/8	2015/2/20	196	干渉不良により有意な結果は得られなかった。	
	富士山	北行	- 77	右観測	32.6	2014/12/21	2015/3/1	70	ノイズレベルを超える変動は見られない。	
		北行	- 13	右観測	43.1	2014/12/12	2015/4/17	126	ノイズレベルを超える変動は見られない。	
箱根山	北行	- 77	右観測	32.6	2014/12/21	2015/3/1	70	ノイズレベルを超える変動は見られない。	○	
	北行	- 13	右観測	43.1	2014/12/12	2015/4/17	126	ノイズレベルを超える変動は見られない。		
	南行	+ 230	右観測	43.0	2014/10/9	2015/5/7	210	箱根山大涌谷周辺では、衛星に近づく変動が見られる。		
	北行	+ 20	右観測	33.3	2015/3/1	2015/5/10	70	箱根山大涌谷周辺では、衛星に近づく変動が見られる。		
	北行	- 159	右観測	43.0	2015/4/17	2015/5/15	28	箱根山大涌谷周辺では、衛星に近づく変動が見られる。		
	南行	- 149	右観測	43.0	2015/5/7	2015/5/21	14	箱根山大涌谷周辺では、衛星に近づく変動が見られる。		
	南行	+ 83	右観測	42.9	2014/10/9	2015/5/21	224	箱根山大涌谷周辺では、衛星に近づく変動が見られる。		
	北行	- 45	右観測	33.3	2015/5/10	2015/5/24	14	箱根山大涌谷周辺では、衛星に近づく変動が見られる。		
伊豆東部火山群	北行	- 77	右観測	32.6	2014/12/21	2015/3/1	70	ノイズレベルを超える変動は見られない。		
	北行	- 13	右観測	43.1	2014/12/12	2015/4/17	126	ノイズレベルを超える変動は見られない。		

は「だいち2号」で重点観測を実施している火山